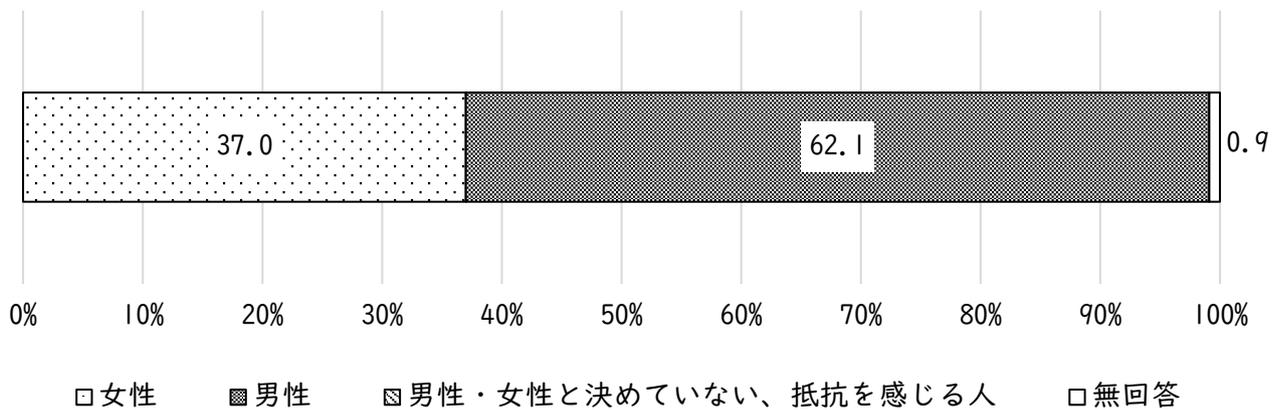


## Ⅱ.調査の結果

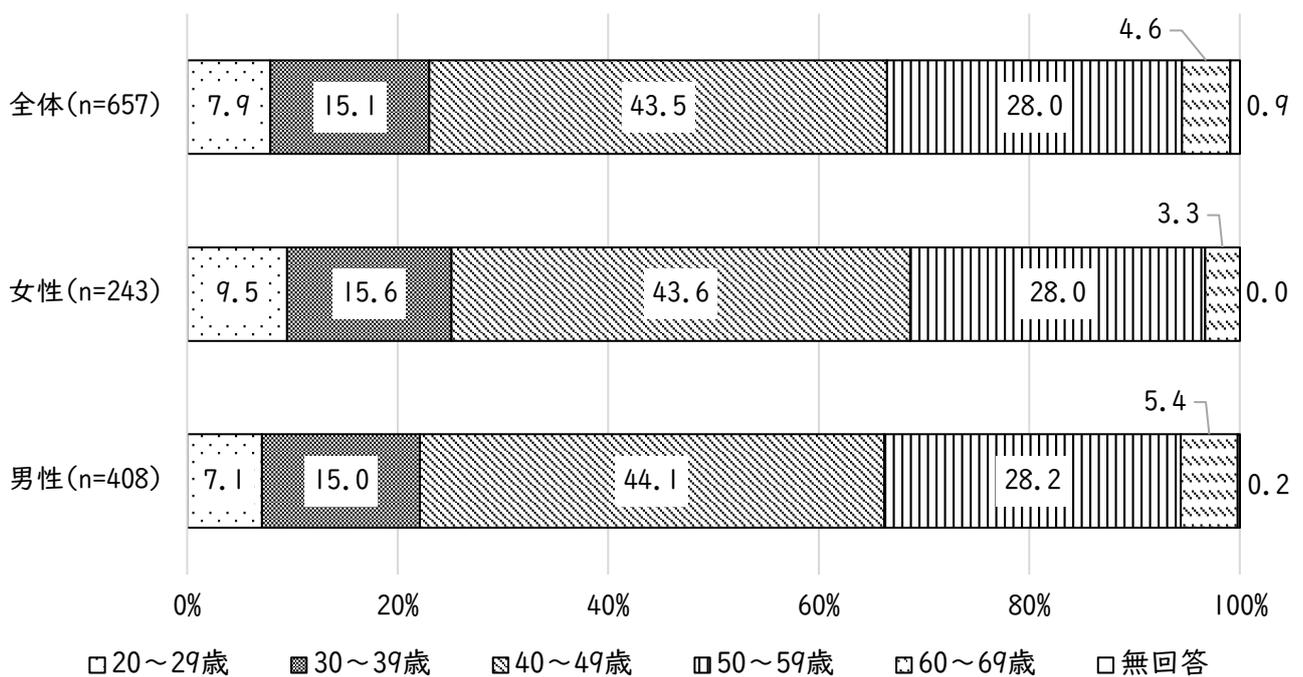
### 1.回答者の属性

問 1.性別(自認している性別)

有効回収数657人の内、「女性」37.0%(243人)、「男性」62.1%(408人)、「男性・女性と決めていない、抵抗を感じる人」0.0%(0人)、「無回答」0.9%(6人)

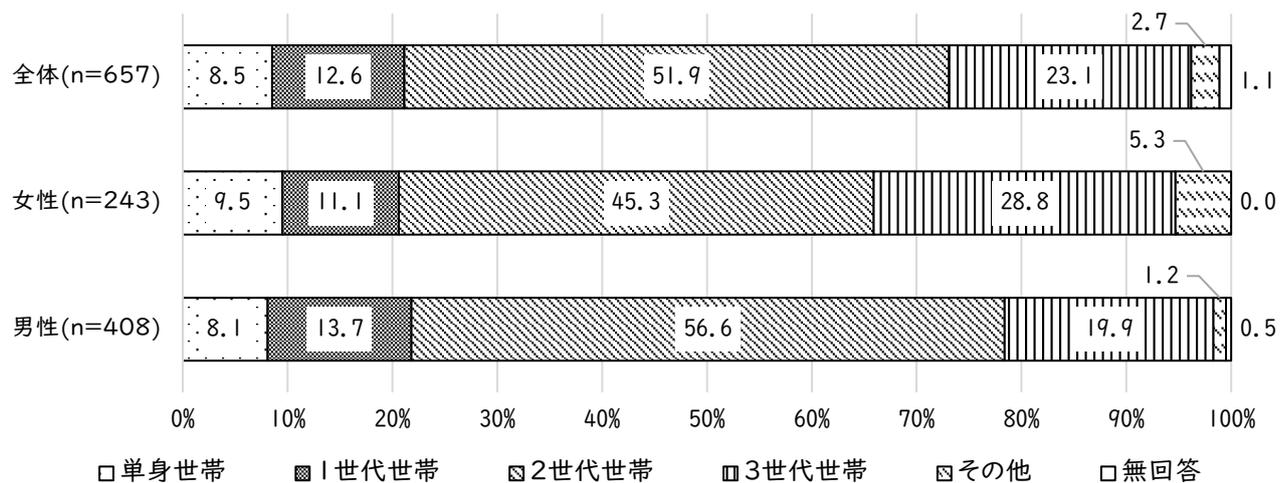


問 2.年代

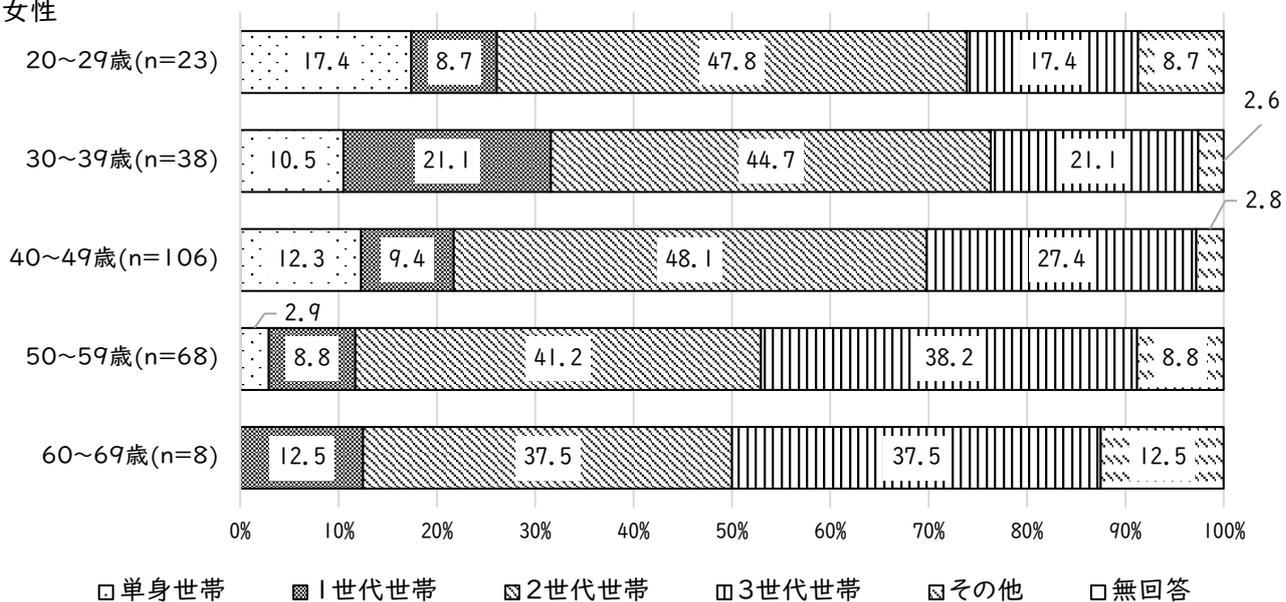


問 1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.9%(6人)は除いています。

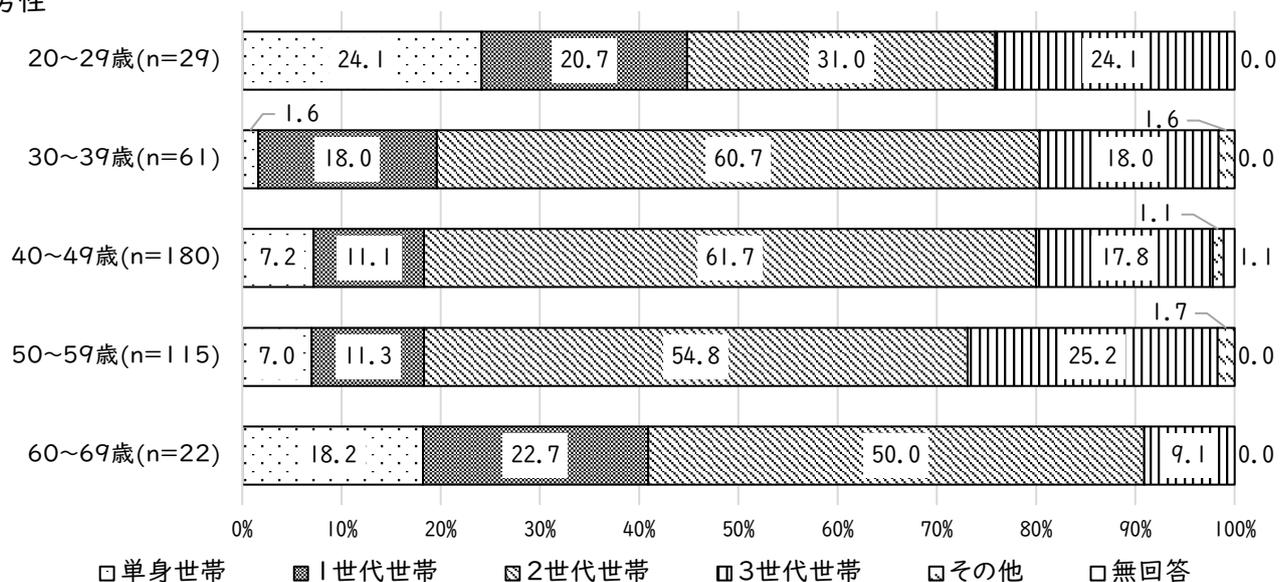
### 問3.家族構成



#### 女性

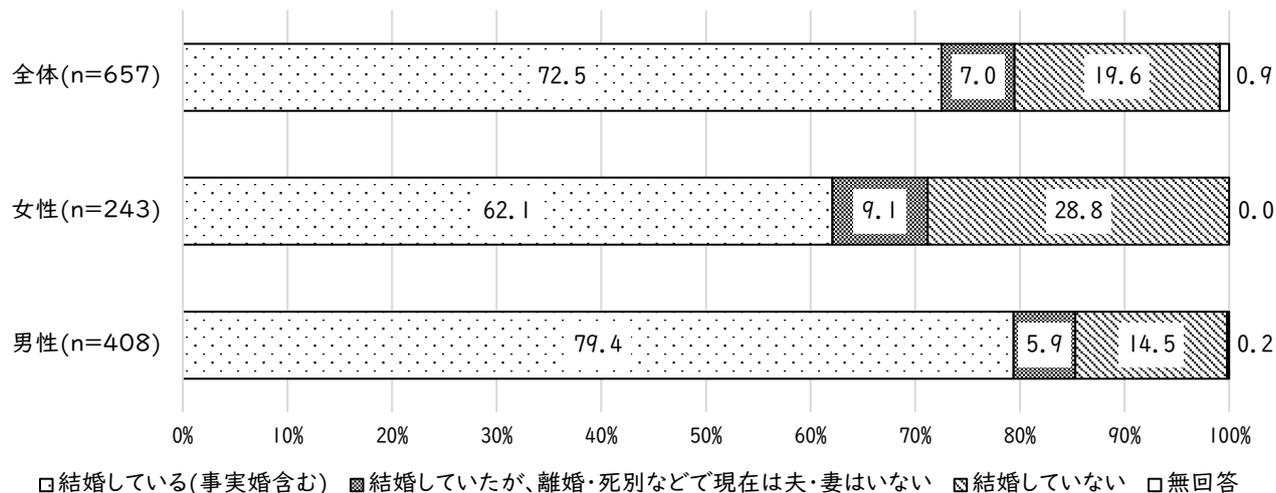


#### 男性

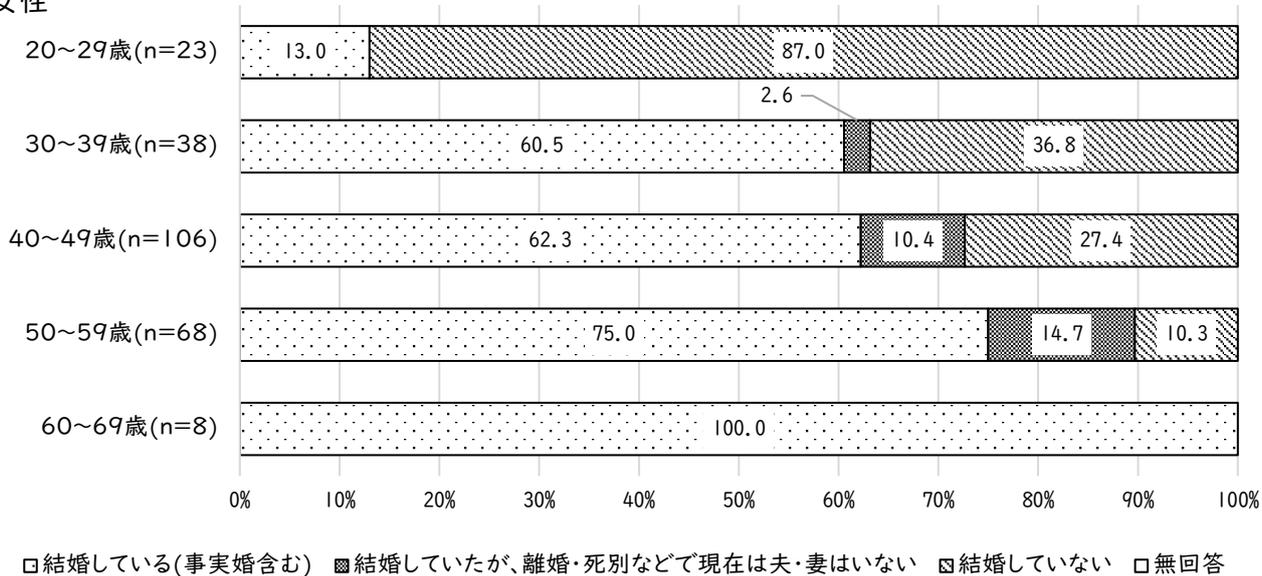


問1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.9%(6人)は除いています。

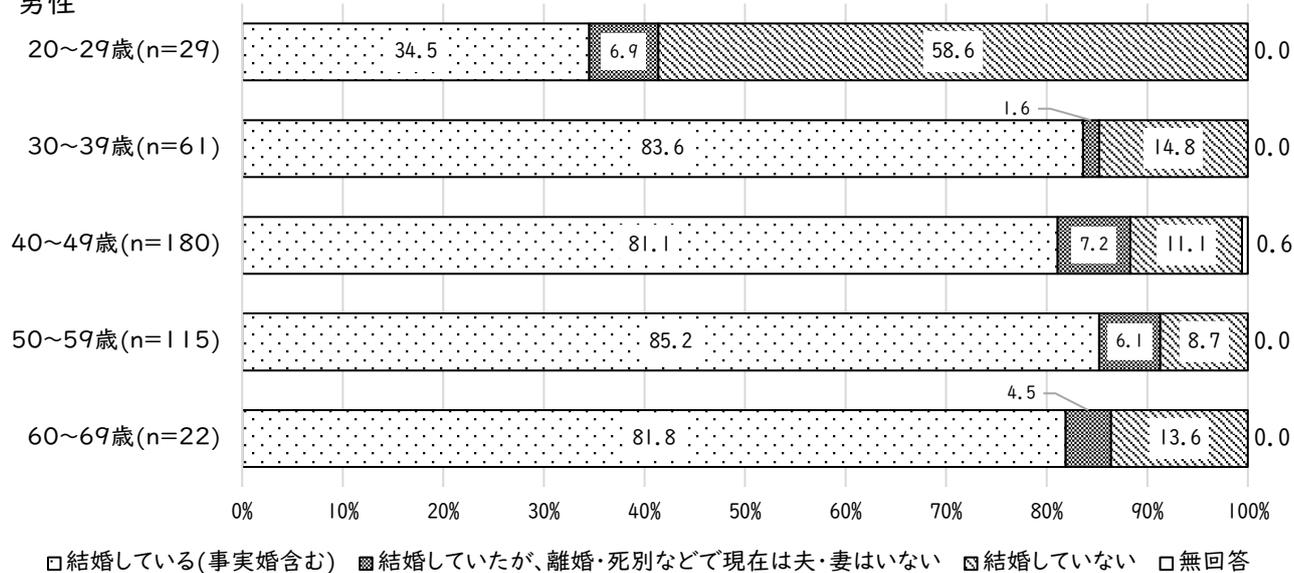
#### 問 4.結婚の有無



#### 女性

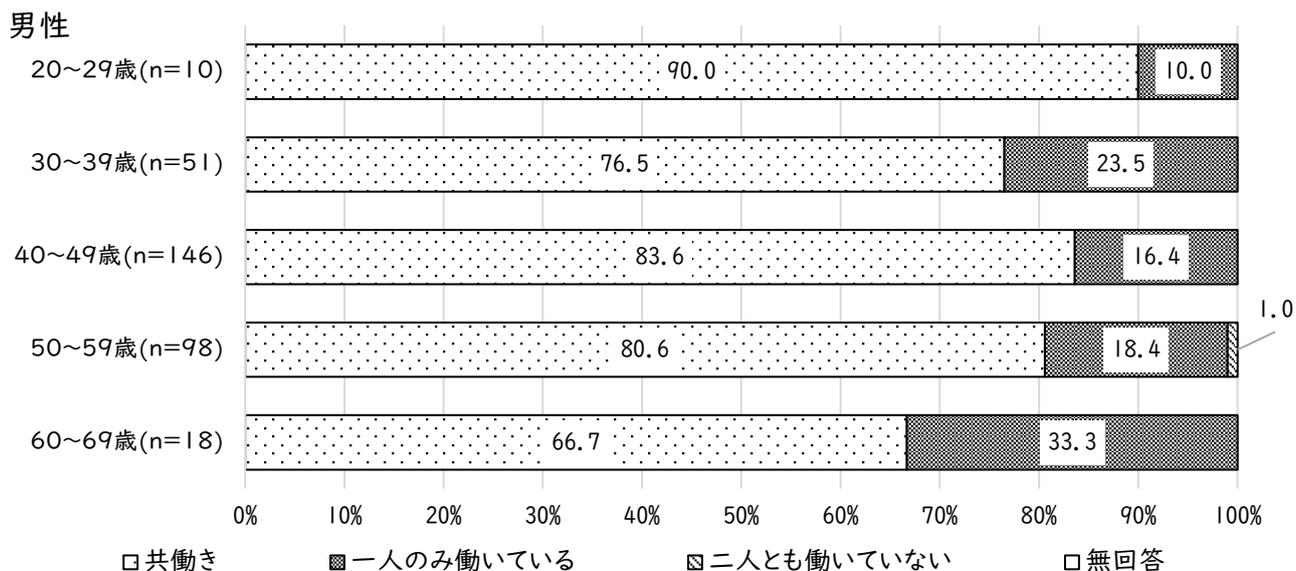
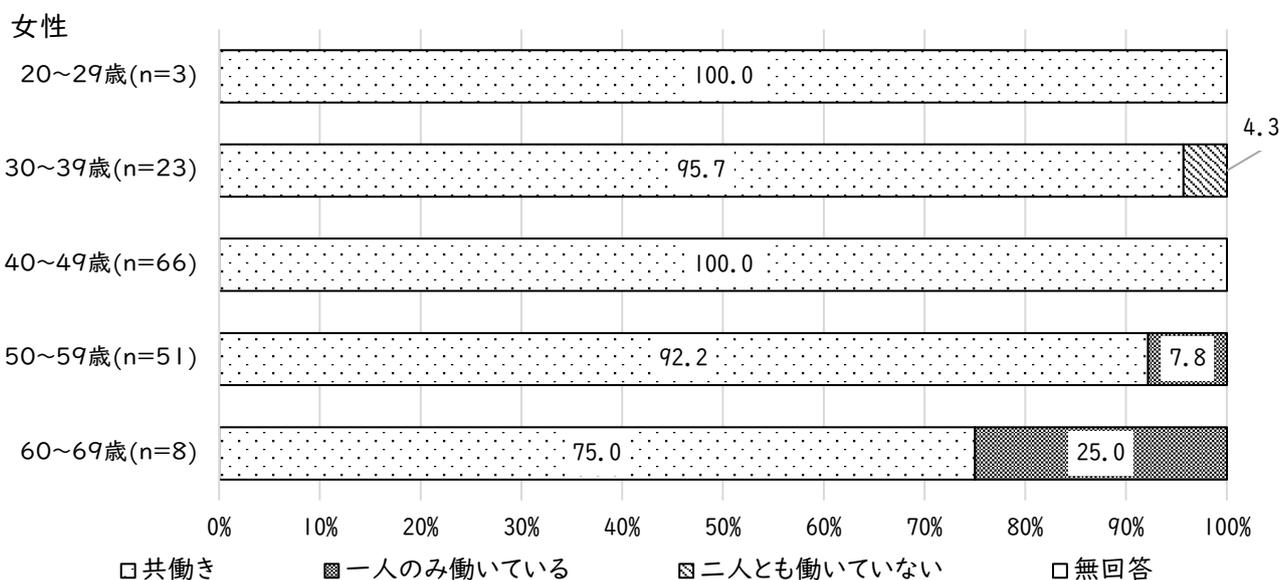
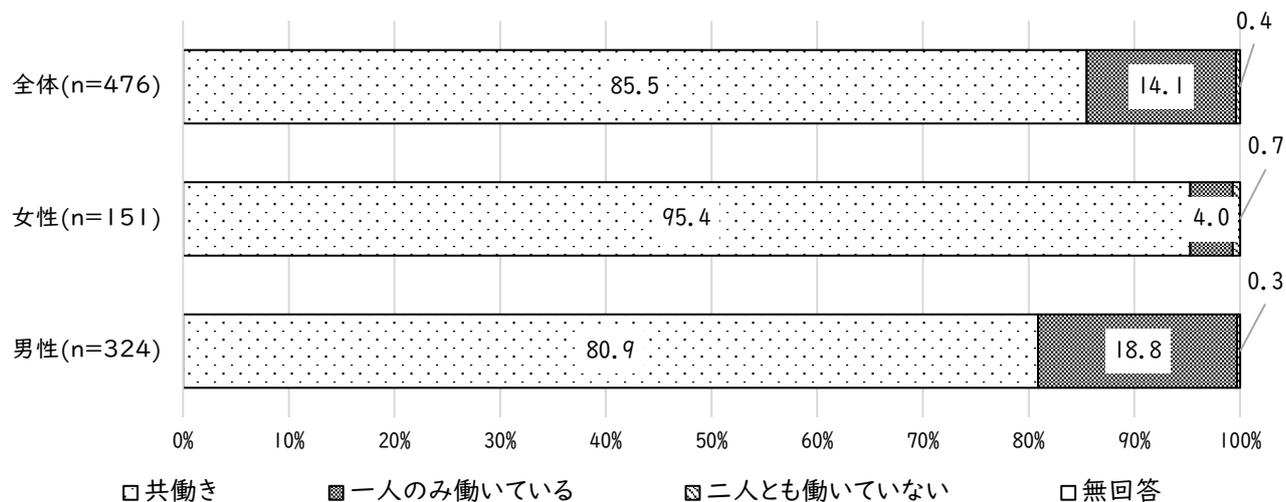


#### 男性



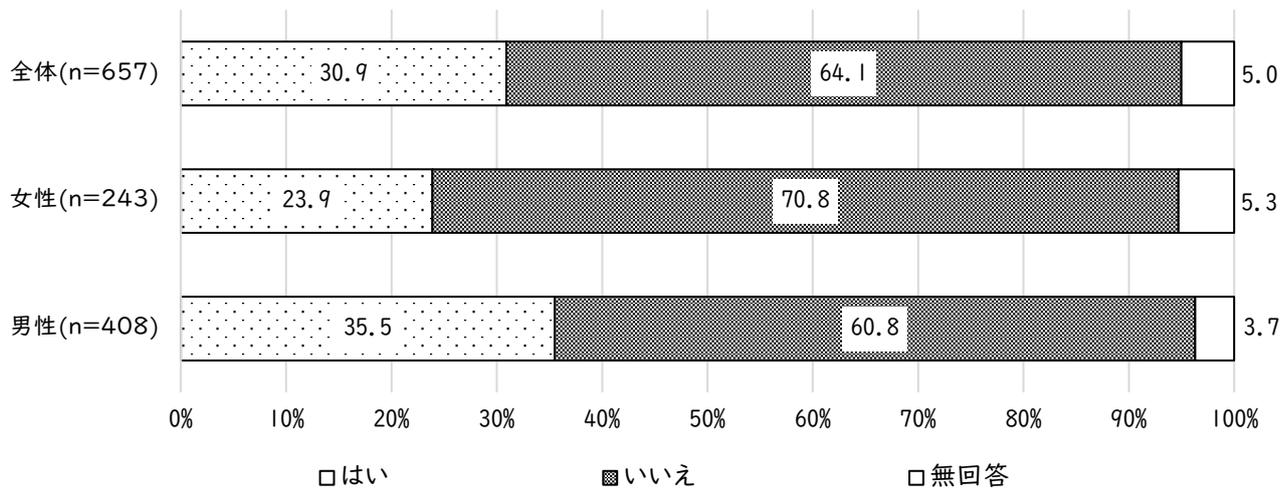
問 1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.9%(6人)は除いています。

問 5.配偶者の就労状況(問 5 で「1.結婚している(事実婚含む)」に○印をつけた方のみ)

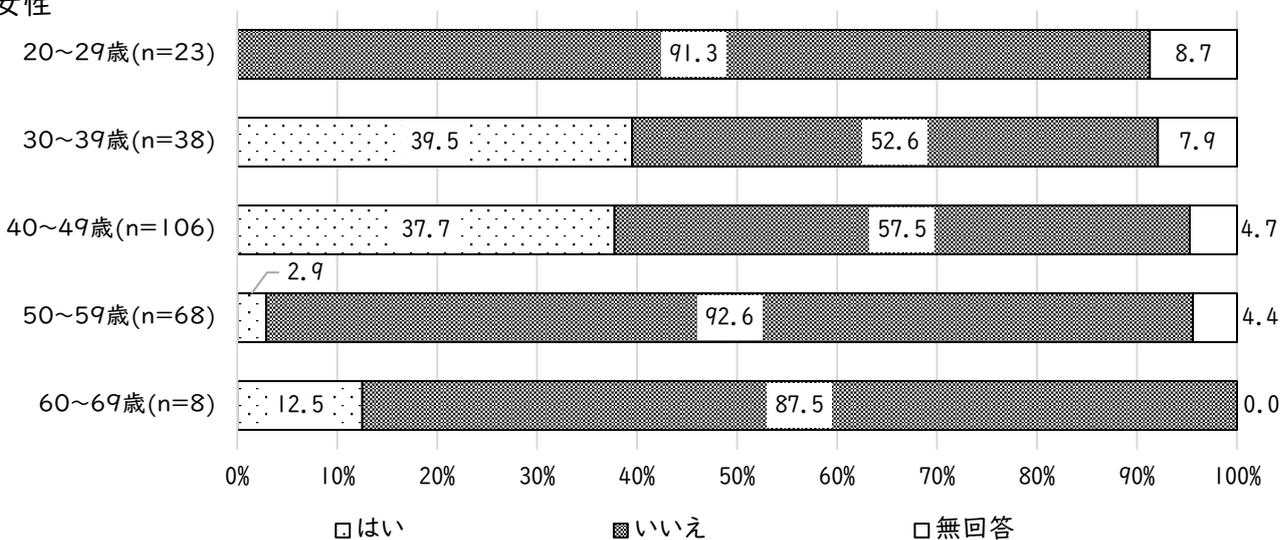


問 1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.9%(6人)は除いています。

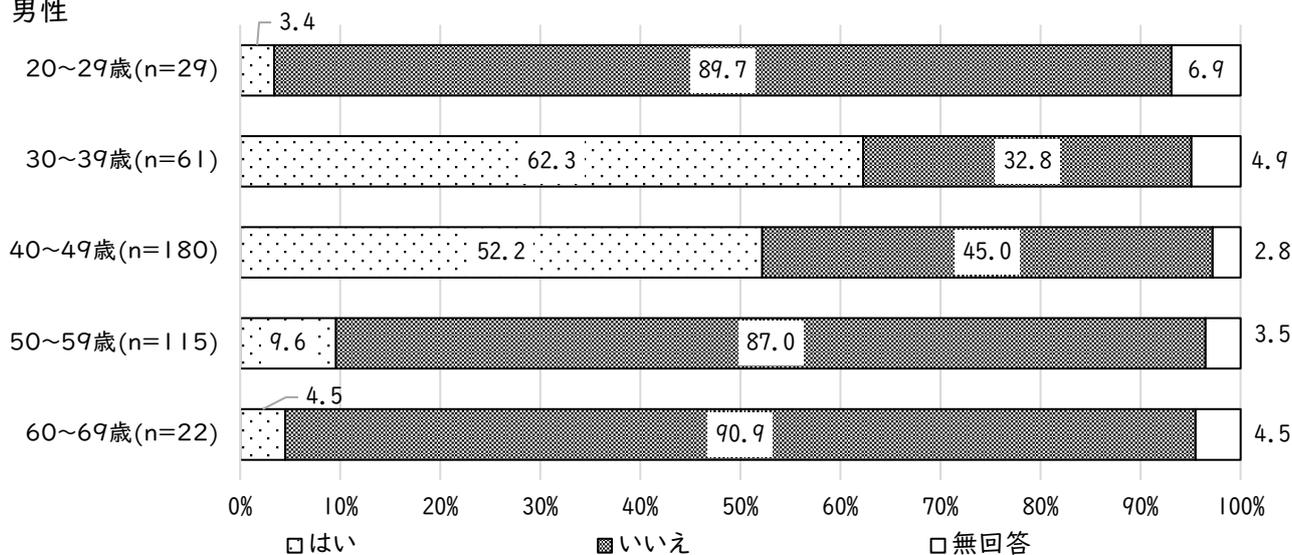
問 6.同居している小学生以下の子どもの有無



女性

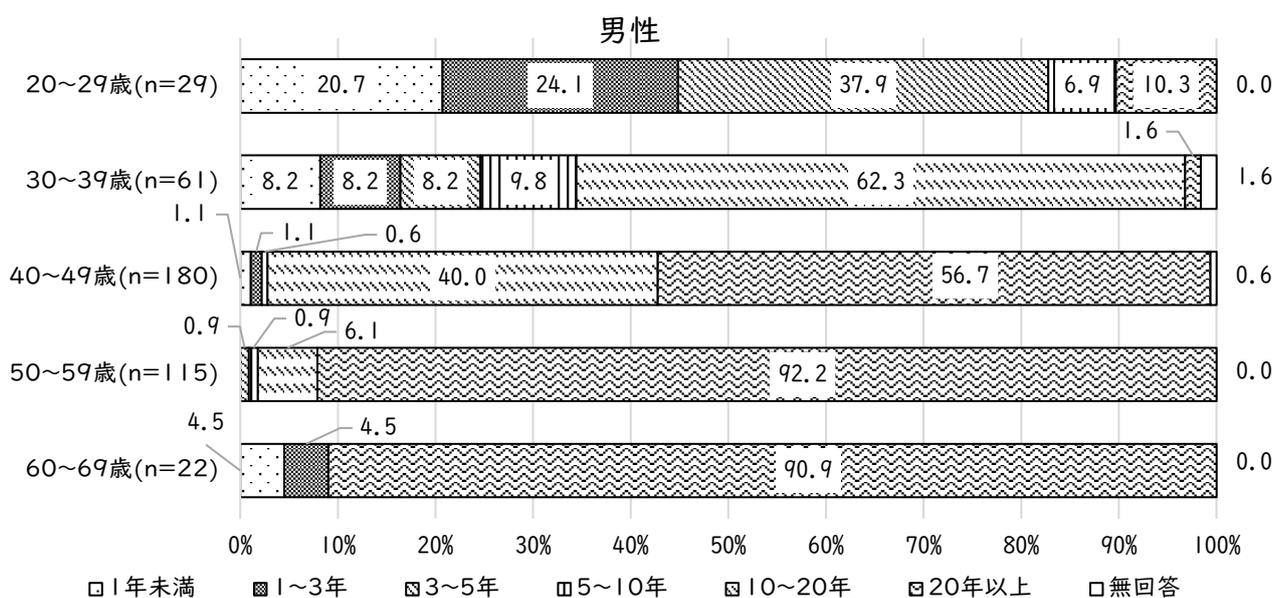
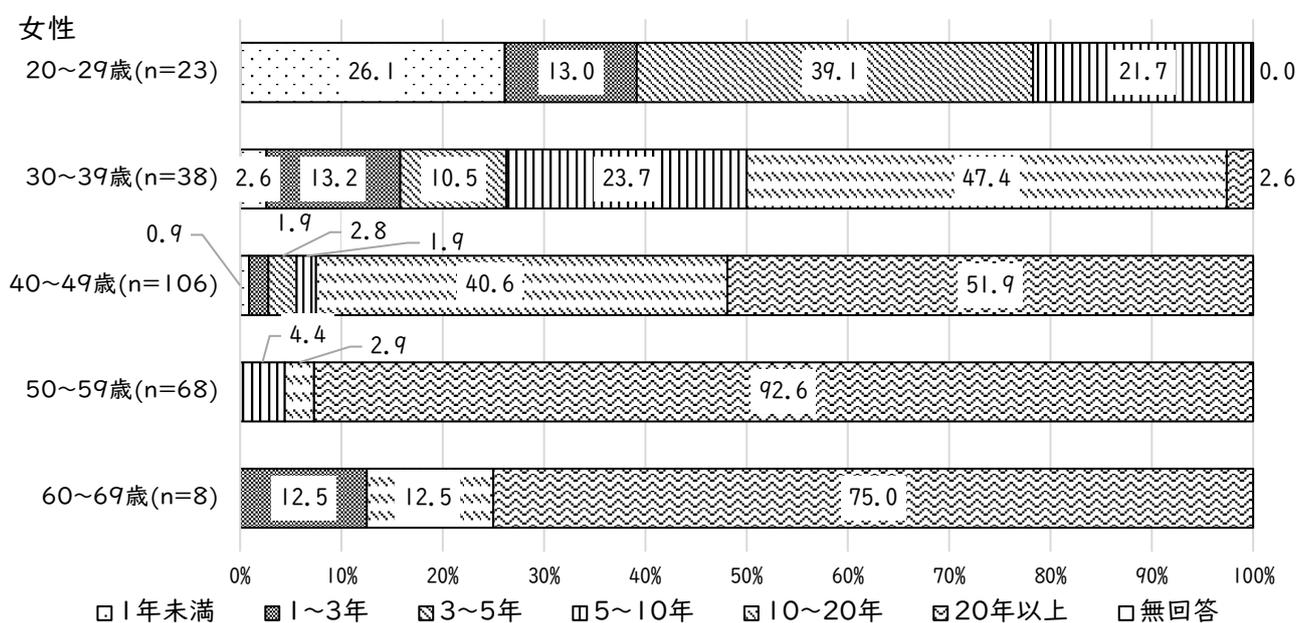
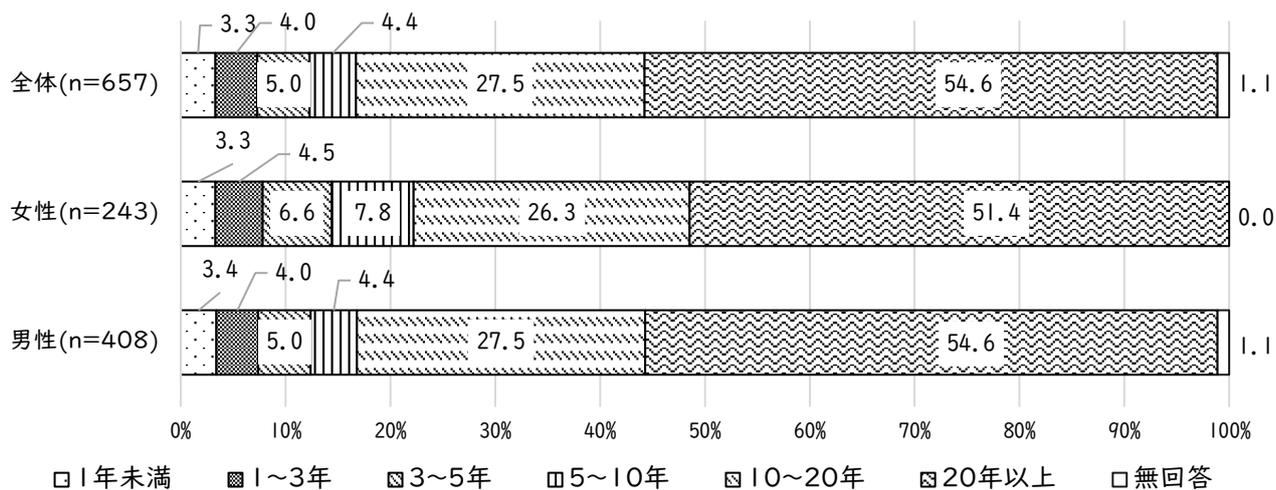


男性



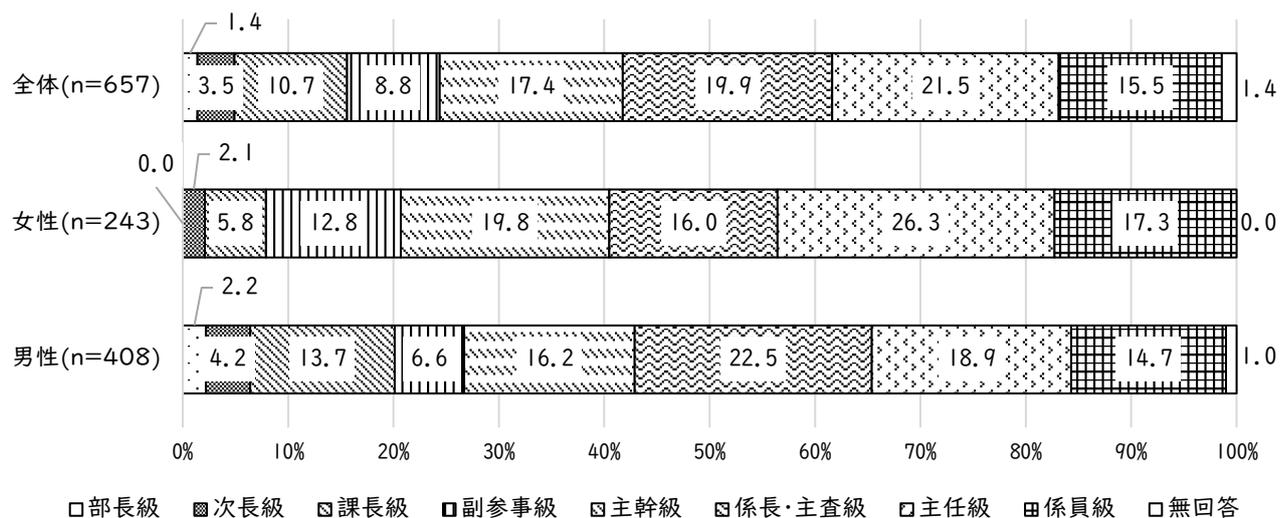
問 1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.9%(6人)は除いています。

問7.勤務年数

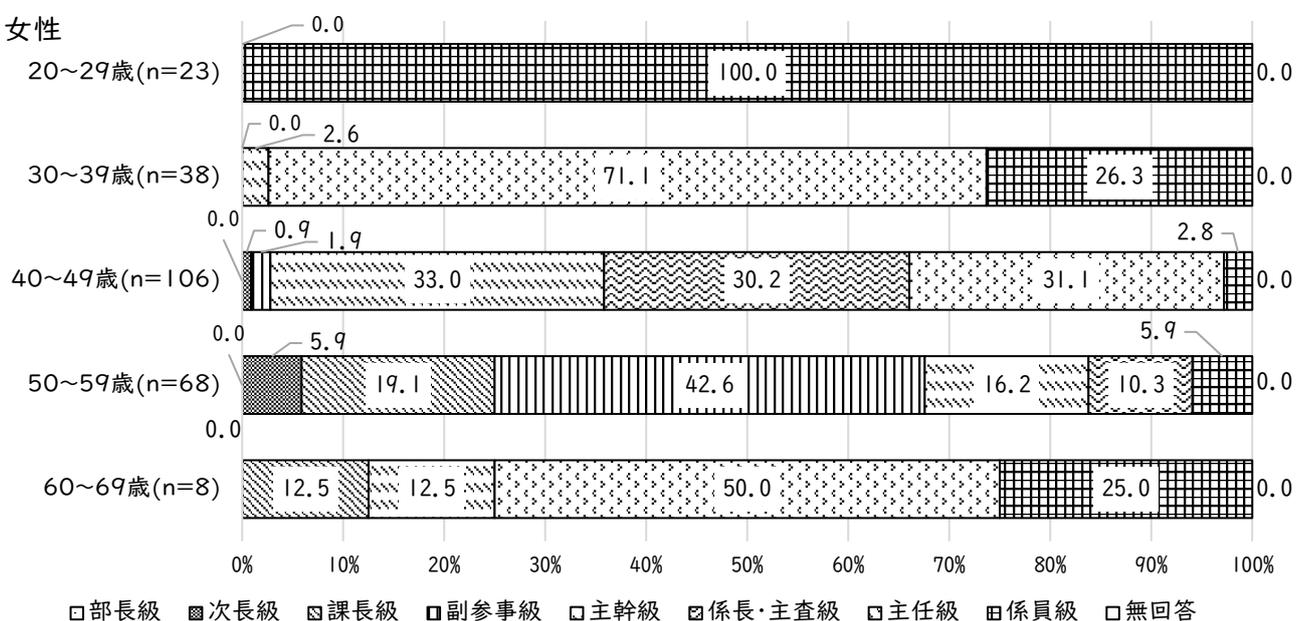


問1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.9%(6人)は除いています。

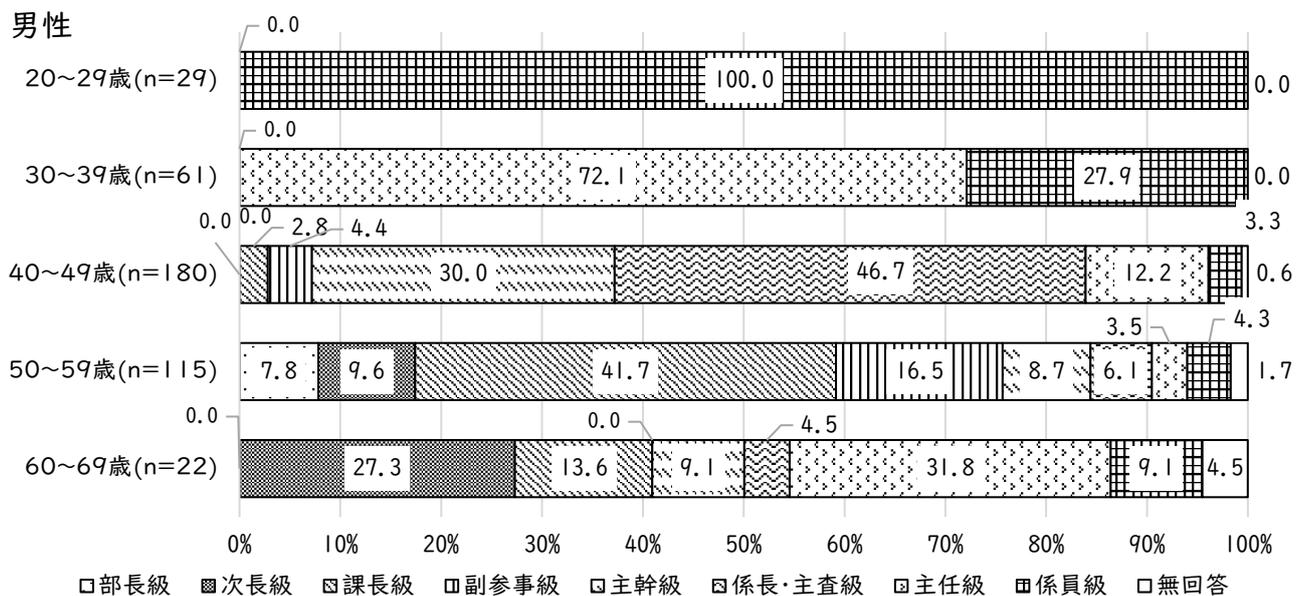
## 問 8 職名



### 女性



### 男性

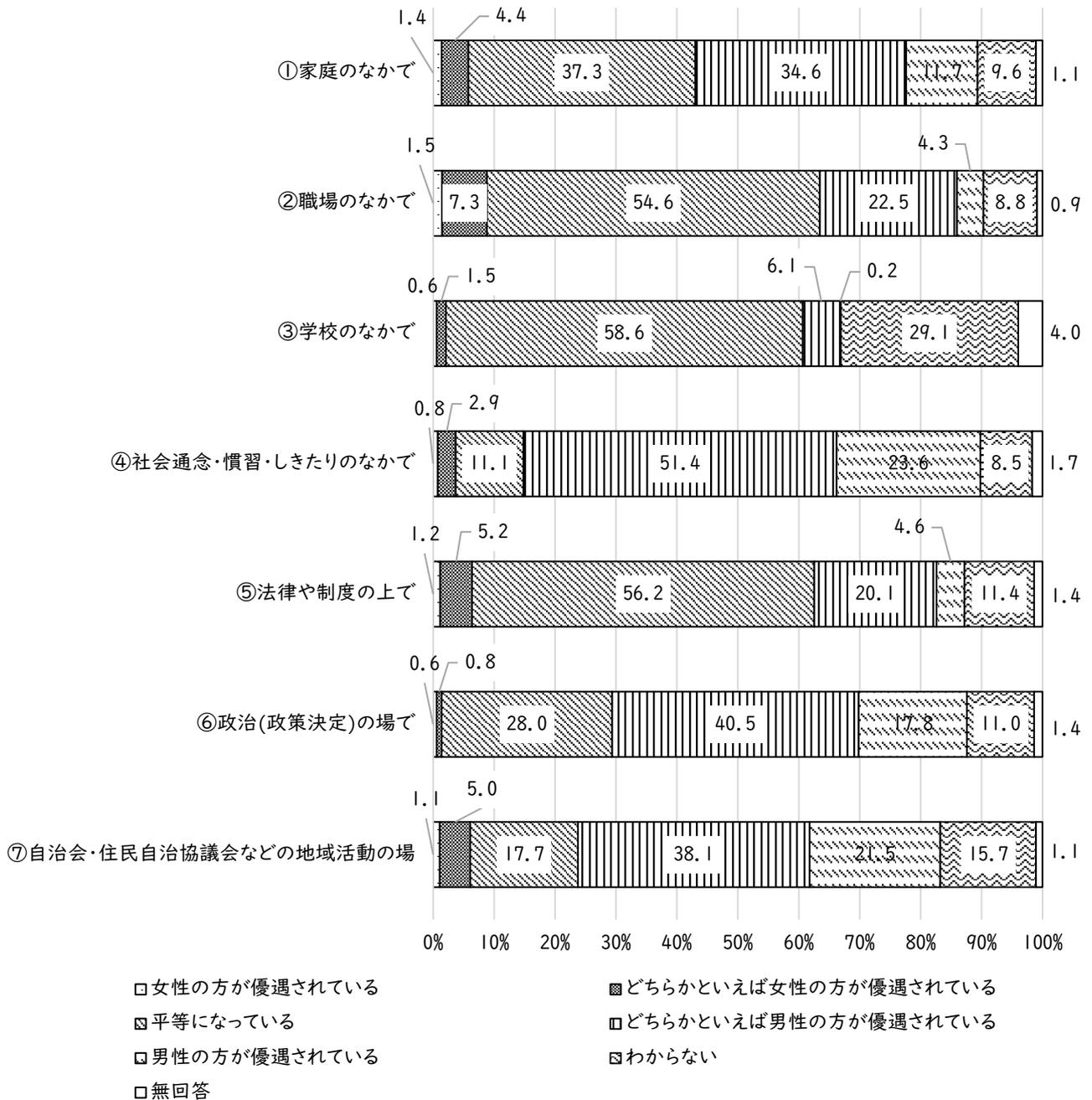


問 1.性別(自認している性別)で、「無回答」0.9%(6人)は除いています。

## 2.男女平等について

問9 あなたは、次にあげる分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。①～⑦の項目について、あてはまる回答の数字に1つだけ○をつけてください。

男女の地位の平等について聞いたところ、「男性の方が優遇されている・どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて最も割合が高かったのは、「④社会通念・慣習・しきたりのなかで」75.0%、次いで「⑦自治会・住民自治協議会などの地域活動の場」59.6%、「⑥政治(政策決定)の場で」58.3%となっています。「平等になっている」5割を超えたのは「②職場のなかで」「③学校のなかで」「⑤法律や制度の上で」でした。



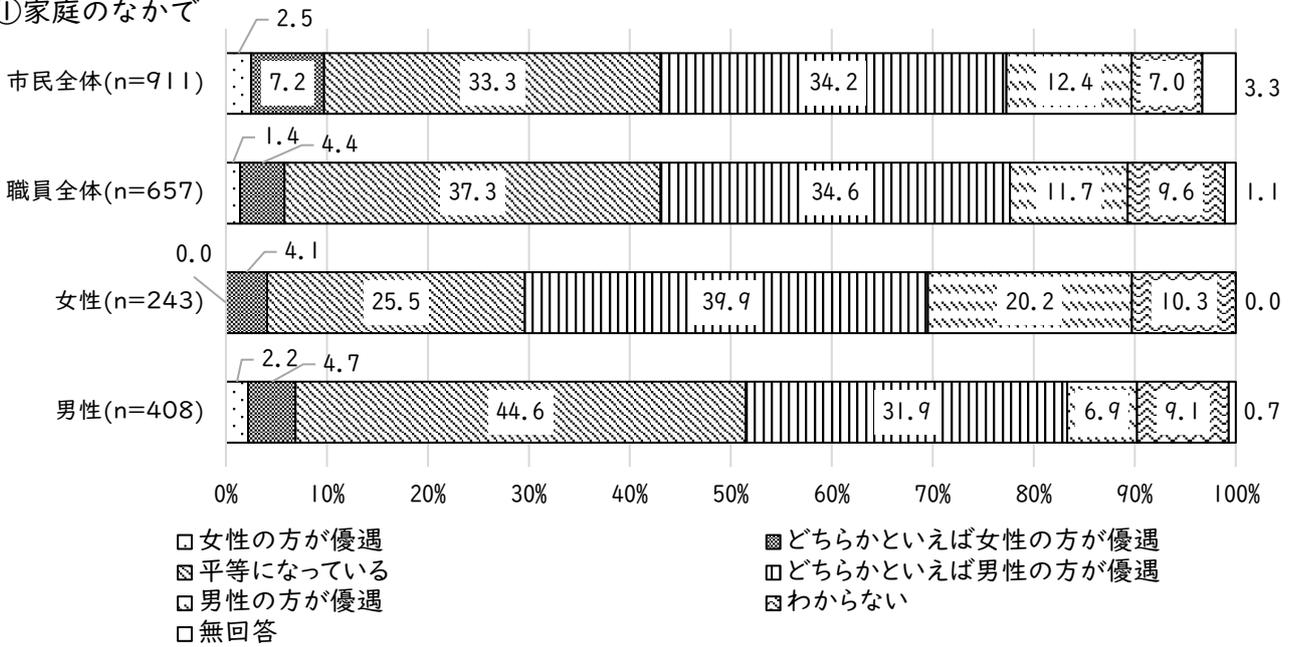
「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」を合わせる場合は、『女性の方が優遇』と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」を合わせる場合は、『男性の方が優遇』と記載します。

「①家庭のなかで」

市民調査との比較では、『女性の方が優遇』について、職員が5.8%と市民9.7%より3.9ポイント低くなっています。

性別で見ると、「平等になっている」について、女性は25.5%と男性44.6%より、19.1ポイント低くなっています。

①家庭のなかで

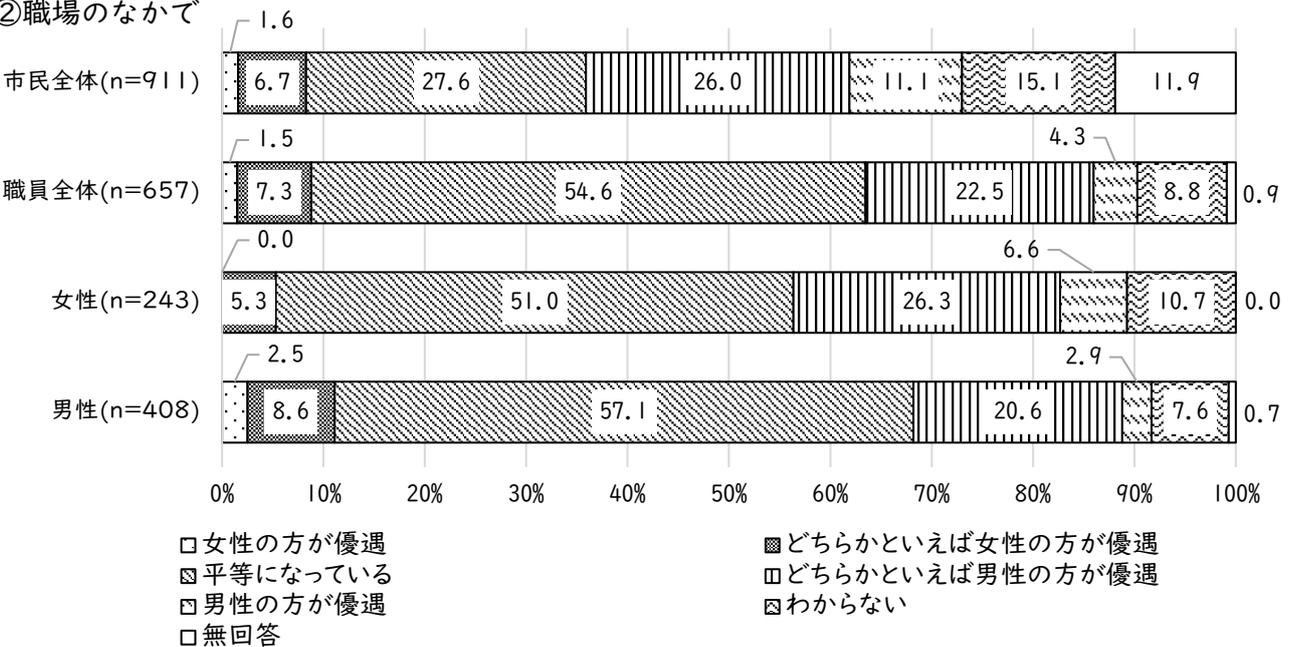


「②職場のなかで」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員が54.6%と市民27.6%より27.0ポイント高くなっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇』について、女性は32.9%と男性23.5%より、9.4ポイント高くなっています。

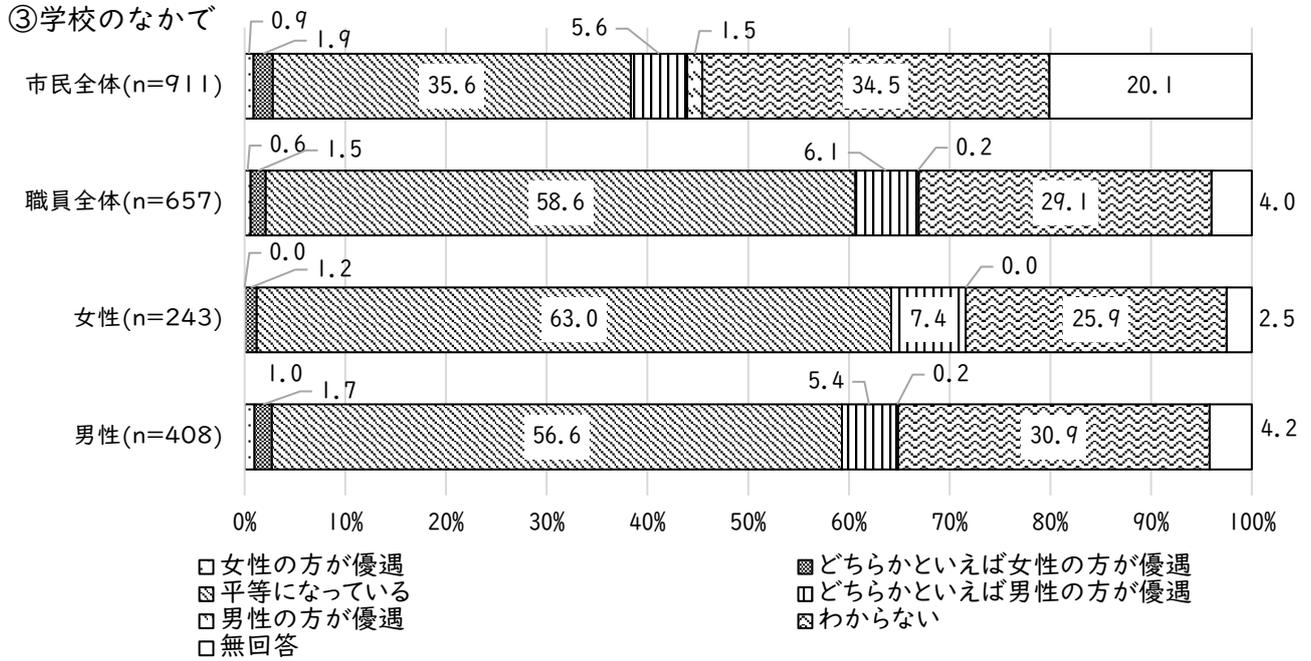
②職場のなかで



「③学校のなかで」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員が58.6%と市民35.6%より23.0ポイント高くなっています。

性別で見ると、「平等になっている」について、女性は63.0%と男性56.6%より、6.4ポイント高くなっています。

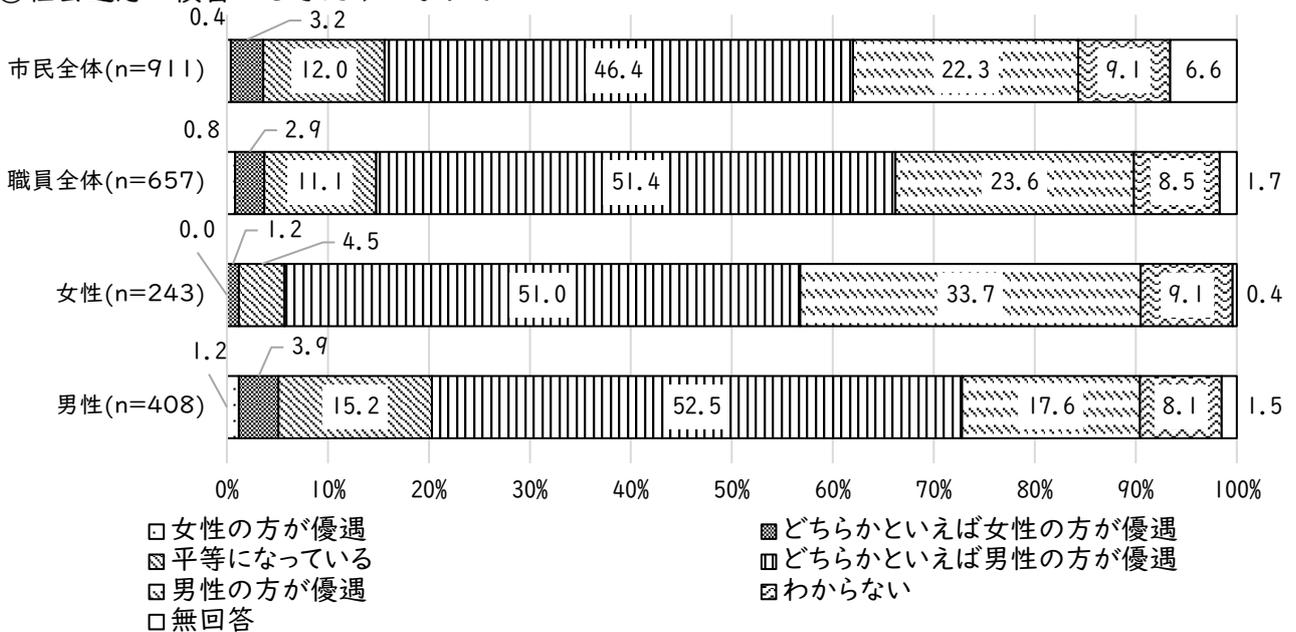


「④社会通念・慣習・しきたりのなかで」

市民調査との比較では大きな差は見られません。

性別で見ると、『男性の方が優遇』について、女性は84.7%と男性70.1%より、14.6ポイント高くなっています。

④社会通念・慣習・しきたりのなかで

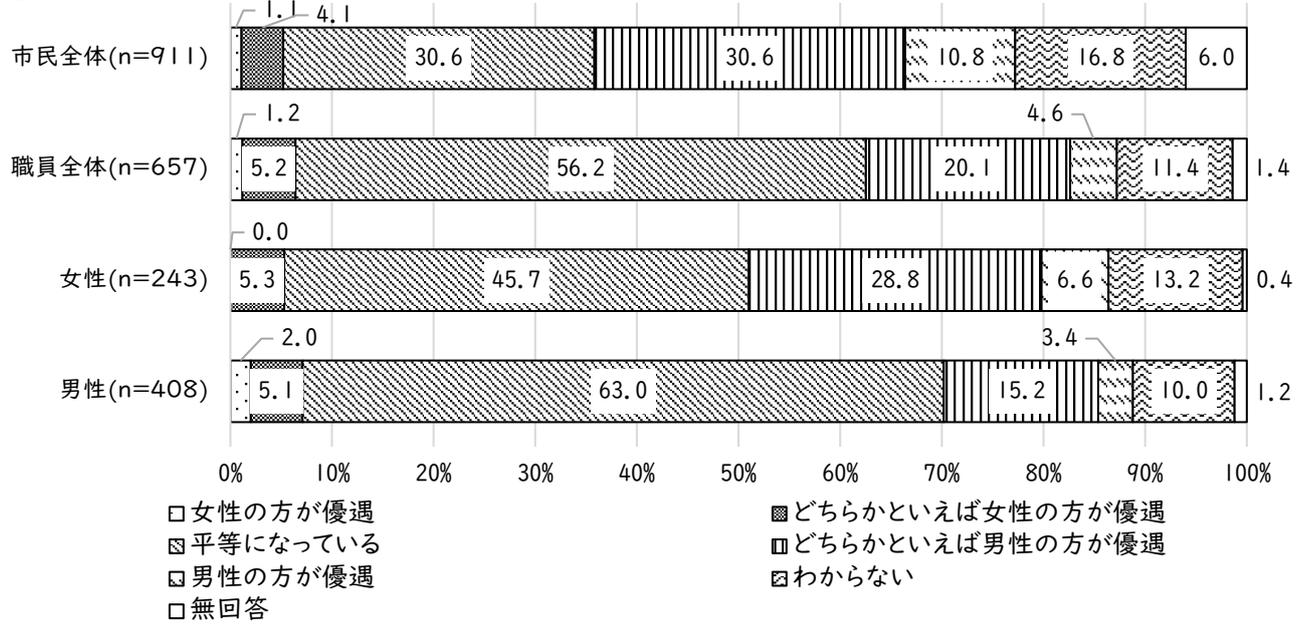


「⑤法律や制度の上で」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員が56.2%と市民30.6%より25.6ポイント高くなっています。

性別で見ると、「平等になっている」について、女性は45.7%と男性63.0%より、17.3ポイント低くなっています。

⑤法律や制度の上で

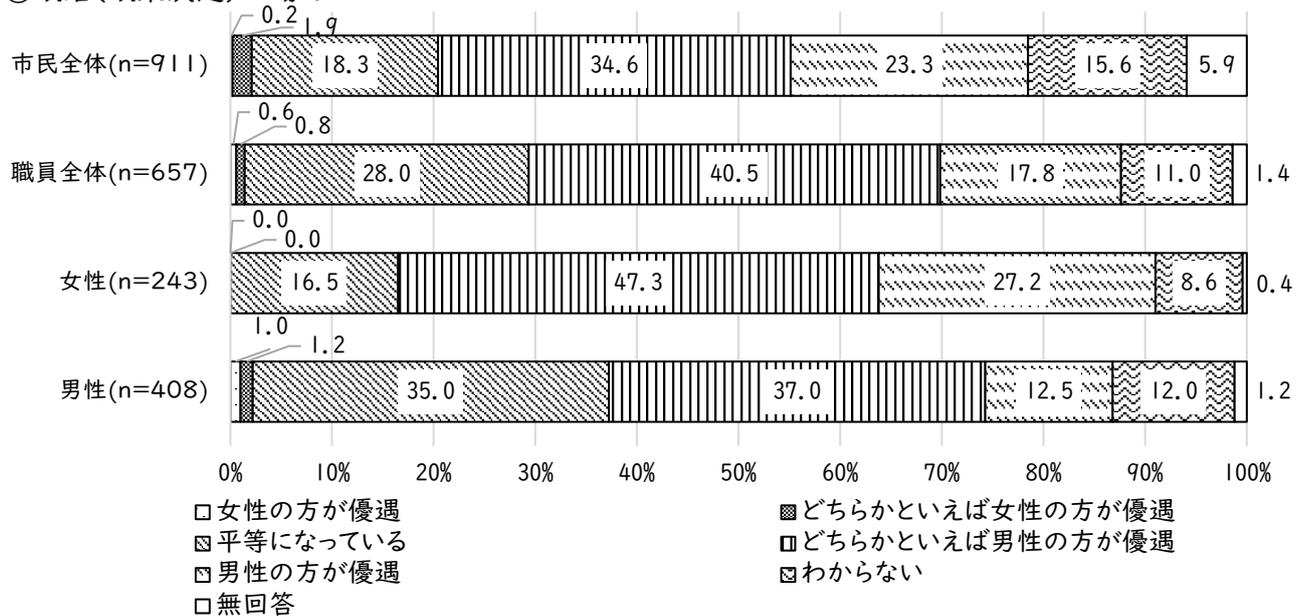


「⑥政治(政策決定)の場で」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員全体が28.0%より市民全体18.3%より9.7ポイント高くなっています。

性別で見ると、「平等になっている」について、女性は16.5%と男性35.0%より18.5ポイント低くなっています。

⑥政治(政策決定)の場で

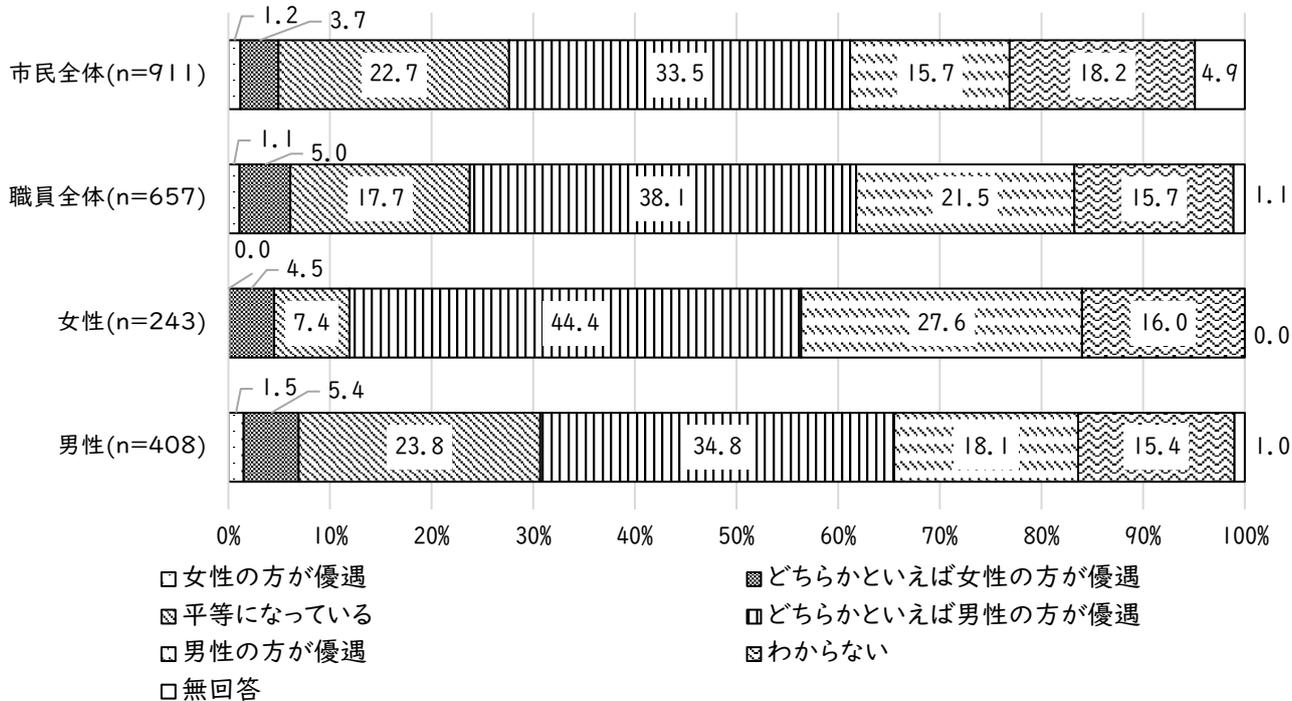


「⑦自治会・住民自治協議会などの地域活動の場で」

市民調査との比較では、『男性の方が優遇』について、職員が59.6%と市民49.2%より10.4ポイント高くなっています。

性別で見ると、『男性の方が優遇』について、女性は72.0%と男性52.9%より19.1ポイント高くなっています。

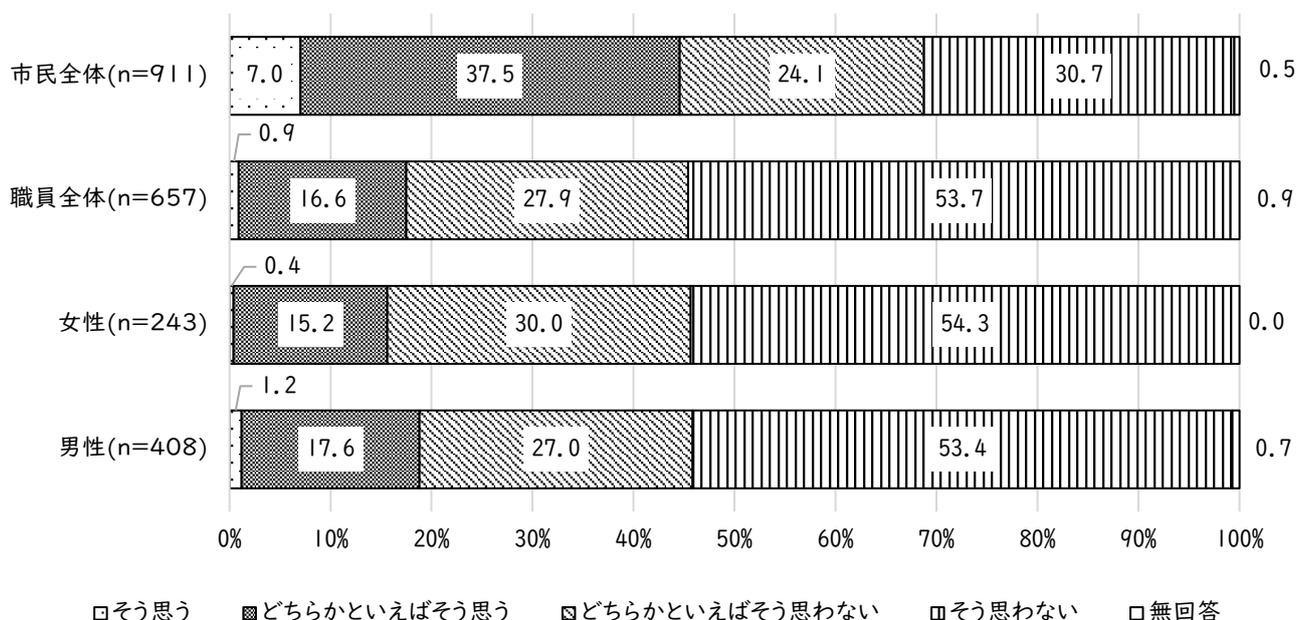
⑦自治会・住民自治協議会などの地域活動の場で



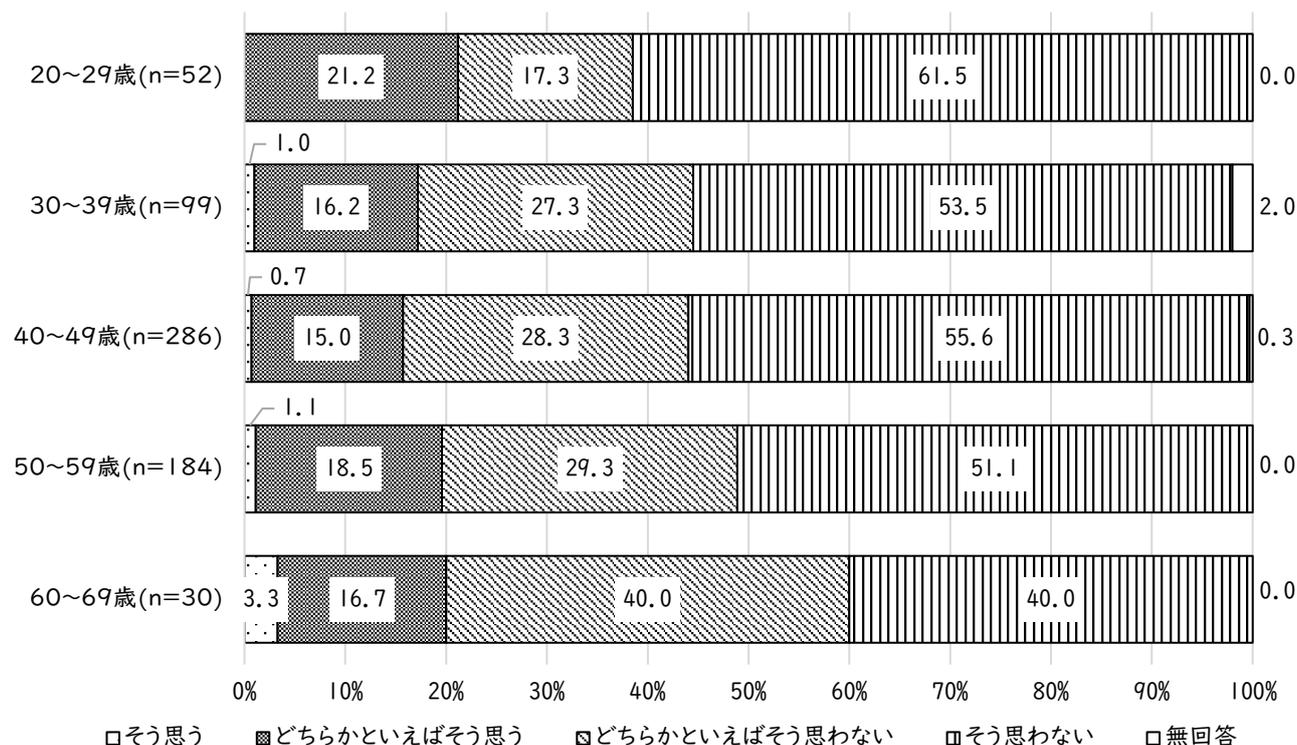
問10 「男は仕事、女は家庭・育児・介護」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。

「男は仕事、女は家庭・育児・介護」という考え方については、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と性別役割分担に否定的な人は81.6%となっています。性別での大きな差は見られません。

市民調査との比較では、「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と性別役割分担に否定的な人は職員が81.6%と市民54.8%より26.8ポイント高くなっています。



年齢別では、30歳代～60歳代で「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と性別役割分担に否定的な人が8割を超えています。



「性別・年齢別でみると、男性の20歳代、50歳代、60歳代は、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と性別役割分担に肯定的な人が2割を超えています。一方女性はすべての年代においても性別役割分担に否定的な人が8割を超えています。

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
全体		0.9%	16.6%	27.9%	53.7%
女性(n=243)	20~29歳	0.0%	17.4%	13.0%	69.6%
	30~39歳	0.0%	13.2%	34.2%	52.6%
	40~49歳	0.9%	15.1%	30.2%	53.8%
	50~59歳	0.0%	16.2%	33.8%	50.0%
	60~69歳	0.0%	12.5%	25.0%	62.5%
男性(n=408)	20~29歳	0.0%	24.1%	20.7%	55.2%
	30~39歳	1.6%	18.0%	23.0%	54.1%
	40~49歳	0.6%	15.0%	27.2%	56.7%
	50~59歳	1.7%	20.0%	27.0%	51.3%
	60~69歳	4.5%	18.2%	45.5%	31.8%

性別・職名別でみると、職名に関係なく、すべてにおいて性別役割分担に否定的な人が、肯定的な人を上回っています。このような中、男性の次長級は、「そう思う・どちらかといえばそう思う」と性別役割分担に肯定的な人35.3%と唯一3割を超えています。

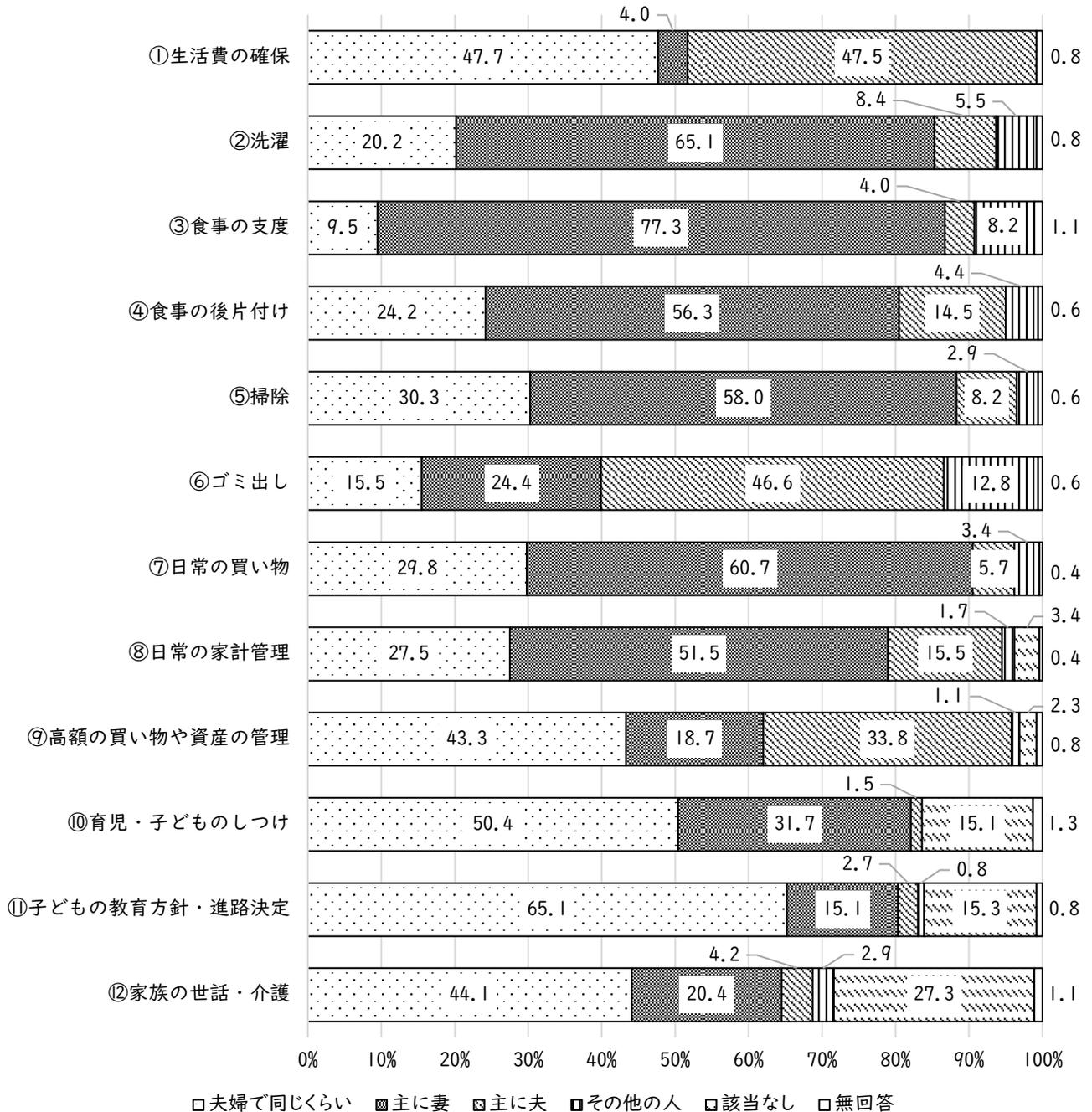
		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
全体		0.9%	16.6%	27.9%	53.7%
女性(n=243)	部長級	-	-	-	-
	次長級	0.0%	20.0%	40.0%	40.0%
	課長級	0.0%	14.3%	14.3%	71.4%
	副参事級	0.0%	22.6%	45.2%	32.3%
	主幹級	0.0%	12.5%	25.0%	62.5%
	係長級・主査級	0.0%	15.4%	30.8%	53.8%
	主任級	1.6%	10.9%	35.9%	51.6%
	係員級	0.0%	19.0%	19.0%	61.9%
男性(n=408)	部長級	0.0%	0.0%	55.6%	44.4%
	次長級	0.0%	35.3%	17.6%	47.1%
	課長級	0.0%	21.4%	30.4%	49.2%
	副参事級	3.7%	3.7%	33.3%	59.3%
	主幹級	1.5%	16.7%	27.3%	54.5%
	係長級・主査級	0.0%	14.1%	28.3%	56.5%
	主任級	2.6%	16.9%	22.1%	55.8%
	係員級	1.7%	25.0%	21.7%	50.9%

### 3.家庭生活について

問11 問4で「1.結婚をしている(事実婚含む)」に○印をつけた方におたずねします。あなたの家庭では、次にあげる家庭の中での仕事は、現在だれが行っていますか。(n=476)

結婚している(事実婚含む)に○印をつけた476人(女性151人、男性324人、性別無回答1人)に、家庭生活での仕事分担について聞いています。「主に妻」で最も割合が高かったのは、「③食事の支度」77.3%、次いで「②洗濯」65.1%「⑤掃除」58.0%となっています。一方、「主に夫」で最も割合が高かったのは、「①生活の費の確保」47.5%、次いで、「⑥ゴミ出し」46.6%となっています。

「⑩子どもの教育方針・進路決定」については、「夫婦で同じくらい」が6割を超えています。

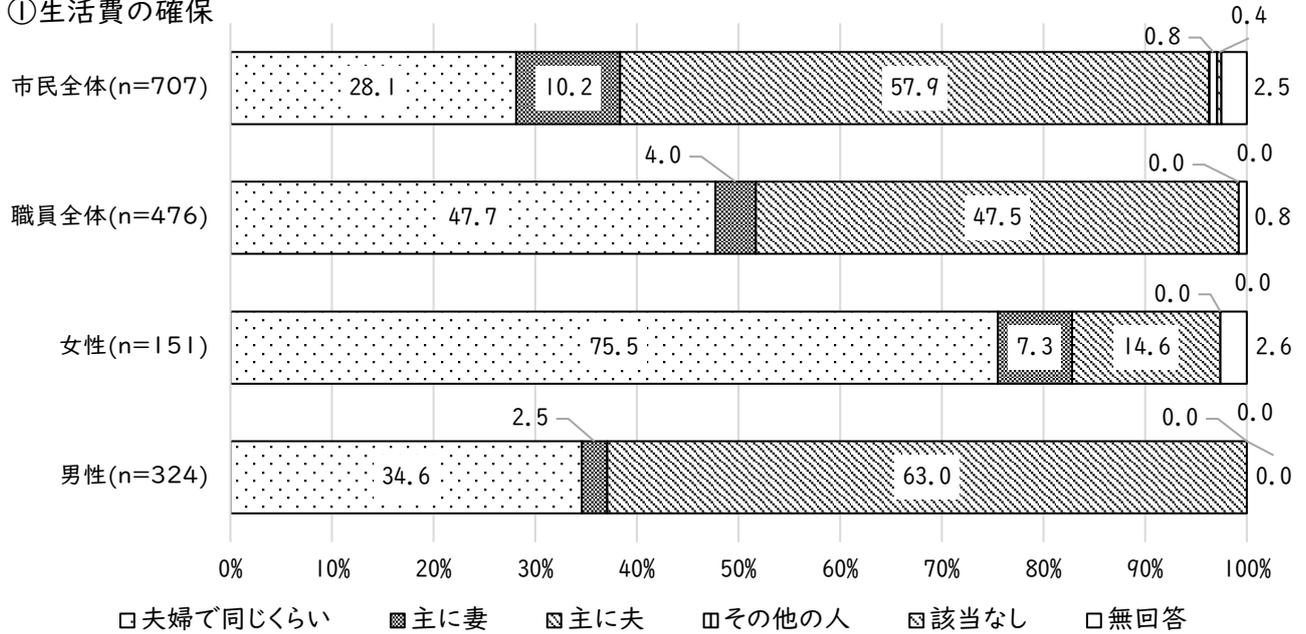


「①生活費の確保」

市民調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、職員が47.7%と市民28.1%より19.6ポイント高くなっています。

性別でみると、「夫婦で同じくらい」について、女性は75.5%と男性34.6%より40.9ポイント高くなっています。

①生活費の確保

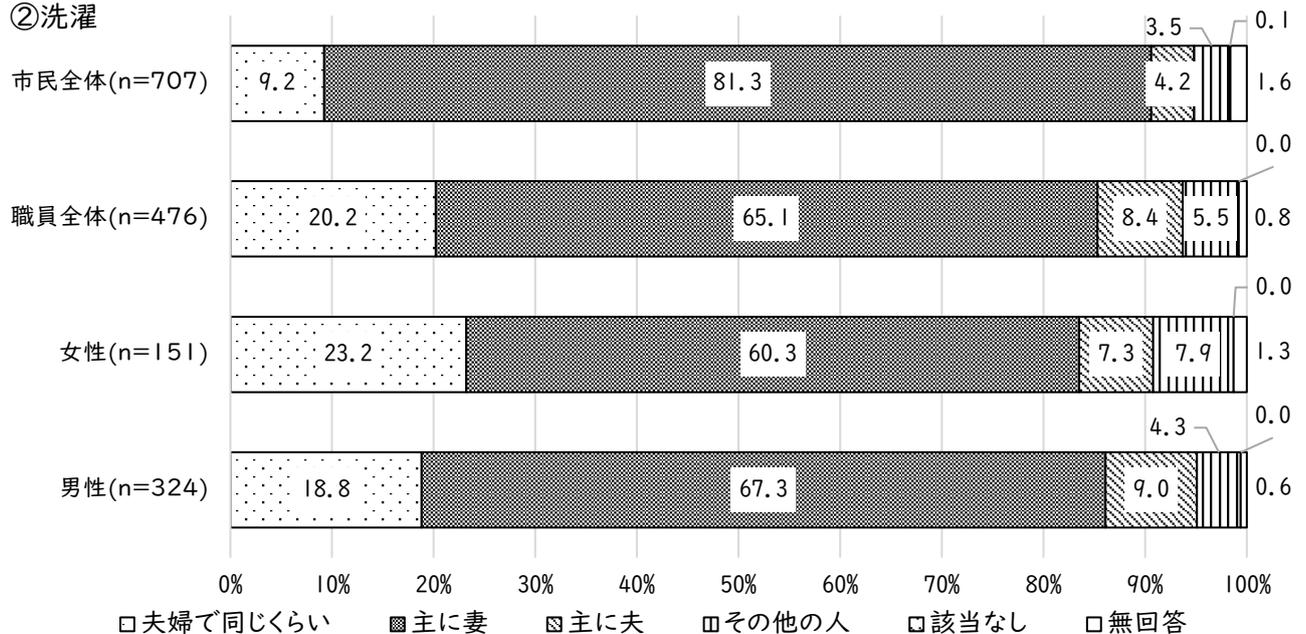


「②洗濯」

市民調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、職員が20.2%と市民9.2%より11.0ポイント高くなっています。

性別でみると、「主に妻」について、女性は60.3%と男性67.3%より、7.0ポイント低くなっています。

②洗濯

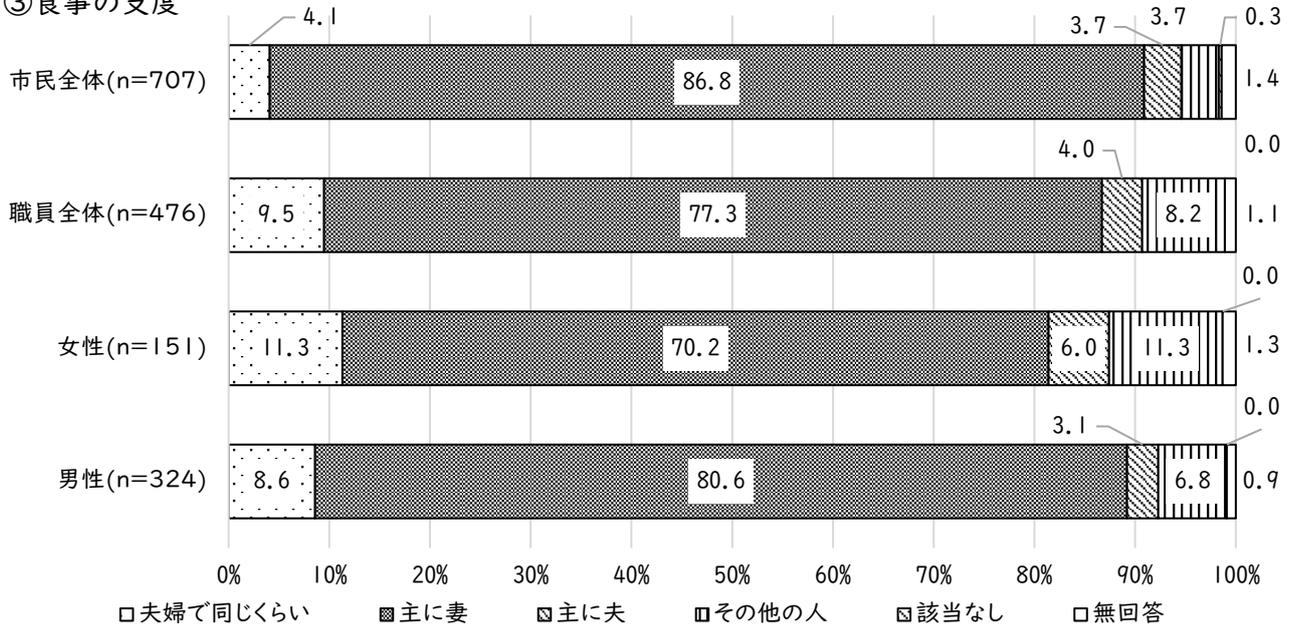


### 「③食事の支度」

市民調査との比較では、「主に妻」について、職員が77.3%と市民86.8%より9.5ポイント低くなっています。

性別で見ると、「主に妻」について、女性は70.2%と男性80.6%より10.4ポイント低くなっています。

#### ③食事の支度

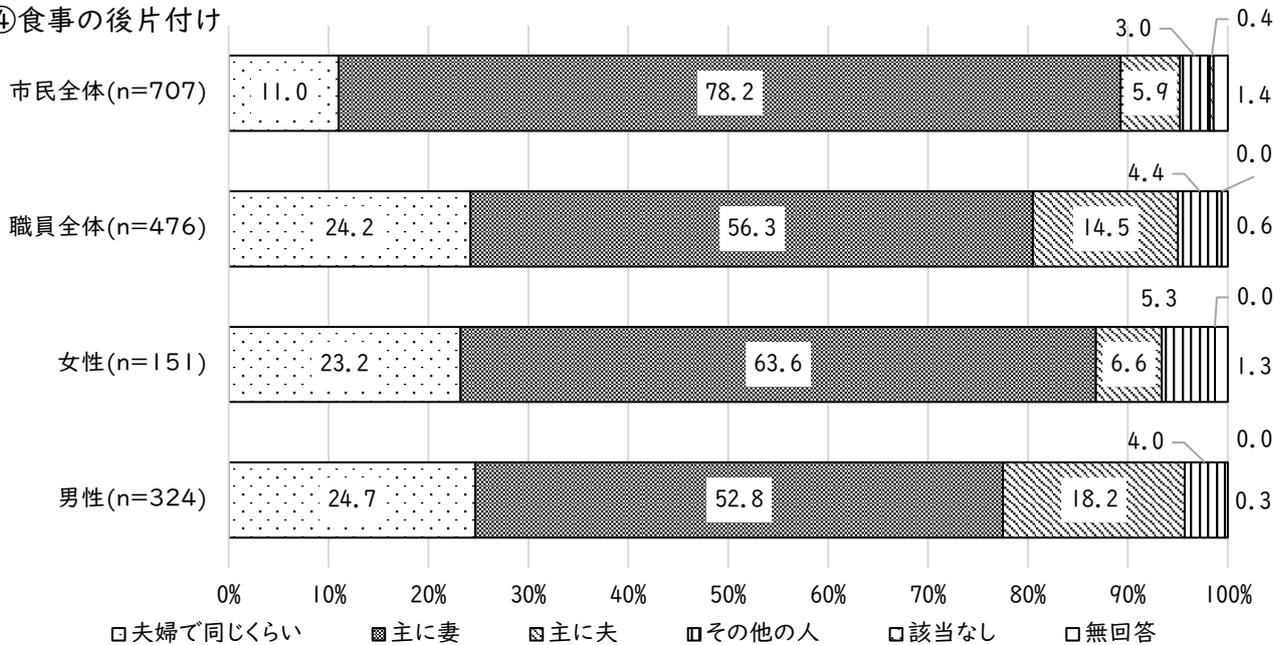


### 「④食事の後片付け」

市民調査との比較では、「主に妻」について、職員が56.3%と市民78.2%より21.9ポイント低くなっています。

性別で見ると、「主に妻」について、女性は63.6%と男性52.8%より10.8ポイント高くなっています。

#### ④食事の後片付け

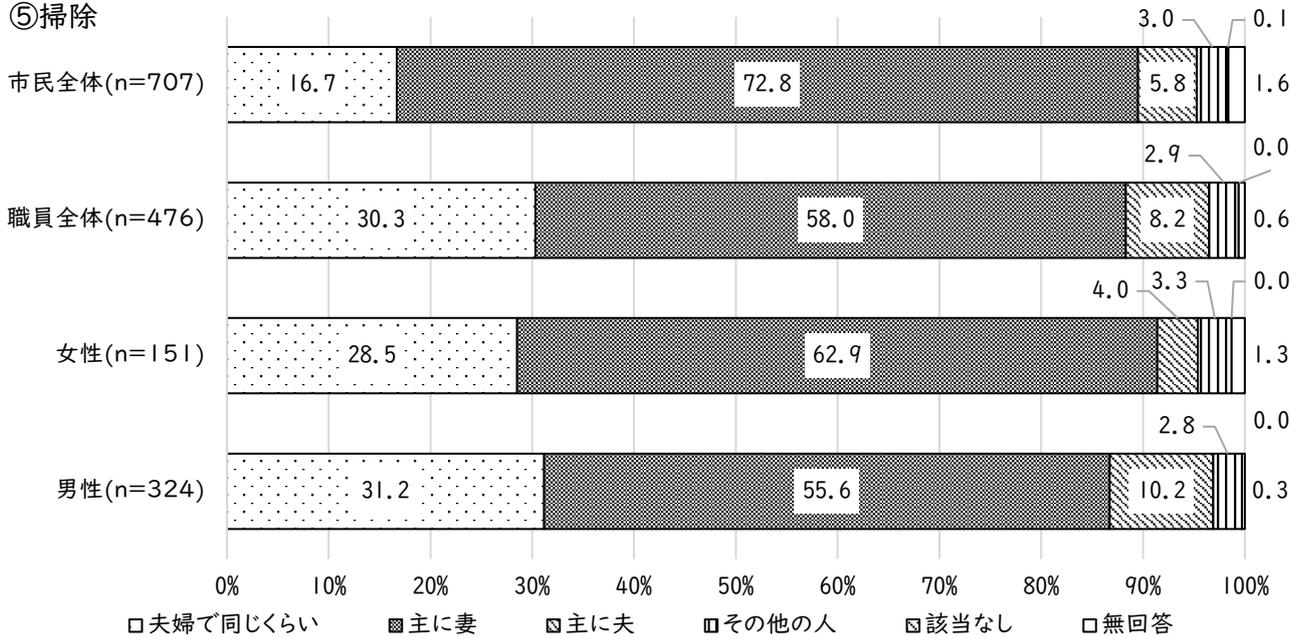


「⑤掃除」

市民調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、職員が30.3%と市民16.7%より13.6ポイント高くなっています。

性別で見ると、「主に妻」について、女性は62.9%と男性55.6%より7.3ポイント高くなっています。

⑤掃除

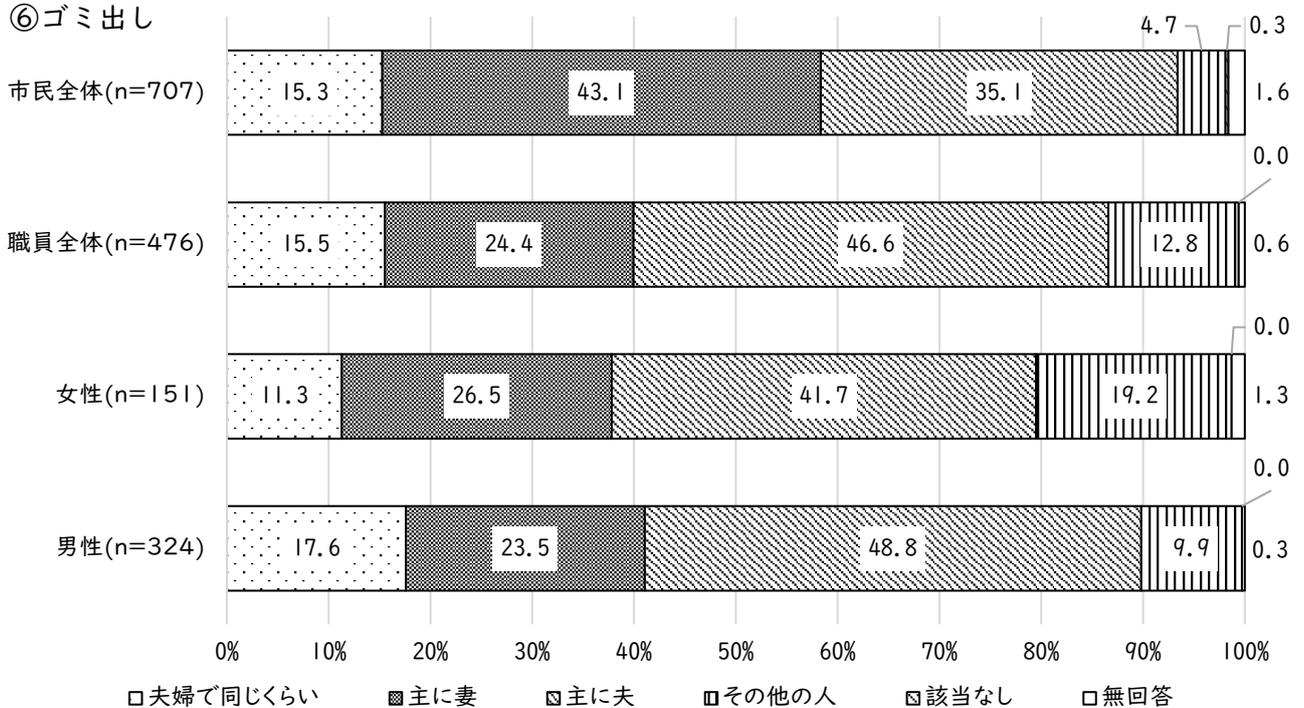


「⑥ゴミ出し」

市民調査との比較では、「主に夫」について、職員が46.6%と市民35.1%より11.5ポイント高くなっています。

性別で見ると、「主に夫」について、女性は41.7%と男性48.8%より7.1ポイント低くなっています。

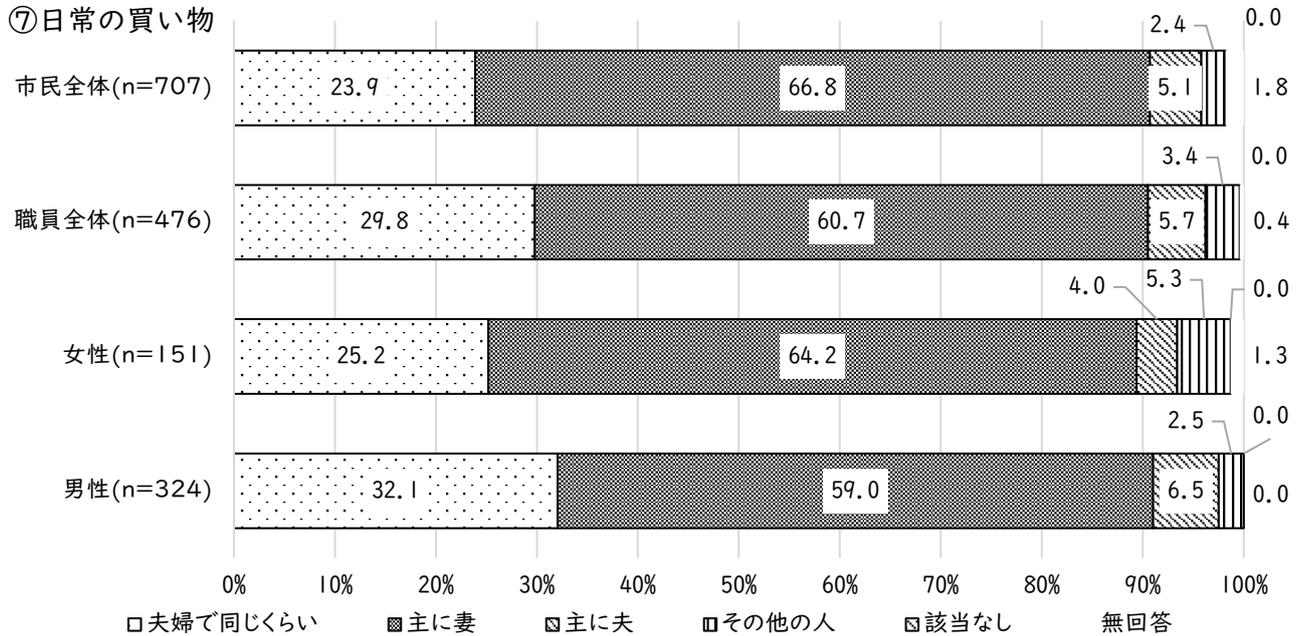
⑥ゴミ出し



「⑦日常の買い物」

市民調査との比較では、「主に妻」について、職員が60.7%と市民66.8%より6.1ポイント低くなっています。

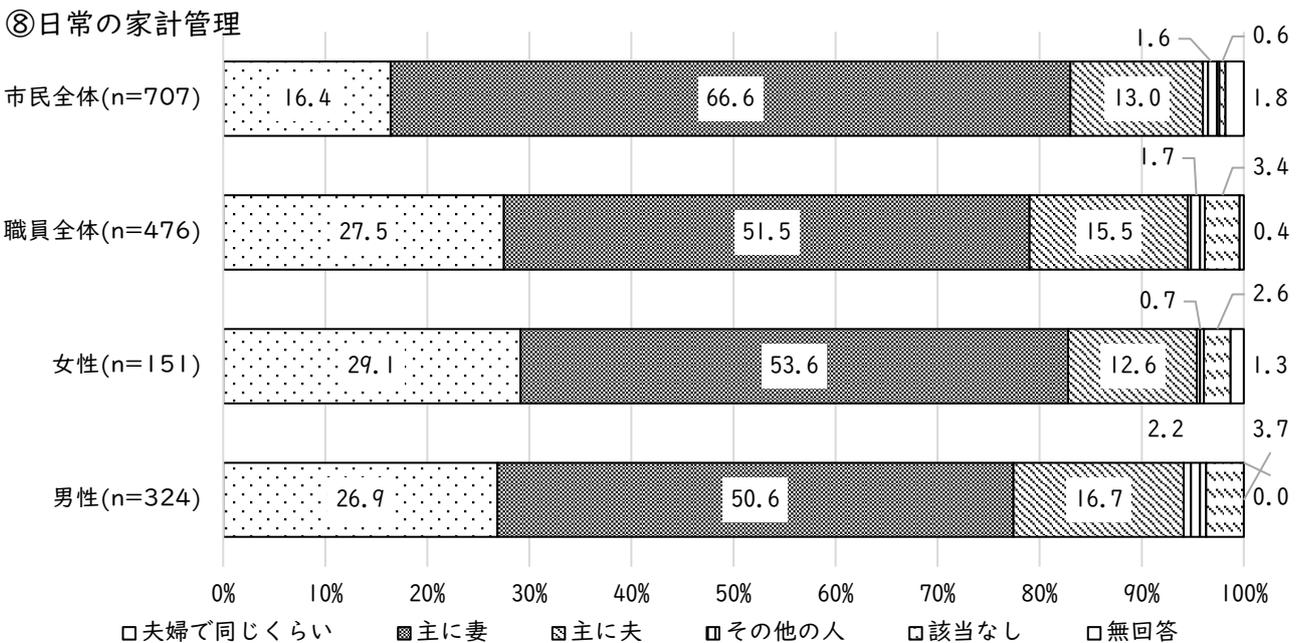
性別でみると、「夫婦で同じくらい」について、女性は25.2%と男性32.1%より6.9ポイント低くなっています。



「⑧日常の家計管理」

市民調査との比較では、「主に妻」について、職員が51.5%と市民66.6%より15.1ポイント低くなっています。

性別による大きな差は見られません。

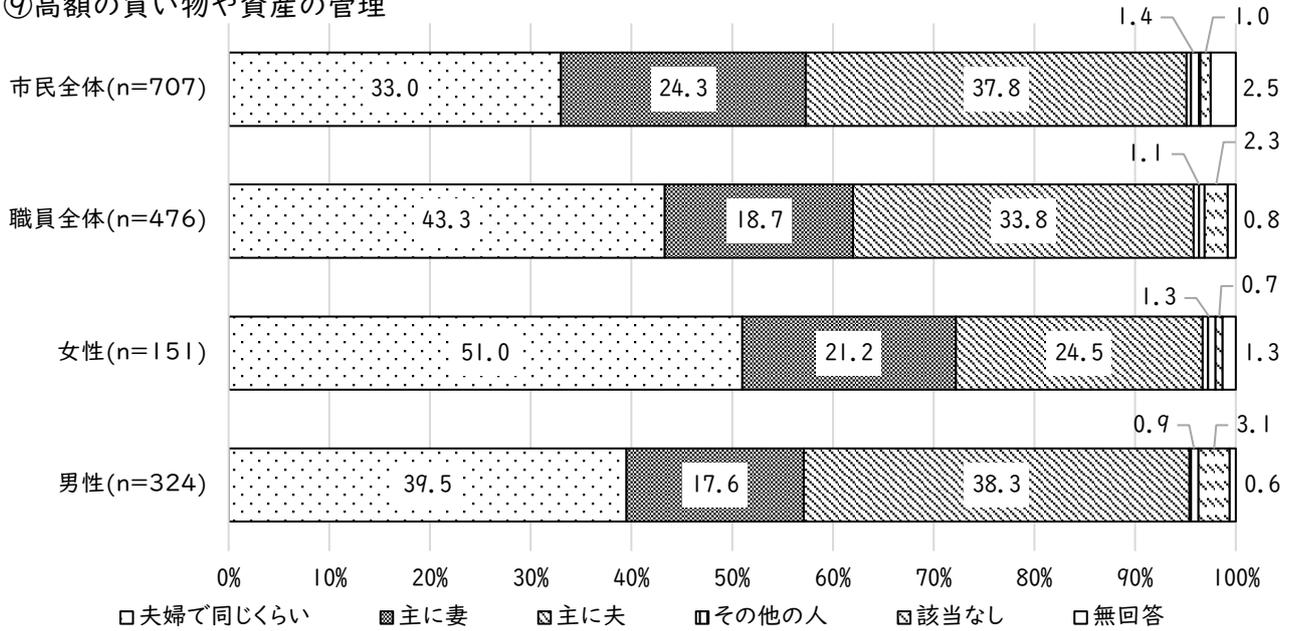


「⑨高額の買い物や資産の管理」

市民調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、職員が43.3%と市民33.0%より10.3ポイント高くなっています。

性別でみると、「夫婦で同じくらい」について、女性は51.0%と男性39.5%11.5ポイント高くなっています。

⑨高額の買い物や資産の管理

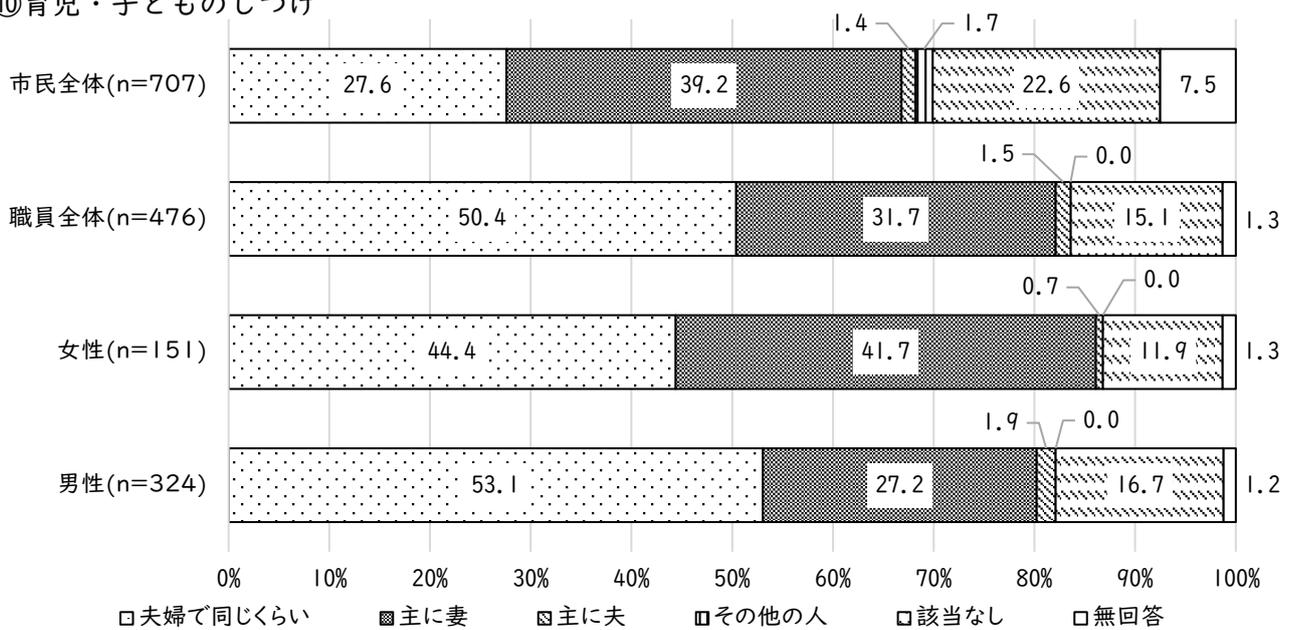


「⑩育児・子どものしつけ」

市民調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、職員が50.4%と市民27.6%より22.8ポイント高くなっています。

性別でみると、「主に妻」について、女性は41.7%と男性27.2%より、14.5ポイント高くなっています。

⑩育児・子どものしつけ

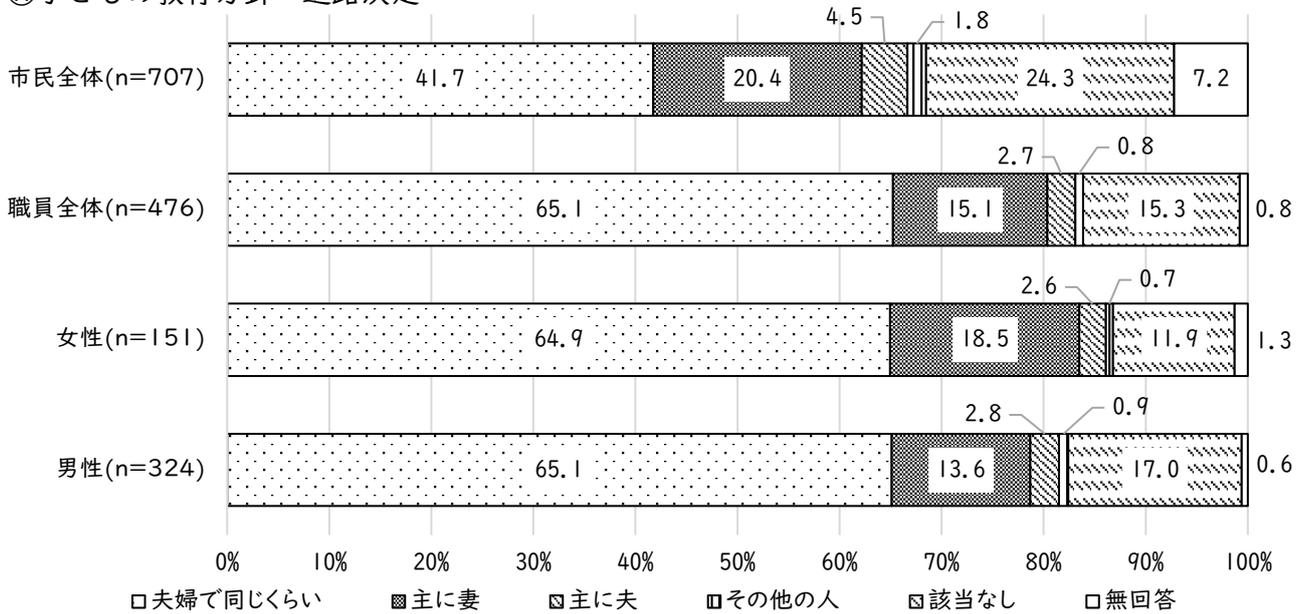


「①子どもの教育方針・進路決定」

市民調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、職員が65.1%と市民41.7%より23.4ポイント高くなっています。

性別による大きな差は見られません。

①子どもの教育方針・進路決定

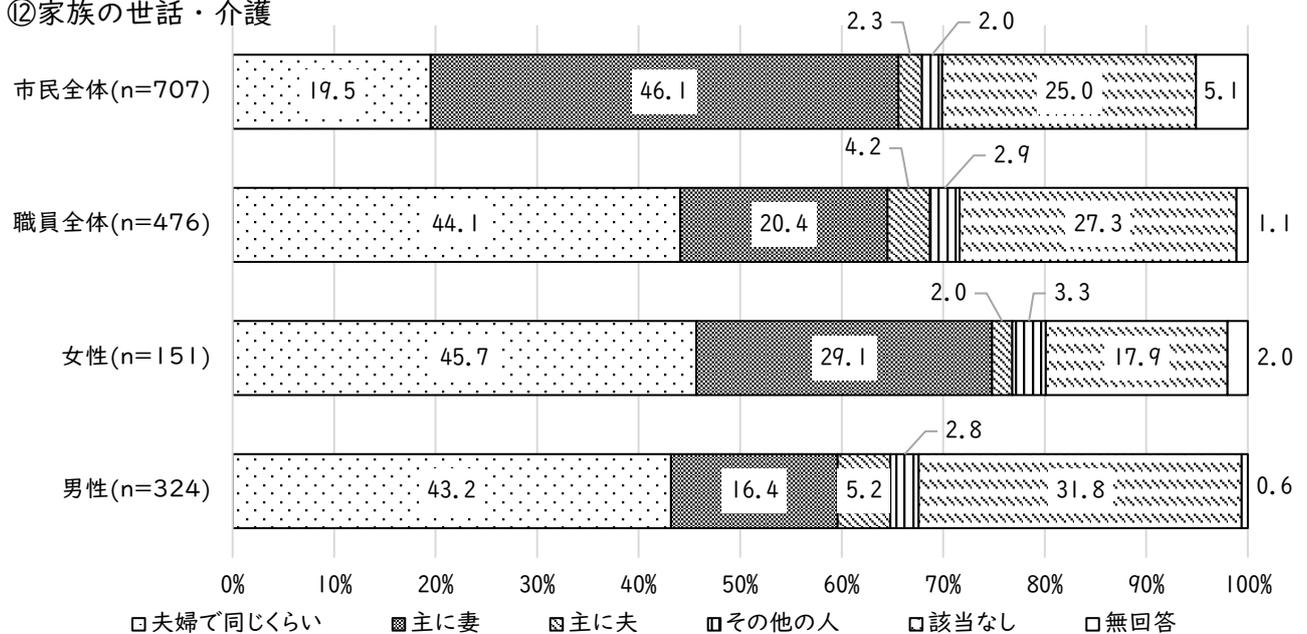


「②家族の世話・介護」

市民調査との比較では、「夫婦で同じくらい」について、職員が44.1%と市民19.5%より24.6ポイント高くなっています

性別でみると、「主に妻」について、女性は29.1%と男性16.4%より、12.7ポイント高くなっています。

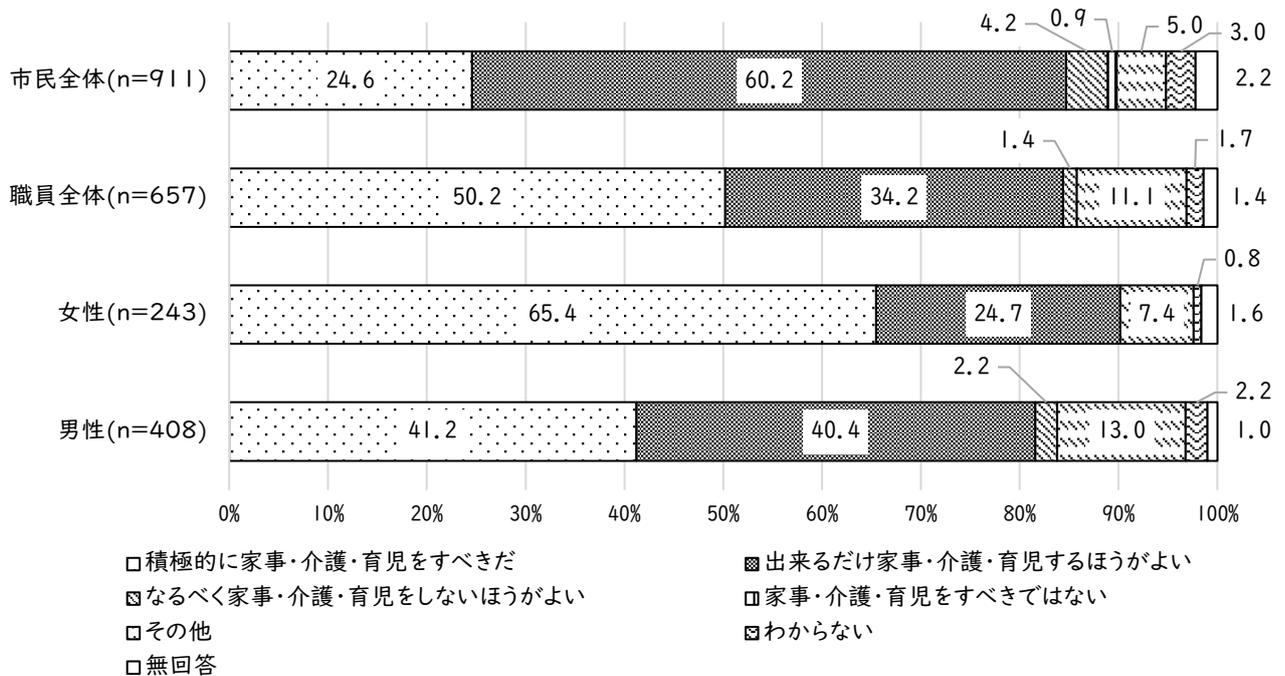
②家族の世話・介護



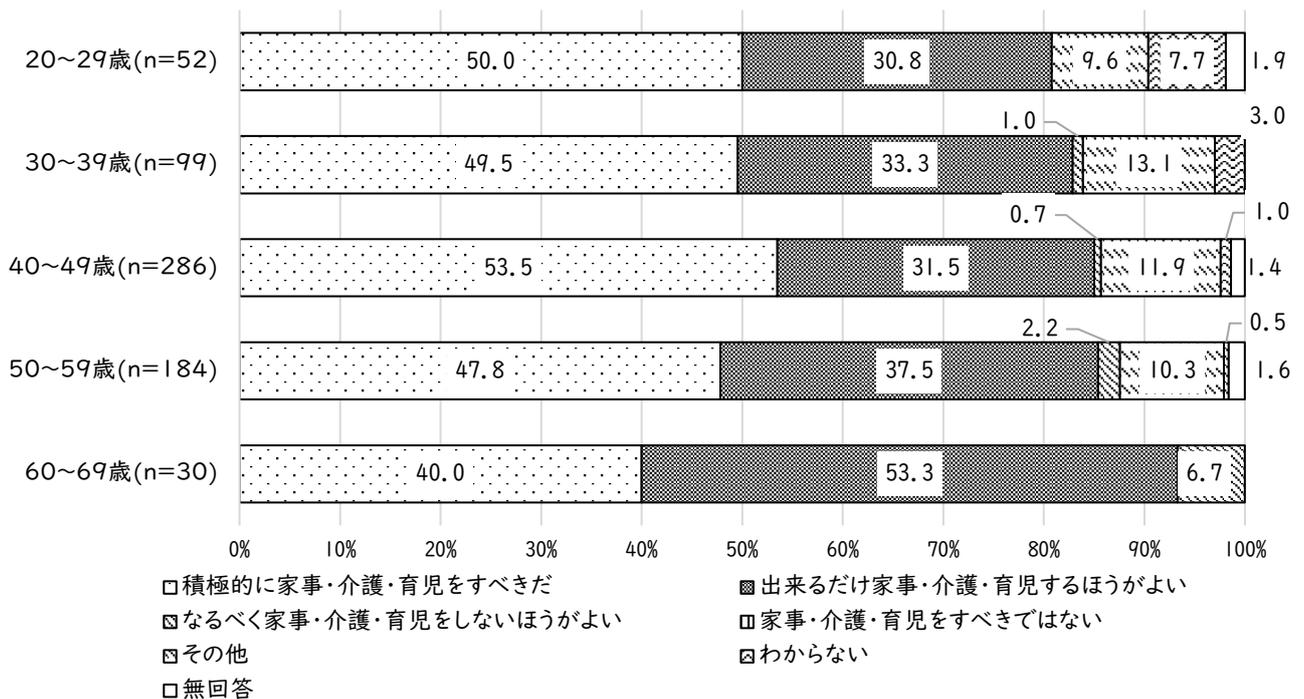
問12 あなたは、毎日の生活の中で男性が家事(炊事・洗濯・掃除)・介護・育児などをする事についてどう思いますか。

「男性が家事・介護・育児などをする事について」聞くと、全体で最も割合が高いのは、「積極的に家事・介護・育児をすべきだ」が 50.2%となっています。性別では、「積極的に家事・介護・育児をすべきだ」が、女性(65.4%)のほうが男性(41.2%)より、20ポイント以上高くなっています。

市民調査との比較では、「積極的に家事・介護・育児をすべきだ」について、職員が 50.2%と市民 24.6%より 25.6ポイント高くなっています。



年齢別では、「積極的に家事・介護・育児をすべきだ」「出来るだけ家事・介護・育児するほうがよい」を合わせた割合が、20歳代~50歳代で8割を超え、60歳代では9割を超えています。



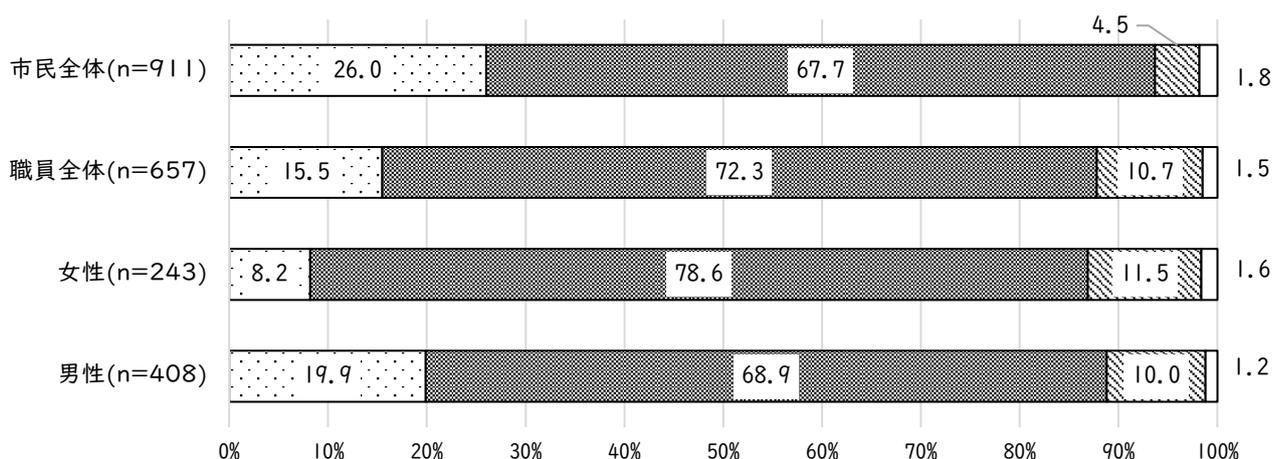
性別・職名別で見ると、女性の課長級は「積極的にすべき」が 85.7%と高い割合になっており、女性の主任級は 71.9%と 7 割を超えています。

		積極的にすべき	出来るだけするほうがよい	なるべくしないほうがよい	すべきでない	その他	わからない
全体		50.2%	34.2%	1.4%	0.0%	11.1%	1.7%
女性 (n=243)	部長級	-	-	-	-	-	-
	次長級	60.0%	20.0%	0.0%	-	20.0%	0.0%
	課長級	85.7%	14.3%	0.0%	-	0.0%	0.0%
	副参事級	45.2%	41.9%	0.0%	-	9.7%	0.0%
	主幹級	68.8%	25.0%	0.0%	-	6.3%	0.0%
	係長級・主査級	64.1%	23.1%	0.0%	-	10.3%	0.0%
	主任級	71.9%	17.2%	0.0%	-	6.3%	1.6%
	係員級	61.9%	28.6%	0.0%	-	7.1%	2.4%
男性 (n=408)	部長級	33.3%	66.7%	0.0%	-	0.0%	0.0%
	次長級	11.8%	58.8%	0.0%	-	23.5%	0.0%
	課長級	35.7%	46.4%	1.8%	-	10.7%	3.6%
	副参事級	48.1%	22.2%	3.7%	-	25.9%	0.0%
	主幹級	40.9%	43.9%	1.5%	-	12.1%	1.5%
	係長級・主査級	56.5%	33.7%	0.0%	-	7.6%	1.1%
	主任級	41.6%	32.5%	1.3%	-	22.1%	2.6%
	係員級	30.0%	50.0%	6.7%	-	6.7%	5.0%

問13 あなたは、女の子と男の子のしつけや教育についてどう思いますか。

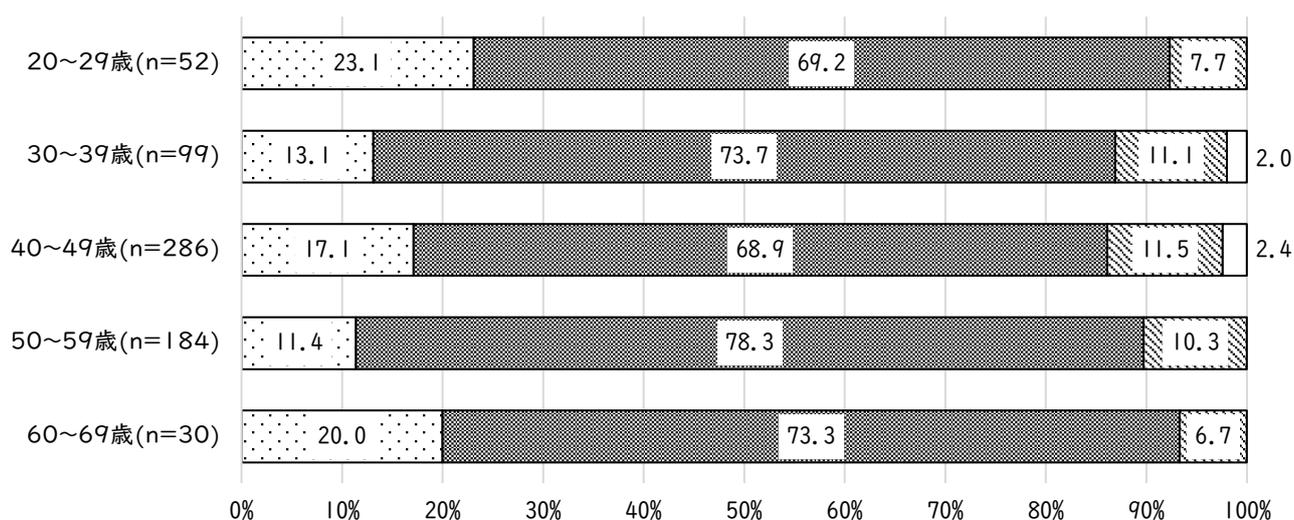
「女の子と男の子のしつけや教育について」聞くと、全体で最も割合が高いのは、「女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい」が72.3%となっています。性別では、「男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育をする方がよい」が、男性(19.9%)のほうが女性(8.2%)より、11.7ポイント高くなっています。

市民調査との比較では、「男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育する方がよい」について、職員が15.5%と市民26.0%より10.5ポイント低くなっています。



- 男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育をする方がよい
- 女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい
- ▨ その他
- 無回答

年齢別では、「男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育をする方がよい」について、最も割合が高かったのは20歳代で23.1%でした。



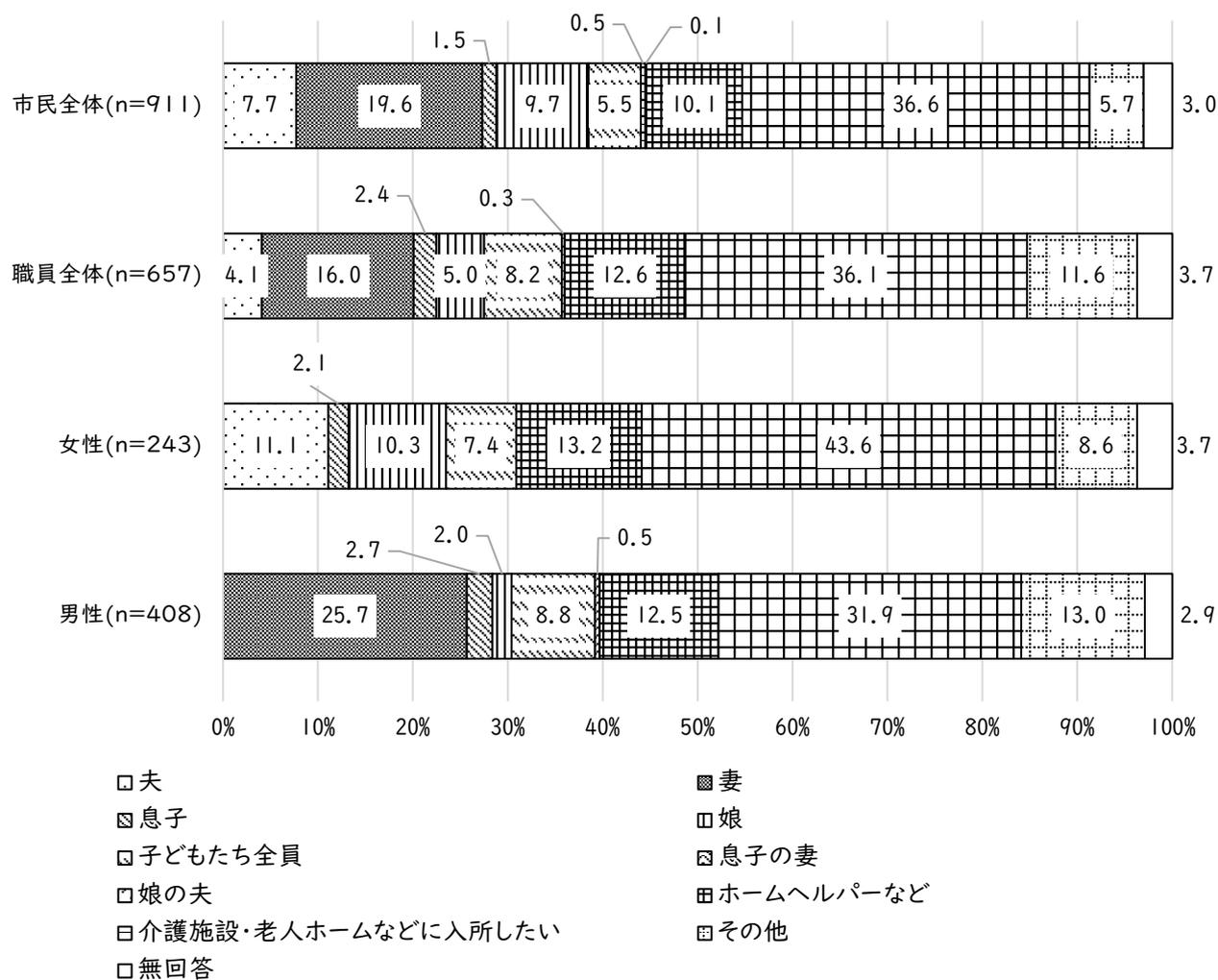
- 男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育をする方がよい
- 女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい
- ▨ その他
- 無回答

問14 あなたは将来、主に誰に介護をしてほしいと思いますか。

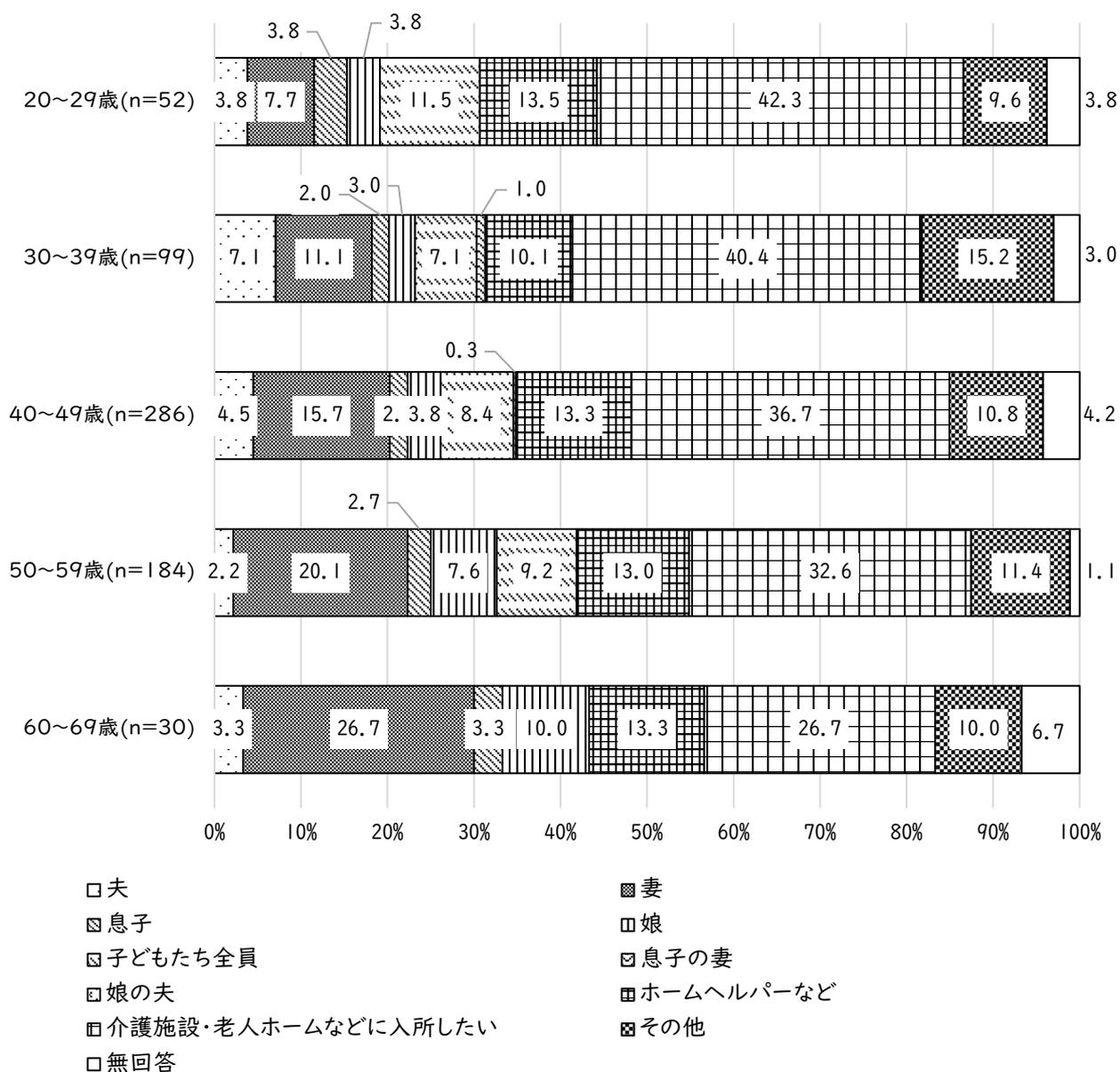
全体で最も割合が高いのは、「介護施設・老人ホームなどに入所したい」が 36.1%、次いで「妻」が 16.0%となっています。

市民調査との比較では、大きな差はありません。

性別では、女性は「介護施設・老人ホームなどに入所したい」が 43.6%と最も割合が高く、次いで「ホームヘルパーなど」13.2%となっています。男性は「介護施設・老人ホームなどに入所したい」が 31.9%と最も割合が高く、次いで「妻」25.7%となっています。



年齢別では、20歳代と30歳代で「介護施設・老人ホームなどに入所したい」が4割を超えています。60歳では「妻」が26.7%と他の年代に比べて高い割合になっています。

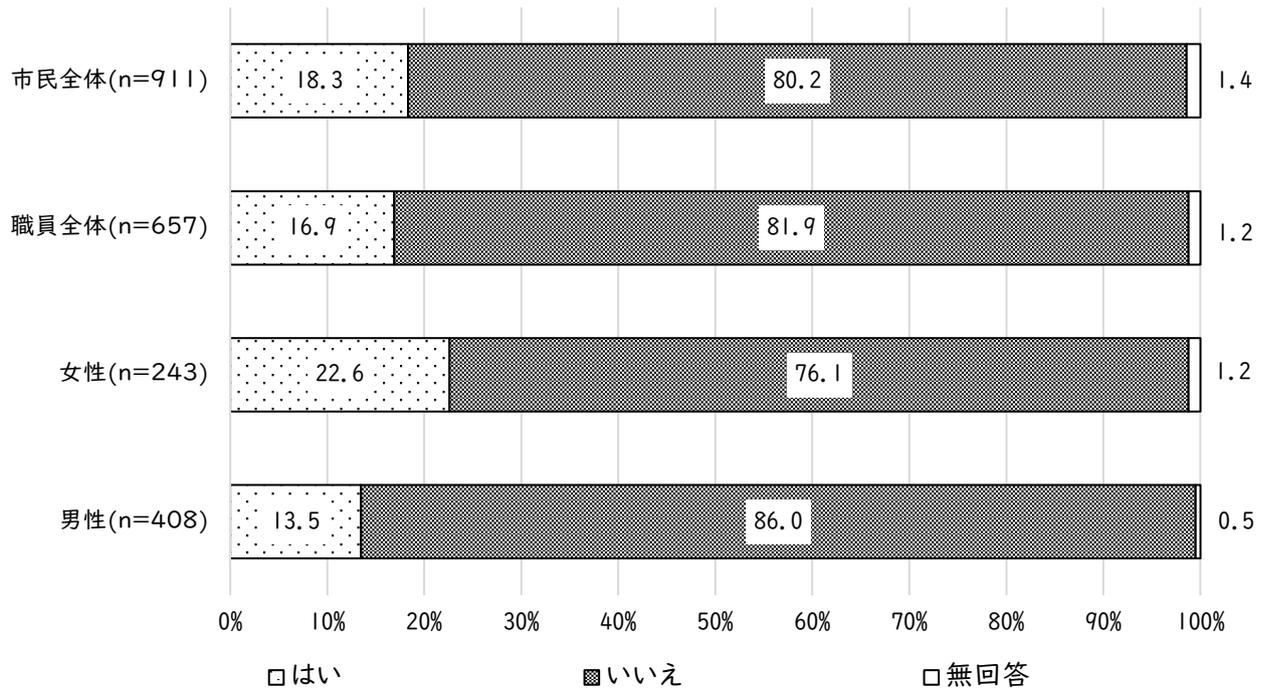


問15 あなたの家族(同居・別居に関わらず)で、常時介護の必要な方はいますか。

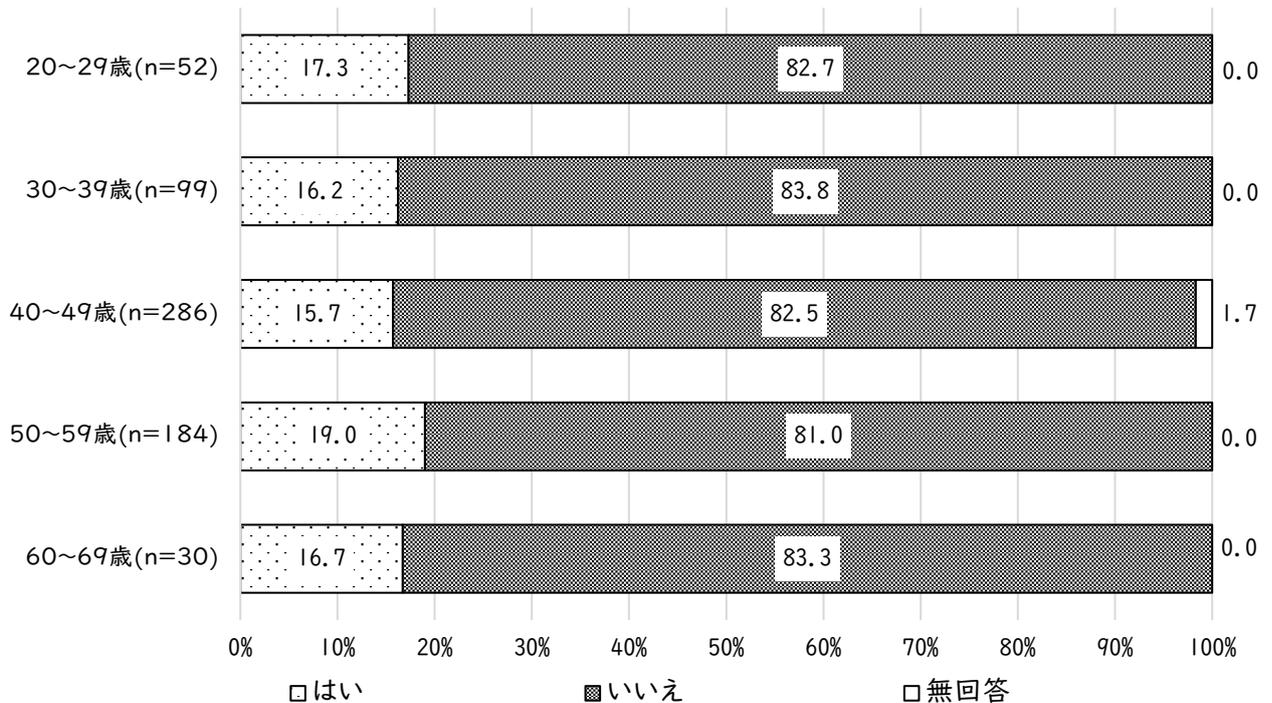
全体では、「はい」の割合が16.9%、「いいえ」の割合が81.9%となっています。

市民調査との比較では、大きな差はありません。

性別でみると、「はい」について、女性は22.6%と男性13.5%より、9.1ポイント高くなっています。



年齢別では、大きな差は見られません。

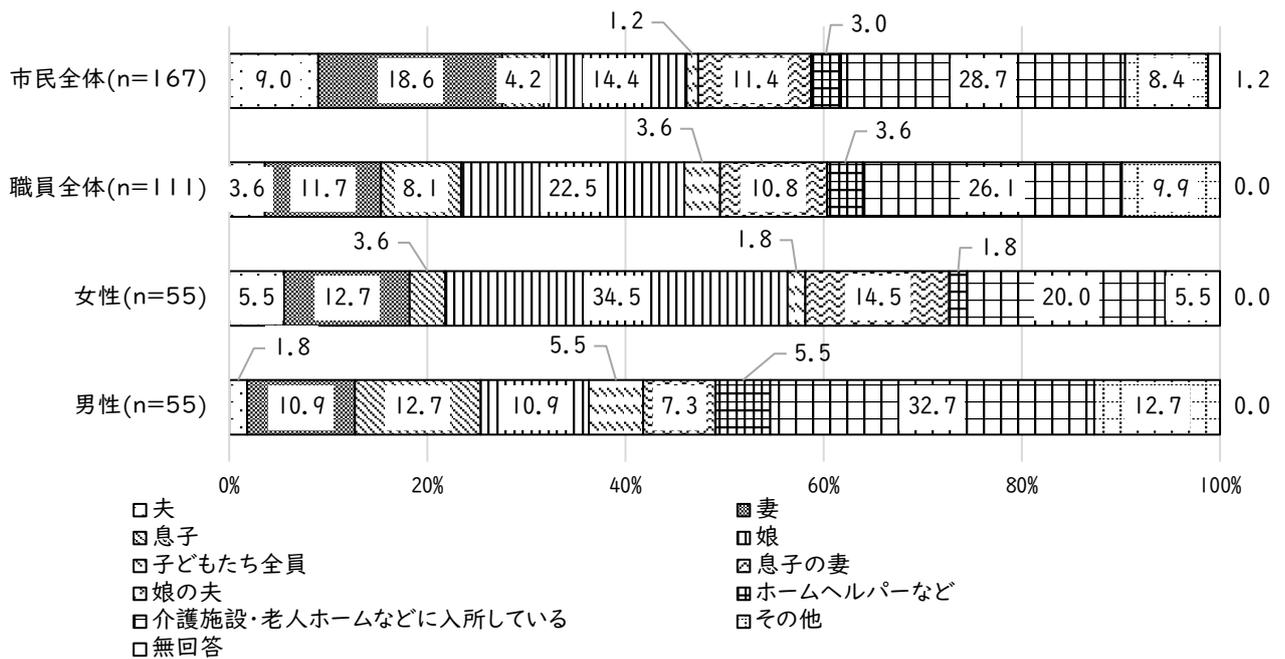


問16 問15で「1.はい」に○印をつけた方におたずねします。その方の世話は、要介護者から見て主に誰がしていますか。(n=111)

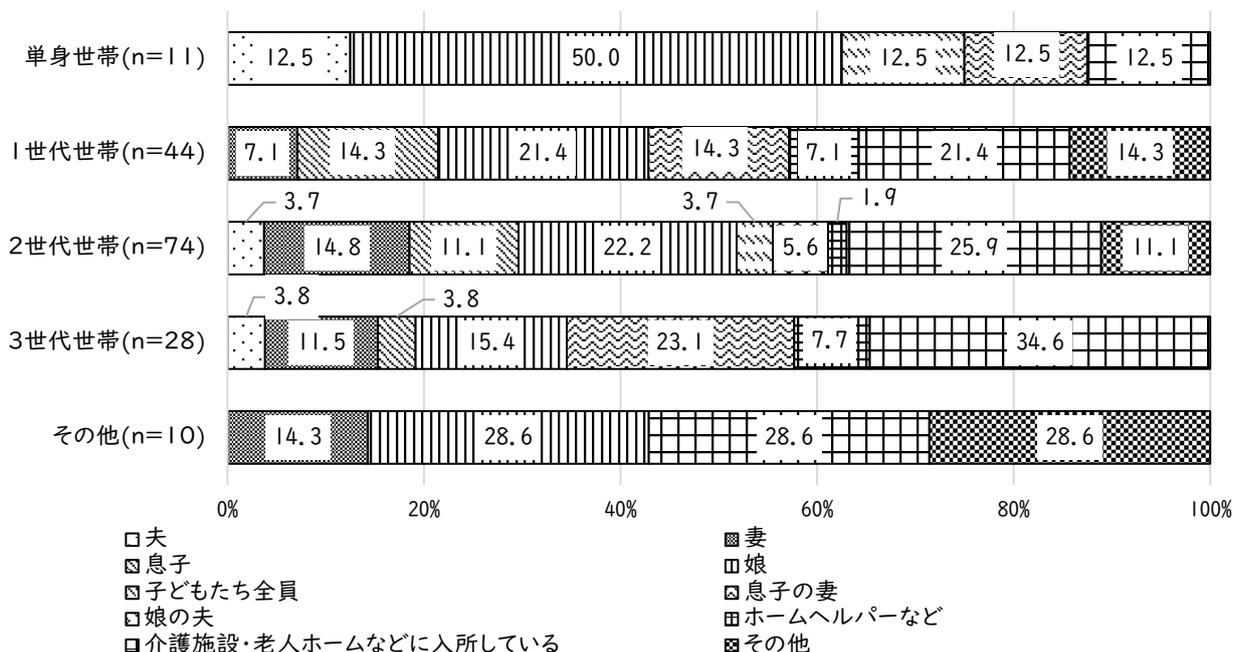
介護の必要な方がいるかどうかで「はい」に○印をつけた111人(女性55人、男性55人、性別無回答1人)に、要介護者から見て誰が世話をしているか聞いています。全体で最も割合が高いのは、「介護施設・老人ホームなどに入所している」が26.1%、次いで「娘」が22.5%となっています。

市民調査との比較では、「妻」について、職員が11.7%と市民18.6%より6.9ポイント低くなっています。

性別では、女性では「娘」34.5%が最も割合が高く、男性では「介護施設・老人ホームなどに入所している」32.7%が最も割合が高くなっています。



家族構成別でみると、単身世帯では「娘」が50.0%と最も割合が高く、それ以外では「介護施設・老人ホームなどに入所している」の割合が最も高くなっています。



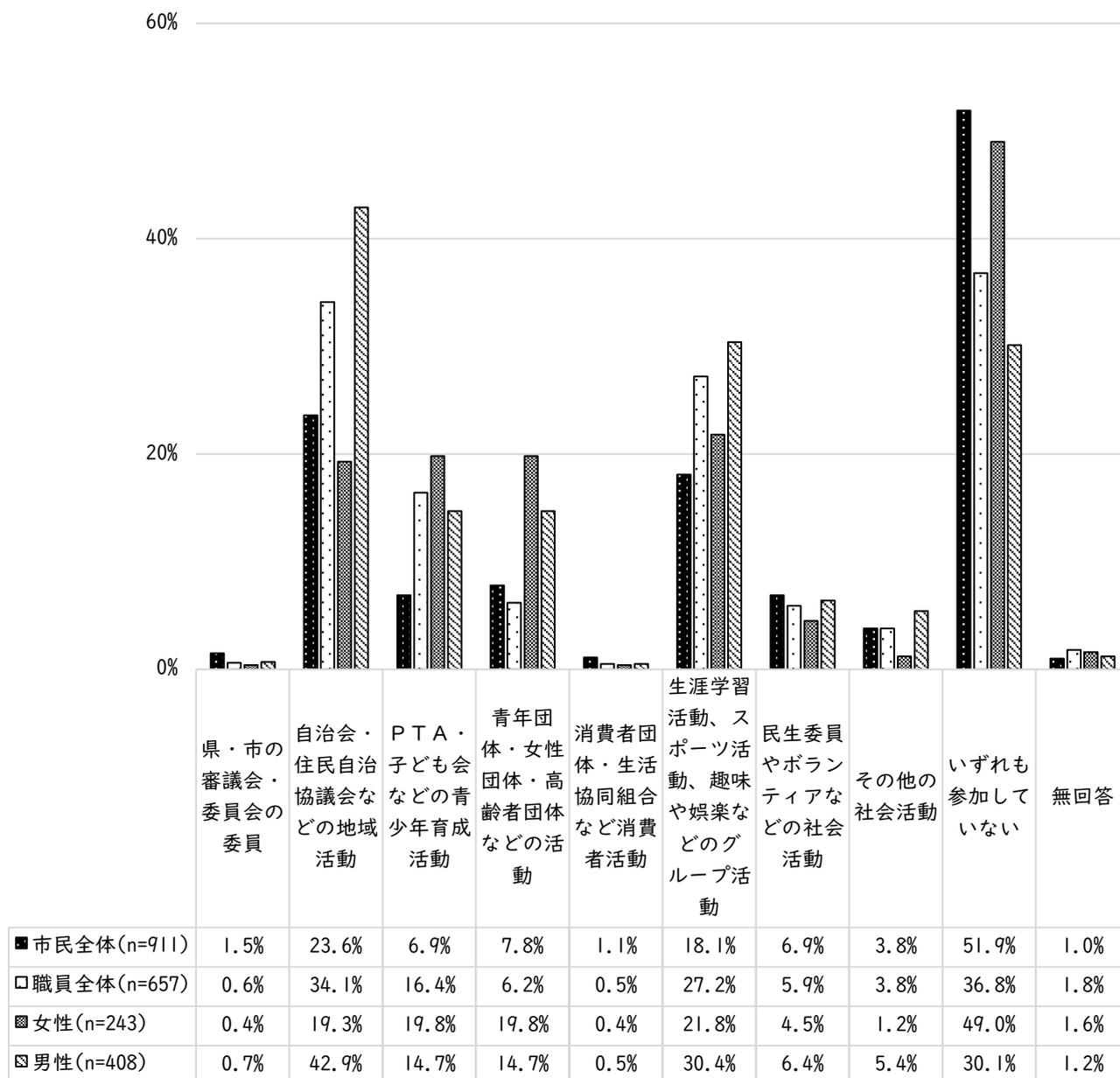
## 4.社会活動について

問17 あなたは、つぎのような活動をしていますか。(〇はいくつでも)

全体で最も割合が高いのは、「いずれも参加していない」が 36.8%、次いで「自治会・住民自治協議会などの地域活動」が 34.1%となっています。

市民調査との比較では、「いずれも参加していない」について、職員が 36.8%と市民が 51.9%より 15.1 ポイント低くなっています。

性別で見ると、女性では「いずれも参加していない」が 49.0%と最も割合が高くなっています。男性では「自治会・住民自治協議会などの地域活動」が 42.9%と最も割合が高く、女性より 23.6 ポイント高くなっています。



職名別をみると、部長級では「自治会・住民自治協議会などの地域活動」の割合が66.7%と最も割合が高くなっています。また次長級、課長級では、5割を超えています。係員級では「いずれも参加していない」の割合が、64.7%と最も割合が高くなっています。

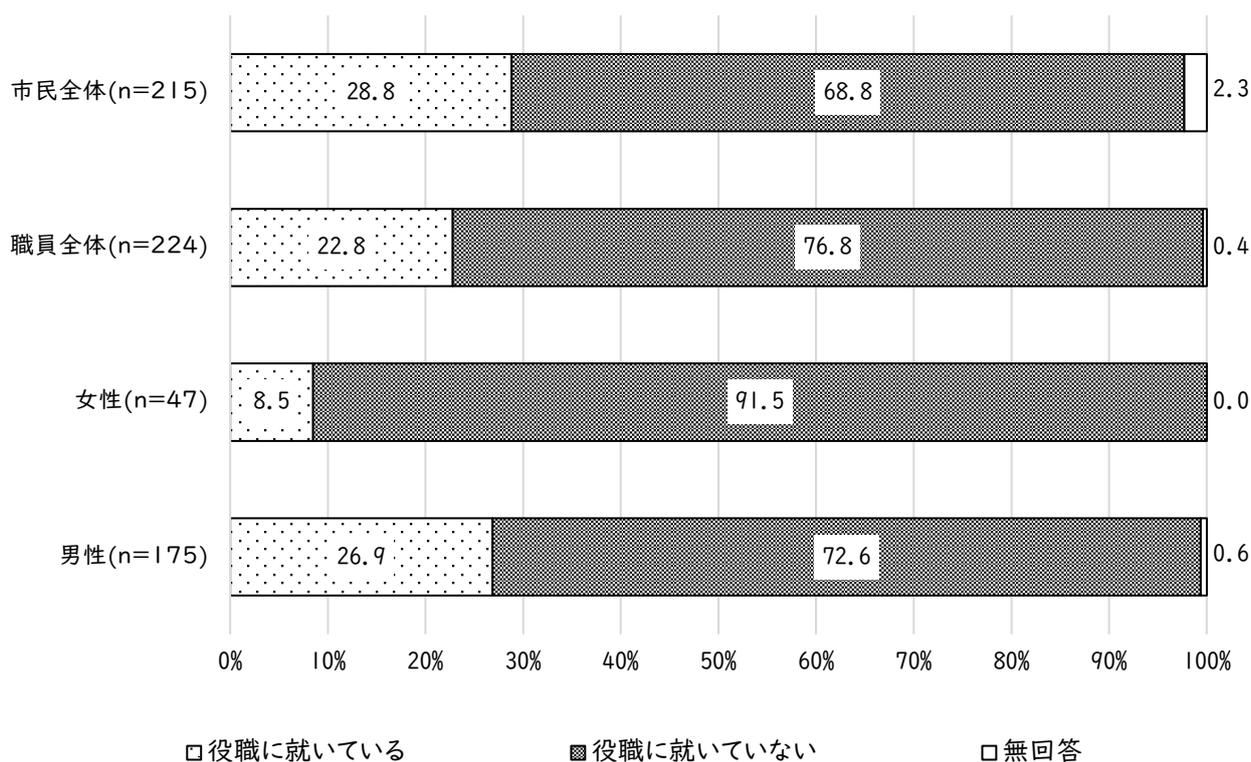
			県・市の審議会・委員会の委員	自治会・住民自治協議会などの地域活動	PTA・子ども会などの青少年育成活動	青年団体・女性団体・高齢者団体などの活動	消費者団体・生活協同組合などの消費者活動	生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動	社会活動 民生委員やボランティアなどの	その他の社会活動など	いずれも参加していない	無回答
職名	部長級 (n=9)	数	0	6	0	0	0	4	1	0	3	0
		%	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	44.4	11.1	0.0	33.3	0.0
	次長級 (n=23)	数	0	13	0	2	0	8	3	2	6	0
		%	0.0	56.5	0.0	8.7	0.0	34.8	13.0	8.7	26.1	0.0
	課長級 (n=70)	数	3	35	6	2	0	22	9	4	16	2
		%	4.3	50.0	8.6	2.9	0.0	31.4	12.9	5.7	22.9	2.9
	副参事級 (n=58)	数	1	27	7	5	0	19	5	2	20	1
		%	1.7	46.6	12.1	8.6	0.0	32.8	8.6	3.4	34.5	1.7
	主幹級 (n=114)	数	0	38	27	1	0	32	3	3	41	0
		%	0.0	33.3	23.7	0.9	0.0	28.1	2.6	2.6	36.0	0.0
	係長・主査級 (n=131)	数	0	55	34	15	2	37	5	8	35	1
		%	0.0	42.0	26.0	11.5	1.5	28.2	3.8	6.1	26.7	0.8
	主任級 (n=141)	数	0	37	27	12	1	39	5	5	54	3
		%	0.0	26.2	19.1	8.5	0.7	27.7	3.5	3.5	38.3	2.1
	係員級 (n=102)	数	0	11	7	4	0	15	6	1	66	2
		%	0.0	10.8	6.9	3.9	0.0	14.7	5.9	1.0	64.7	2.0

問18 問17で「2.自治会・住民自治協議会などの地域活動」に○印をつけた方におたずねします。その組織内で、意思決定に関わる役職(会長・役員など)に就いていますか。(n=224)

社会活動で「自治会・住民自治協議会などの地域活動」に○印をつけた224人(女性47人、男性175人、性別無回答2人)に、役職に就いているのか聞いています。全体では「役職に就いている」の割合が22.8%、「役職に就いていない」の割合が76.8%となっています。

市民調査との比較では、「役職に就いている」について、職員が22.8%と市民28.8%より6.0ポイント低くなっています。

性別でみると、「役職に就いている」について、女性は8.5%と男性29.6%より、21.1ポイント高くなっています。

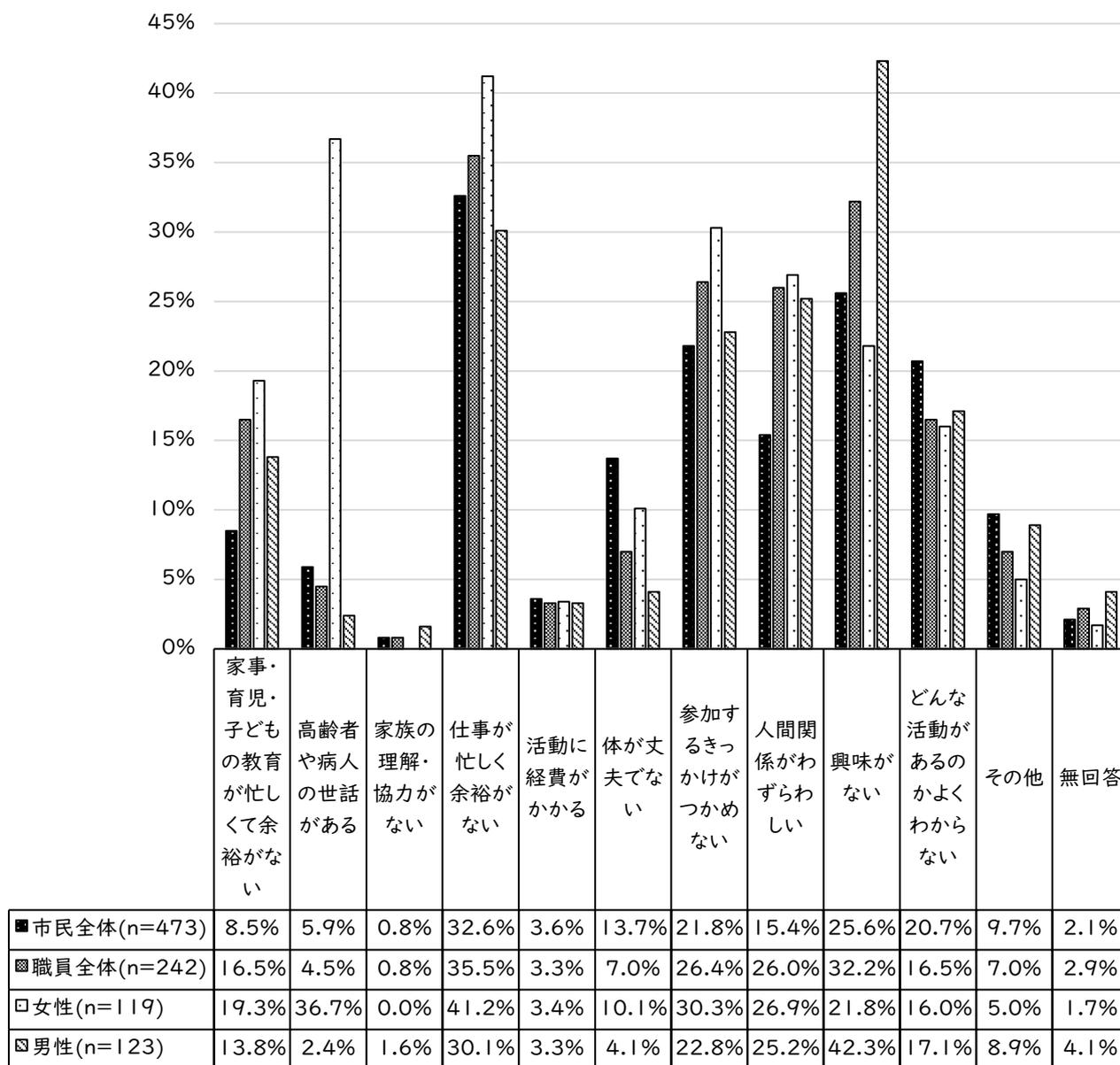


問19 問17で「9.いずれも参加していない」に○印をつけた方におたずねします。その理由は何ですか。(○はいくつでも)(n=242)

社会活動で「いずれも参加していない」に○印をつけた 242 人(女性 119 人、男性 123 人)に、その理由を聞いています。全体で最も割合が高いのは、「仕事が忙しく余裕がない」が 35.5%、次いで「興味がない」が 32.2%となっています。

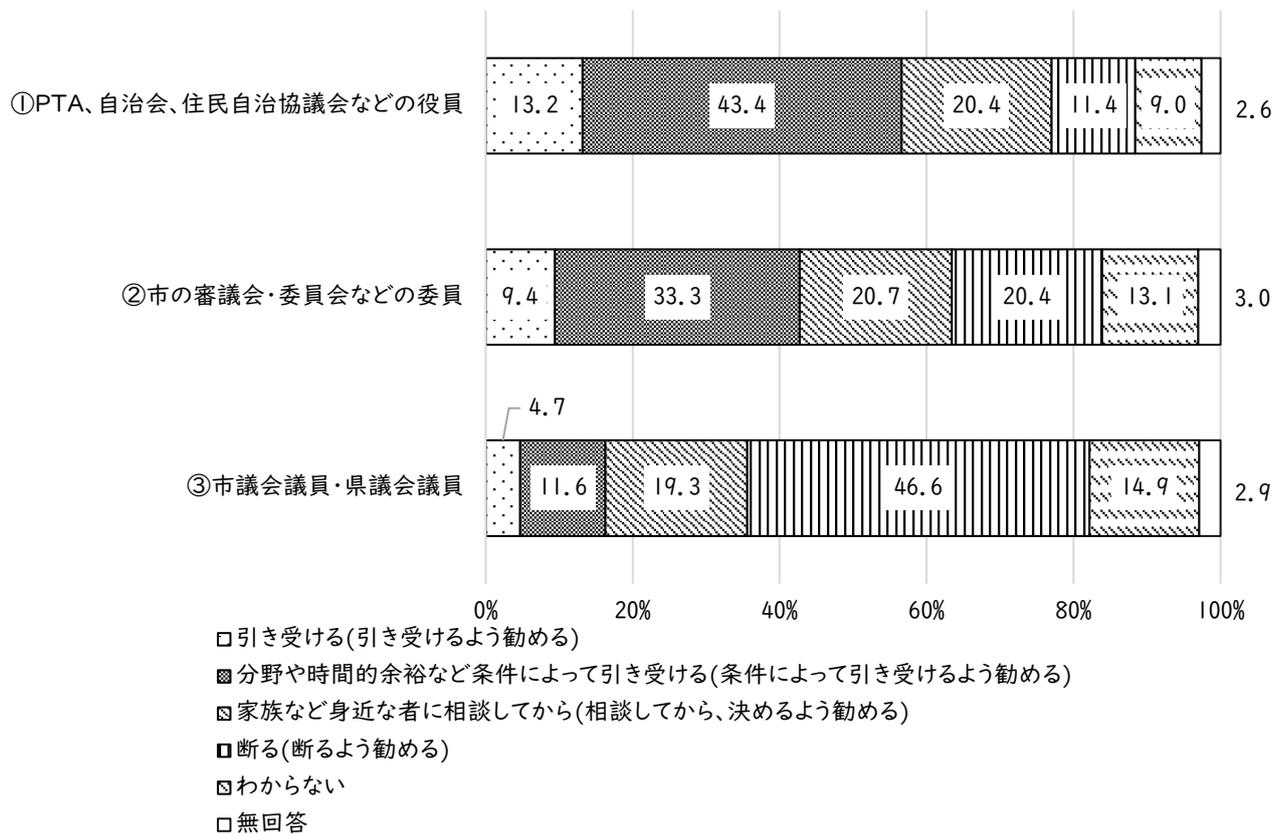
市民調査との比較では、「人間関係がわずらわしい」について、職員が 26.0%と市民 15.4%より、10.6 ポイント高くなっています。

性別でみると、女性では「仕事が忙しく余裕がない」が 41.2%と最も割合が高くなっています。男性では「興味がない」が 42.3%と最も割合が高くなっています。



問20 女性の場合はあなたが、男性の場合は妻・母親など身近な女性が、次のような役職に就く(立候補する)ことを依頼された場合はどうしますか。

女性が役職に就く(立候補する)ことについて、「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)」で最も割合が高かったのは、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」43.4%、次いで「②市の審議会・委員会などの委員」33.3%となっています。「断る(断るよう勧める)」で最も割合が高かったのは、「③市議会議員・県議会議員」46.6%となっています。

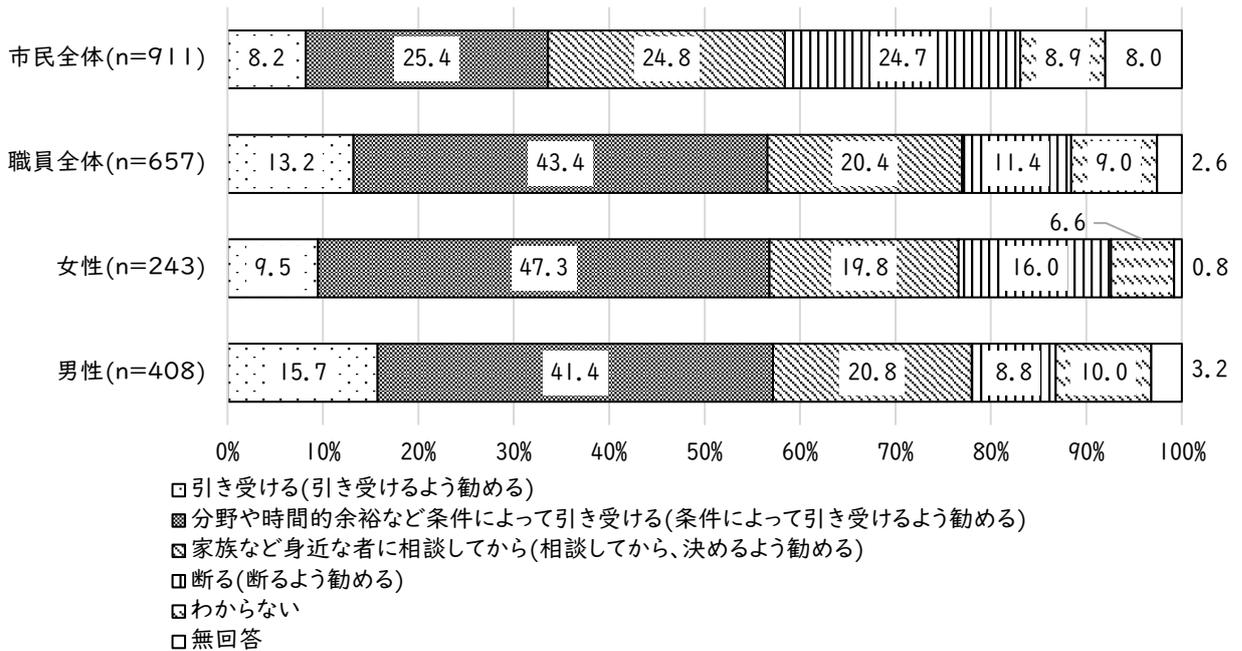


「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」

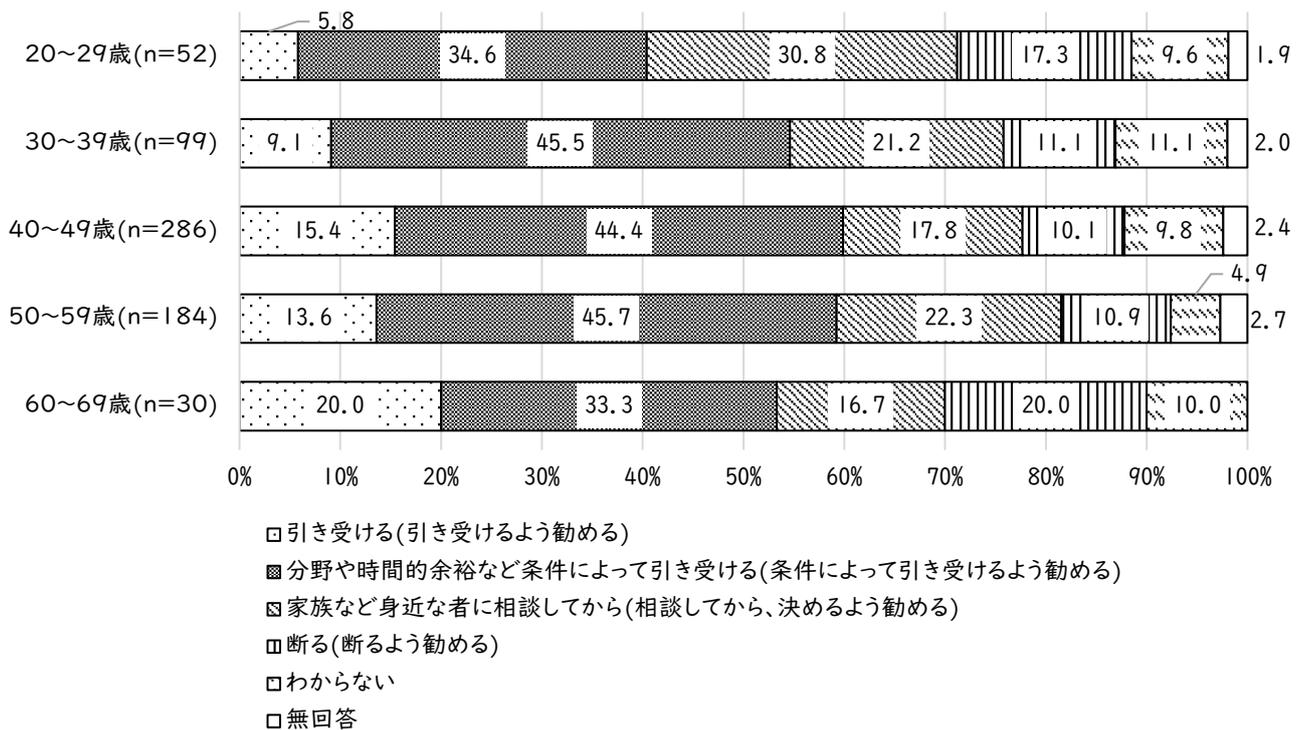
全体で最も割合が高いのは、「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)」が 43.4%、次いで「家族など身近な者に相談してから決める(相談してから、決めるよう勧める)」が 20.4%となっています。

市民調査との比較では、「分野や時間的余裕などによって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)」について、職員が 43.4%と市民 25.4%より 18.0 ポイント高くなっています。

性別でみると、「断る(断るよう勧める)」について、女性は 16.0%と男性 8.8%より 7.2 ポイント高くなっています。



年齢別では、60歳代で「引き受ける(引き受けるよう勧める)」の割合が 20.0%と、他の年代に比べて高くなっており、20歳代と比べ 14.2 ポイント高くなっています。

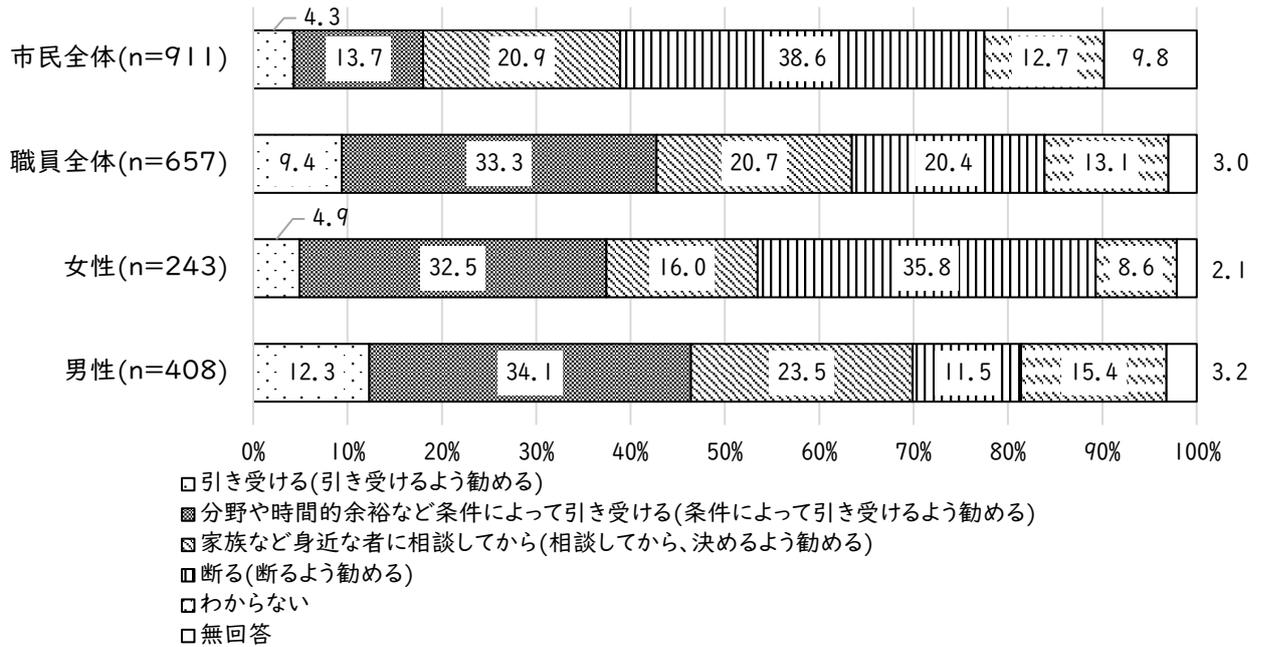


「②市の審議会・委員会などの委員」

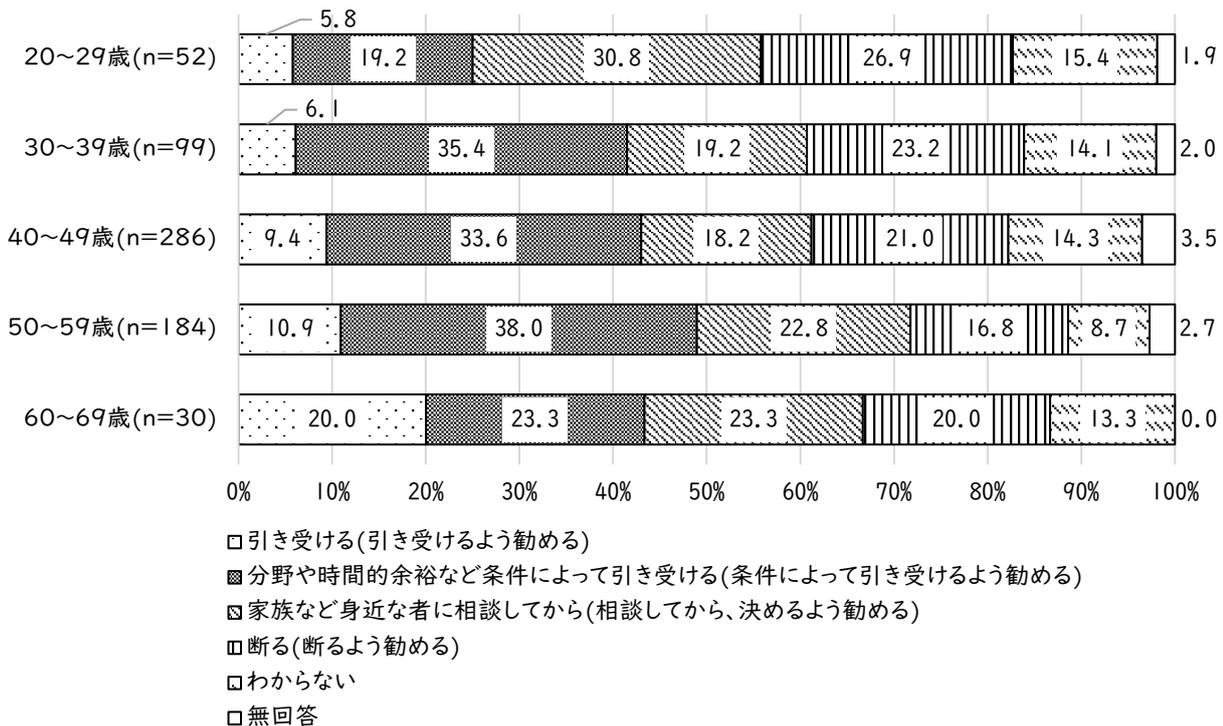
全体で最も割合が高いのは、「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)」が 33.3%、次いで「家族など身近な者に相談してから決める(相談してから、決めるよう勧める)」が 20.7%となっています。

市民調査との比較では、「分野や時間的余裕などによって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)」について、職員が 33.3%と市民 13.7%より 19.6 ポイント高くなっています。

性別でみると、「断る(断るよう勧める)」について、女性は 35.8%と男性 11.5%より 24.3 ポイント高くなっています。



年齢別では、50 歳代で「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける(条件によって引き受けるよう勧める)」の割合が 38.0%、20 歳代と比べ 18.8 ポイント高くなっています。

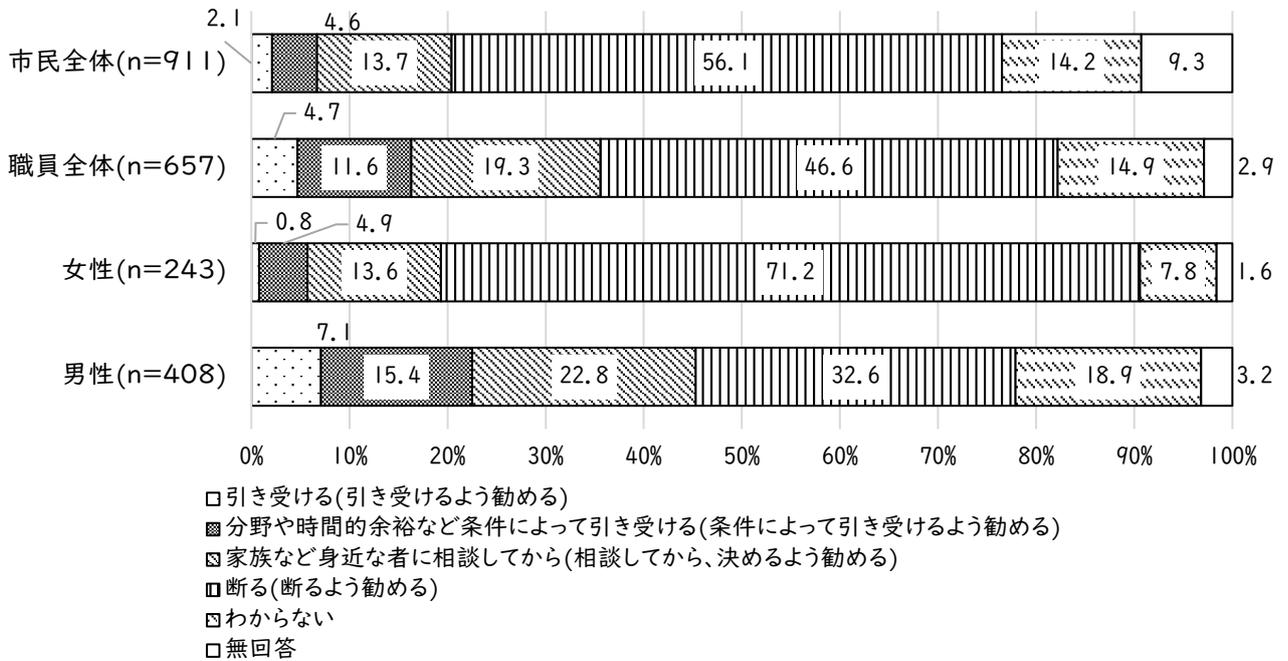


「③市議会議員・県議会議員」

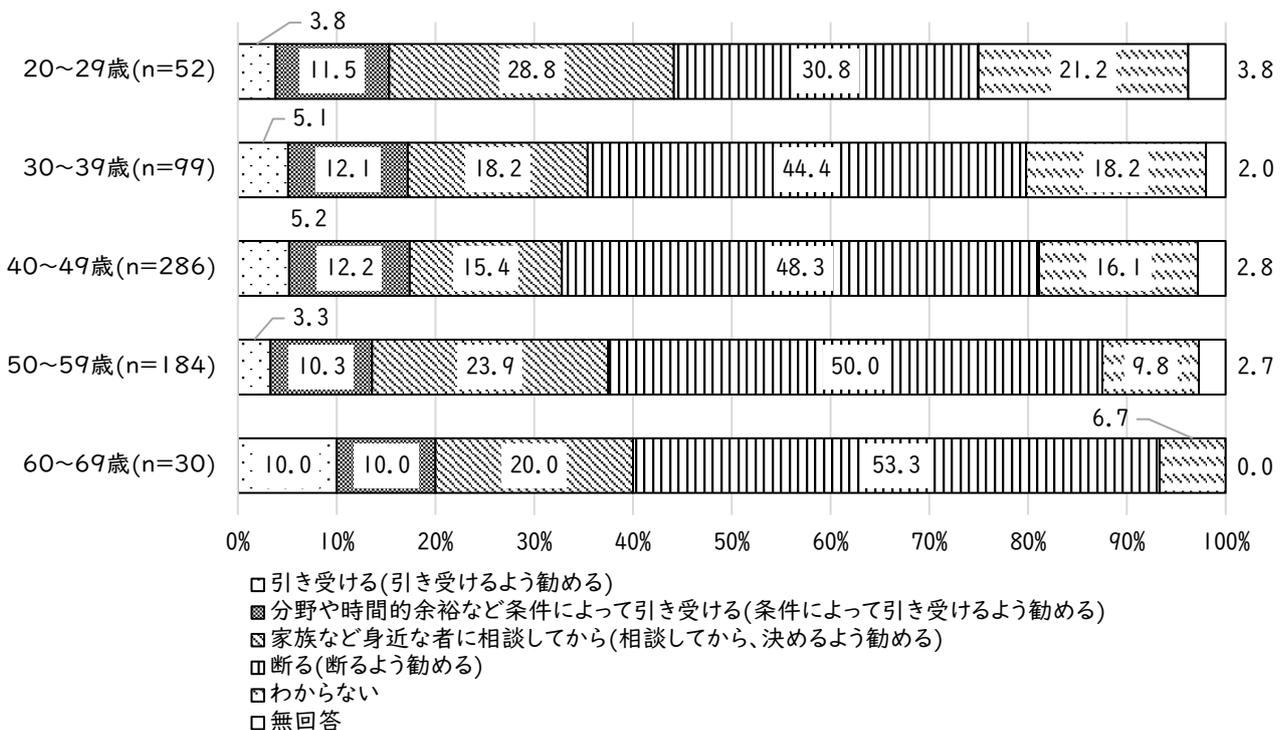
全体で最も割合が高いのは、「断る(断るよう勧める)」が 46.6%、次いで「家族など身近な者に相談してから決める(相談してから、決めるよう勧める)」が 19.3%となっています。

市民調査との比較では、「断る(断るよう勧める)」について、職員が 46.6%と市民 56.1%より 9.5ポイント低くなっています。

性別で見ると、「断る(断るよう勧める)」について、女性は 71.2%と男性 32.6%より 38.6ポイント高くなっています。



年齢別では、すべての年代で「断る(断るよう勧める)」の割合が最も高くなっています。その中でも、50歳代と60歳代で半数を超えています。



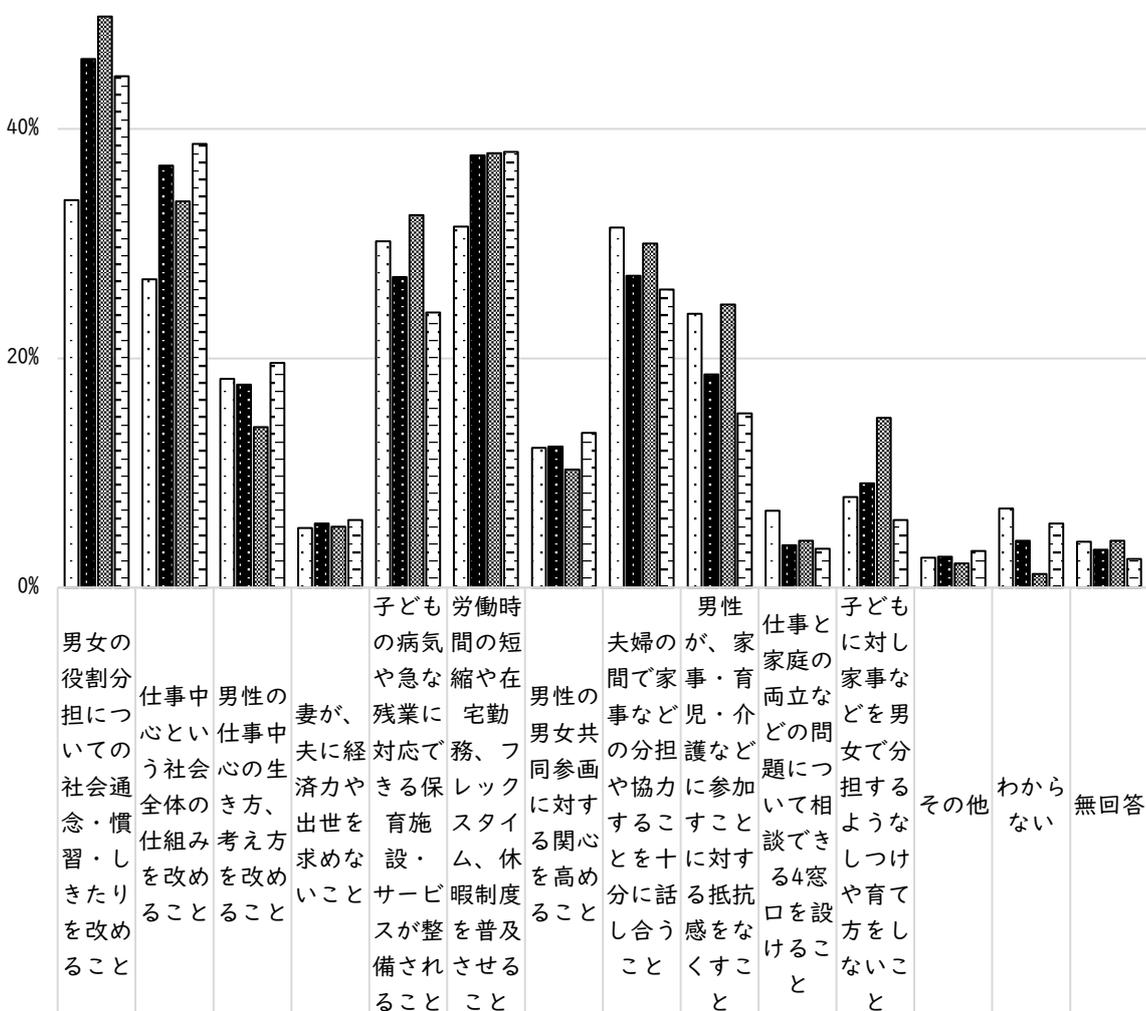
問21 今後、女性・男性関係なく家事、子育てや教育、介護および地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体で最も割合が高いのは、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が46.1%、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム、休暇制度を普及させること」が37.7%となっています。

市民調査との比較では、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」について、職員が46.1%と市民33.8%より12.3ポイント高くなっています。

性別で見ると、女性・男性とも「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も割合が高く、女性は49.8%、男性は44.6%となっています。また、「男性が、家事・育児・介護などに参加することに対する抵抗感をなくすこと」について、女性は24.7%と男性15.2%より9.5ポイント高くなっています。

60%



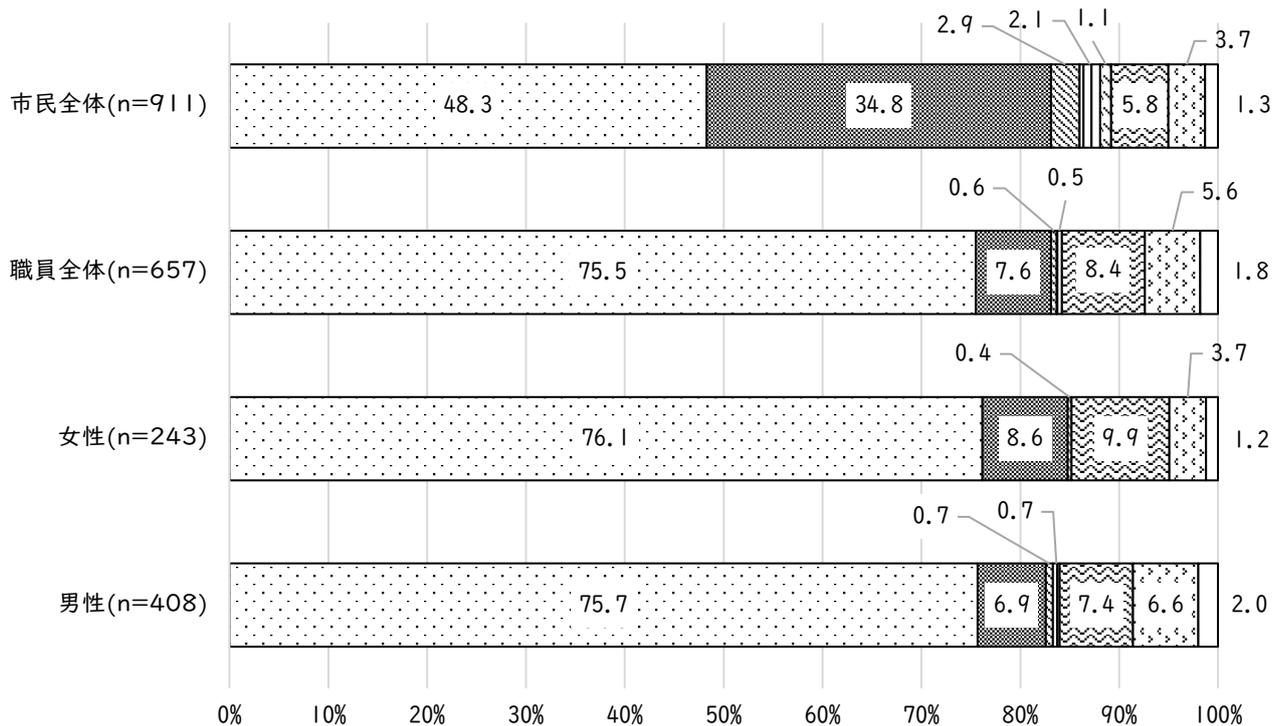
## 5.職業生活について

問22 女性が職業をもつことについてあなたはどのように思いますか。

全体で最も割合が高いのは、「子どもができてもずっと職業をもち続ける方がよい」が 75.5%となっています。

市民調査との比較では、「子どもができてもずっと職業をもち続ける方がよい」について、職員が 75.5%と市民 48.3%より 27.2 ポイント高くなっています。

性別でみると、女性・男性とも「子どもができてもずっと職業をもち続ける方がよい」が 7 割を超えています。



子どもができてもずっと職業をもち続ける方がよい

子どもができて辞め、成長したら再び職業をもつ方がよい

子どもができるまでは、職業をもち方がよい

結婚するまでは、職業をもち方がよい

女性は職業をもつたない方がよい

その他

わからない

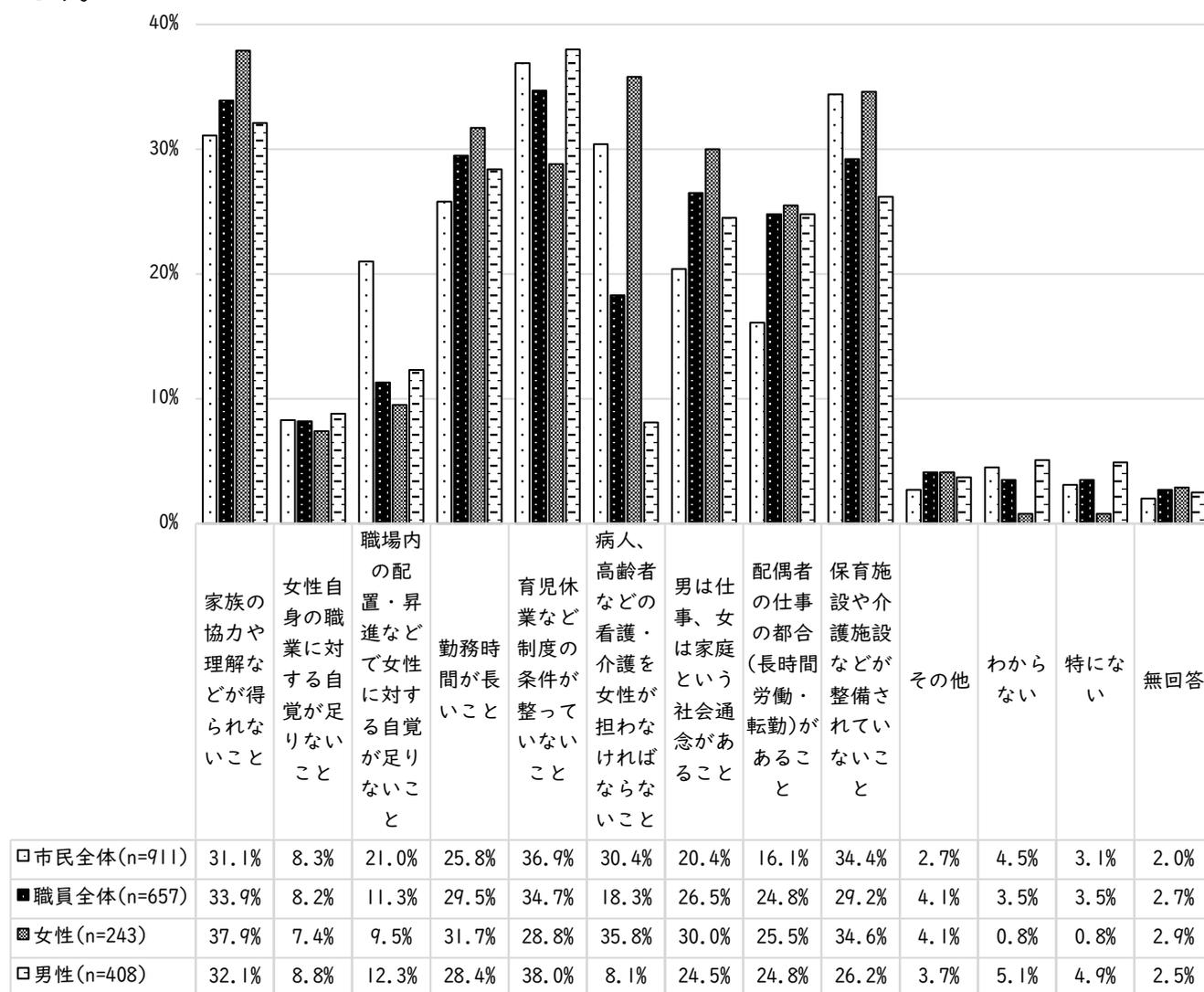
無回答

問23 女性が働き続けていくうえで障壁になっているのは何だと思いますか、(〇は3つまで)

全体で最も割合が高いのは、「育児休業など制度の条件が整っていないこと」が 34.7%、次いで「家族の協力や理解などが得られないこと」が 33.9%となっています。

市民調査との比較では、「病人、高齢者などの看護・介護を女性が担わなければならないこと」について、職員が 18.3%と市民 30.4%より 12.1 ポイント低くなっています。また、「職場内の配置・昇進などで女性に対する偏見があること」について、職員調査が 11.3%と市民調査 21.0%より 9.7 ポイント低くなっています。

性別でみると、女性では「家族の協力や理解などが得られないこと」が 37.9%と最も割合が高くなっています。男性では「育児休業など制度の条件が整っていないこと」が 38.0%と最も割合が高くなっています。



年齢別でみると、20歳代・30歳代・40歳代では「育児休業など制度の条件が整っていないこと」が最も割合が高く、20歳代は40.4%、30歳代は39.4%、40歳代は29.7%となっています。50歳代では「家族の協力や理解が得られないこと」が最も割合が高く45.1%となっています。60歳代では「保育施設や介護施設などが整備されていないこと」が最も割合が高く46.7%となっています。

勤続年数でみると、1年未満・20年以上では「家族の協力や理解などが得られないこと」が最も割合が高く、1年未満は45.5%、20年以上は39.3%となっています。1～3年・10～20年では「育児休業など制度の条件が整っていないこと」が最も割合が高く、1～3年は53.8%、10～20年は32.0%となっています。5～10年では「育児休業など制度の条件が整っていないこと」「保育施設や介護施設などが整備されていないこと」が最も割合が高く、各44.8%となっています。

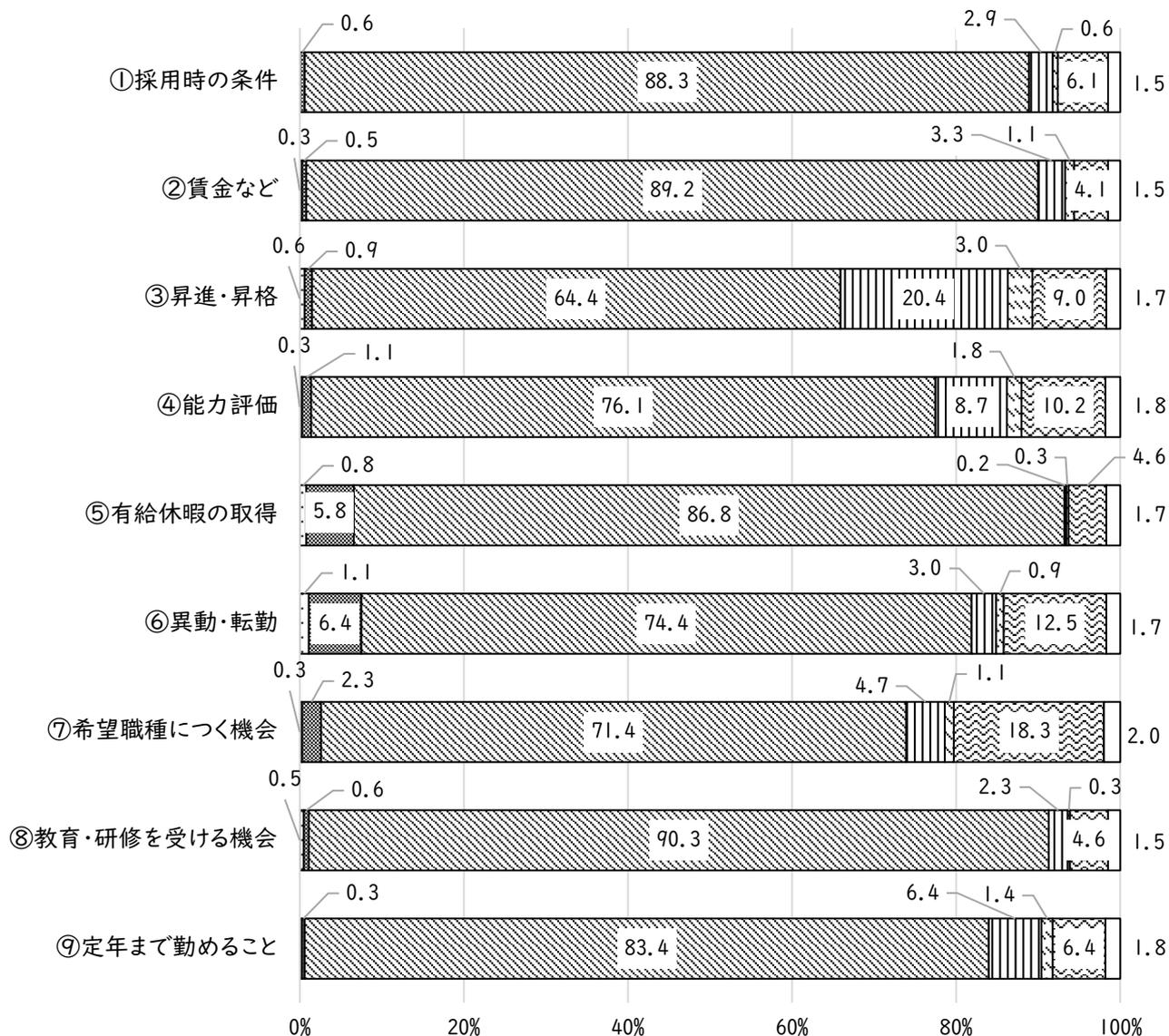
			家族の協力や理解などが得られないこと	女性自身の職業に対する自覚が足りないこと	職場内の配置・昇進などで女性に対する偏見があること	勤務時間が長いこと	育児休業など制度の条件が整っていないこと	病人・高齢者などの看護・介護を女性が担わなければならないこと	男は仕事、女は家庭という社会通念があること	配偶者の仕事の都合(長時間労働・転勤)があること	保育施設や介護施設などが整備されていないこと	その他	わからない	特になし	無回答
			数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数
年齢	20～29歳 (n=52)	数	14	5	7	18	21	9	12	13	18	1	2	2	1
		%	26.9	9.6	13.5	34.6	40.4	17.3	23.1	25.0	34.6	1.9	3.8	3.8	1.9
	30～39歳 (n=99)	数	30	8	7	31	39	10	21	29	31	3	1	5	6
		%	30.3	8.1	7.1	31.3	39.4	10.1	21.2	29.3	31.3	3.0	1.0	5.1	6.1
	40～49歳 (n=286)	数	83	25	33	84	85	52	83	73	72	16	15	9	8
		%	29.0	8.7	11.5	29.4	29.7	18.2	29.0	25.5	25.2	5.6	5.2	3.1	2.8
50～59歳 (n=184)	数	83	14	20	51	69	43	49	44	56	5	5	5	2	
	%	45.1	7.6	10.9	27.7	37.5	23.4	26.6	23.9	30.4	2.7	2.7	2.7	1.1	
60～69歳 (n=30)	数	12	2	6	10	12	6	7	4	14	0	0	1	0	
	%	40.0	6.7	20.0	33.3	40.0	20.0	23.3	13.3	46.7	0.0	0.0	3.3	0.0	
勤続年数	1年未満 (n=22)	数	10	4	2	9	8	1	7	5	5	1	0	0	0
		%	45.5	18.2	9.1	40.9	36.4	4.5	31.8	22.7	22.7	4.5	0.0	0.0	0.0
	1～3年 (n=26)	数	6	3	5	6	14	2	1	8	9	1	1	1	1
		%	23.1	11.5	19.2	23.1	53.8	7.7	3.8	30.8	34.6	3.8	3.8	3.8	3.8
	3～5年 (n=33)	数	8	3	0	11	12	6	9	6	13	0	1	3	2
		%	24.2	9.1	0.0	33.3	36.4	18.2	27.3	18.2	39.4	0.0	3.0	9.1	6.1
	5～10年 (n=29)	数	6	3	5	6	13	6	9	12	13	2	0	1	2
	%	20.7	10.3	17.2	20.7	44.8	20.7	31.0	41.4	44.8	6.9	0.0	3.4	6.9	
10～20年 (n=181)	数	51	13	13	55	58	25	49	52	43	11	8	5	8	
	%	28.2	7.2	7.2	30.4	32.0	13.8	27.1	28.7	23.8	6.1	4.4	2.8	4.4	
20年以上 (n=359)	数	141	28	48	106	120	80	96	80	109	10	13	12	4	
	%	39.3	7.8	13.4	29.5	33.4	22.3	26.7	22.3	30.4	2.8	3.6	3.3	1.1	

職名別でみると、次長級・係長・主査級・係員級では「育児休業など制度の条件が整っていないこと」が最も割合が高く、次長級は 52.2%、係長・主査級は 35.9%、係員級は 42.2%となっています。課長級・副参事級では「家族の協力や理解などが得られないこと」が最も割合が、課長級は 44.3%、副参事級は 44.8%となっています。部長級では「家族の協力や理解などが得られないこと」「育児休業など制度の条件が整っていないこと」が最も割合が高く、各 66.7%となっています。主任級では「家族の協力や理解などが得られないこと」「保育施設や介護施設などが整備されていないこと」が最も割合が高く、各 29.1%となっています。

			家族の協力や理解などが得られないこと	女性自身の職業に対する自覚が足りないこと	職場内の配置・昇進などで女性に対する偏見があること	勤務時間が長いこと	育児休業など制度の条件が整っていないこと	病人、高齢者などの看護・介護を女性が担わなければならないこと	男は仕事、女は家庭という社会通念があること	配偶者の仕事の都合(長時間労働・転勤)があること	保育施設や介護施設などが整備されていないこと	その他	わからない	特になし	無回答
職名	部長級 (n=9)	数	6	2	0	1	6	1	2	2	2	0	0	0	0
		%	66.7	22.2	0.0	11.1	66.7	11.1	22.2	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	次長級 (n=23)	数	9	2	3	3	12	5	10	6	10	2	0	0	0
		%	39.1	8.7	13.0	13.0	52.2	21.7	43.5	26.1	43.5	8.7	0.0	0.0	0.0
	課長級 (n=70)	数	31	6	10	22	24	11	17	21	18	1	1	3	2
		%	44.3	8.6	14.3	31.4	34.3	15.7	24.3	30.0	25.7	1.4	1.4	4.3	2.9
	副参事級 (n=58)	数	26	3	5	19	21	18	17	11	18	0	2	1	0
		%	44.8	5.2	8.6	32.8	36.2	31.0	29.3	19.0	31.0	0.0	3.4	1.7	0.0
	主幹級 (n=114)	数	34	12	14	45	31	26	30	25	31	2	1	2	5
		%	29.8	10.5	12.3	39.5	27.2	22.8	26.3	21.9	27.2	1.8	0.9	1.8	4.4
	係長・主査級 (n=131)	数	39	8	18	36	47	25	37	35	34	7	8	3	2
		%	29.8	6.1	13.7	27.5	35.9	19.1	28.2	26.7	26.0	5.3	6.1	2.3	1.5
	主任級 (n=141)	数	41	12	9	40	40	19	35	38	41	11	7	6	7
		%	29.1	8.5	6.4	28.4	28.4	13.5	24.8	27.0	29.1	7.8	5.0	4.3	5.0
	係員級 (n=102)	数	33	9	14	28	43	15	23	25	36	2	4	7	1
		%	32.4	8.8	13.7	27.5	42.2	14.7	22.5	24.5	35.3	2.0	3.9	6.9	1.0

問24 あなたが働いているところでは、次のことについて女性と男性は平等だと思いますか。

職場での男女の地位の平等について聞くと、①～⑨すべてにおいて「平等になっている」が最も割合が高くなっています。その中でも、「⑧教育・研修を受ける機会」が9割を超えています。



□ 女性の方が優遇されている

▣ 平等になっている

▤ 男性の方が優遇されている

□ 無回答

■ どちらかといえば女性の方が優遇されている

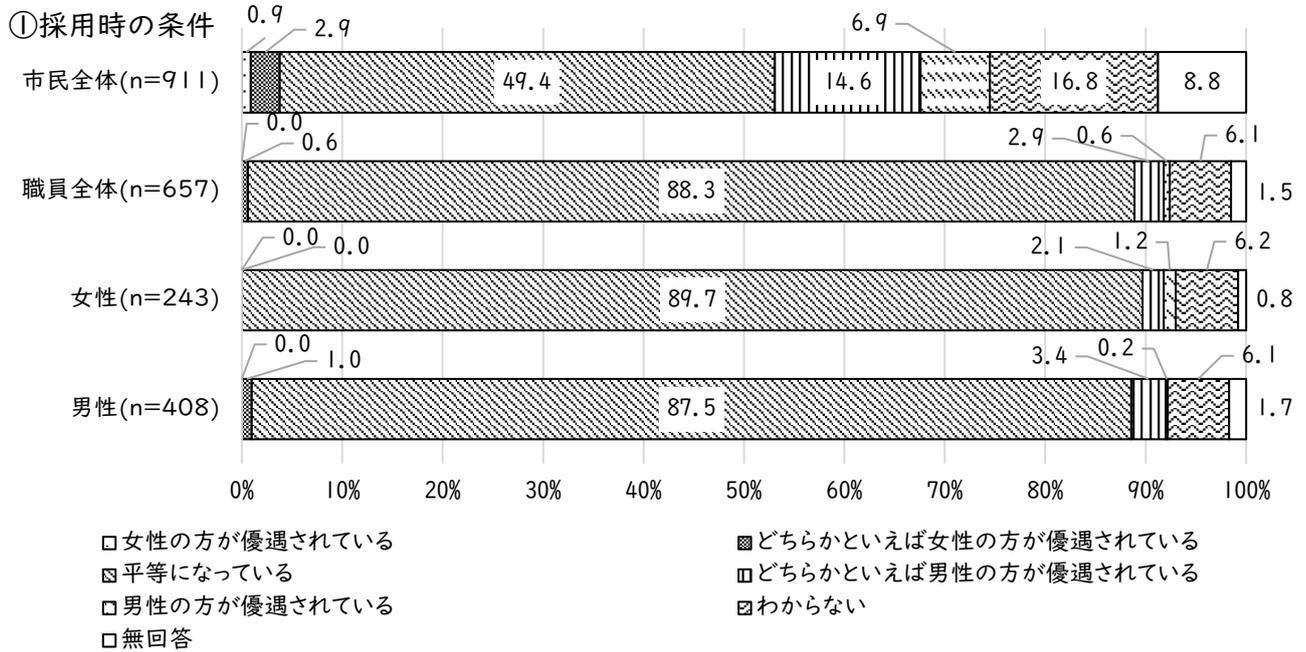
▢ どちらかといえば男性の方が優遇されている

▣ わからない

「①採用時の条件」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員が88.3%と市民49.4%より38.9ポイント高くなっています。

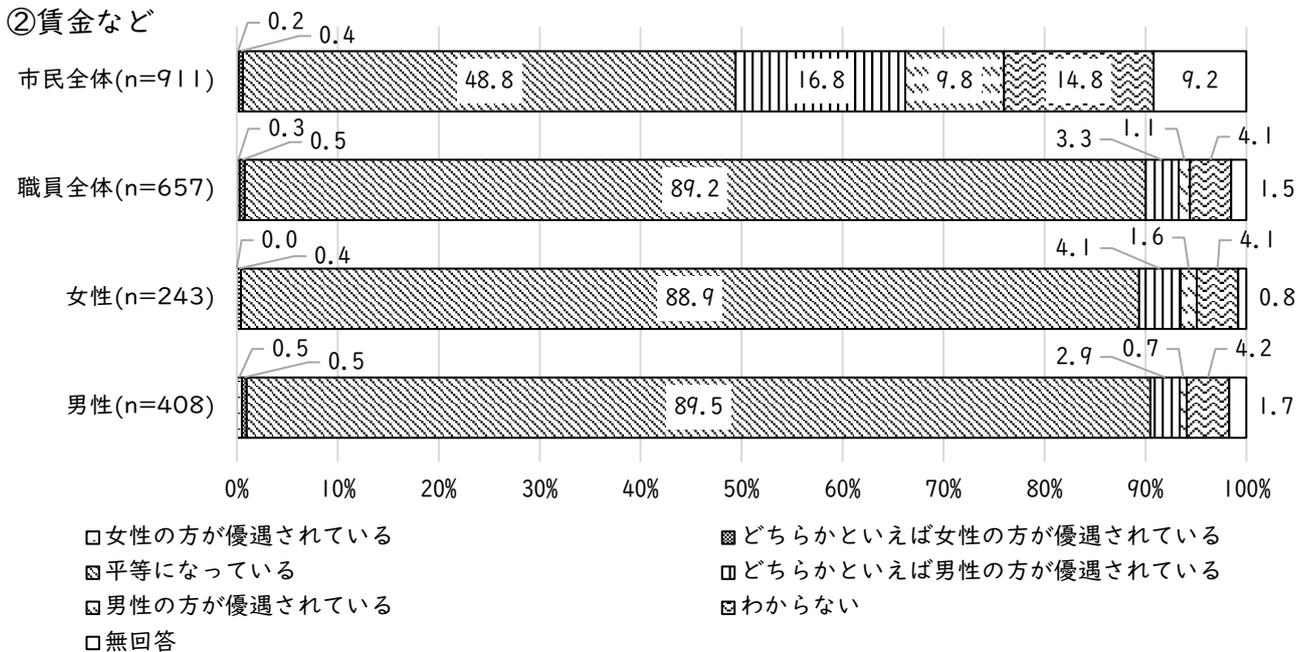
性別では大きな差は見られません。



「②賃金など」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員が89.2%と市民48.8%より40.4ポイント高くなっています。

性別では大きな差は見られません。

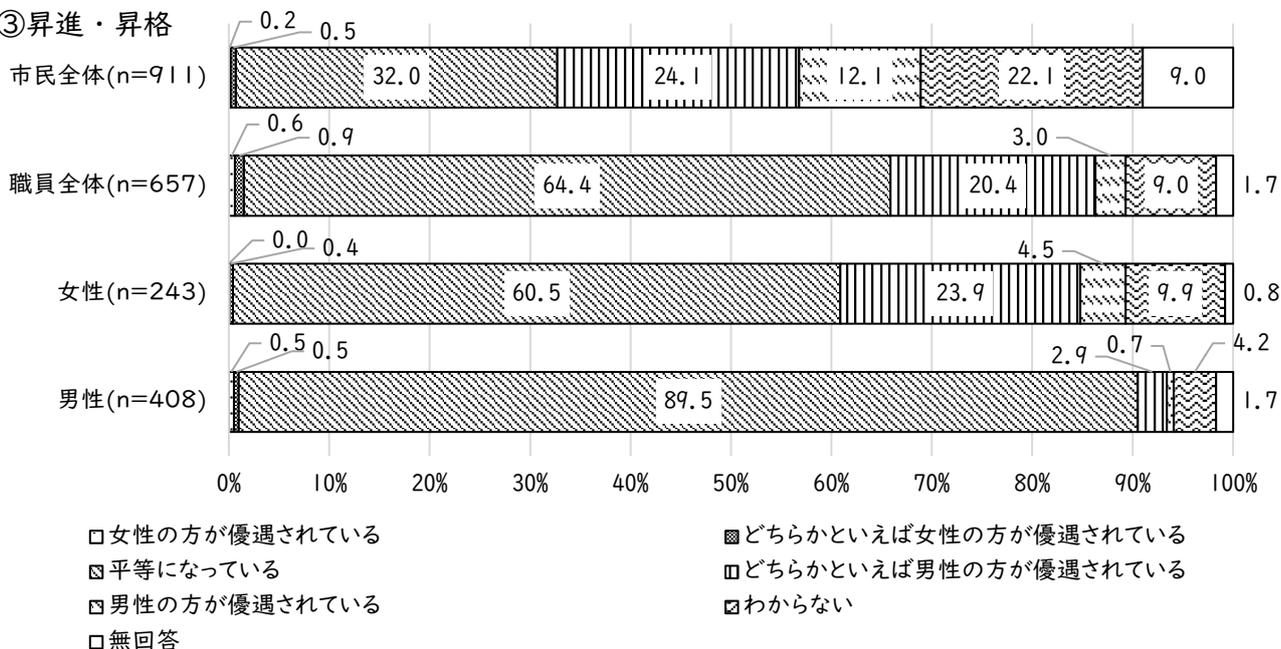


### 「③昇進・昇格」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員が64.4%と市民32.0%より32.4ポイント高くなっています。

性別で見ると、「平等になっている」について、女性は60.5%と男性89.5%より、29.0ポイント低くなっています。

#### ③昇進・昇格

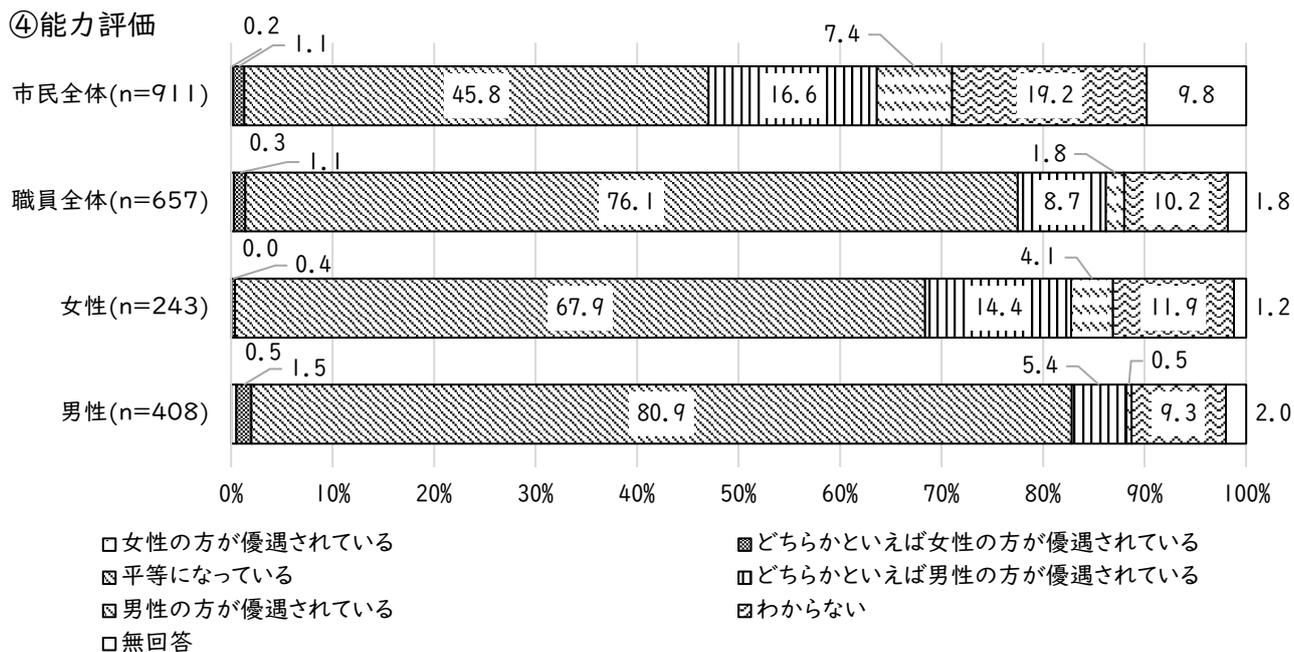


### 「④能力評価」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員全体が76.1%と市民全体45.8%より30.3ポイント高くなっています。

性別で見ると、「平等になっている」について、女性は67.9%と男性80.9%より、13.0ポイント低くなっています。

#### ④能力評価

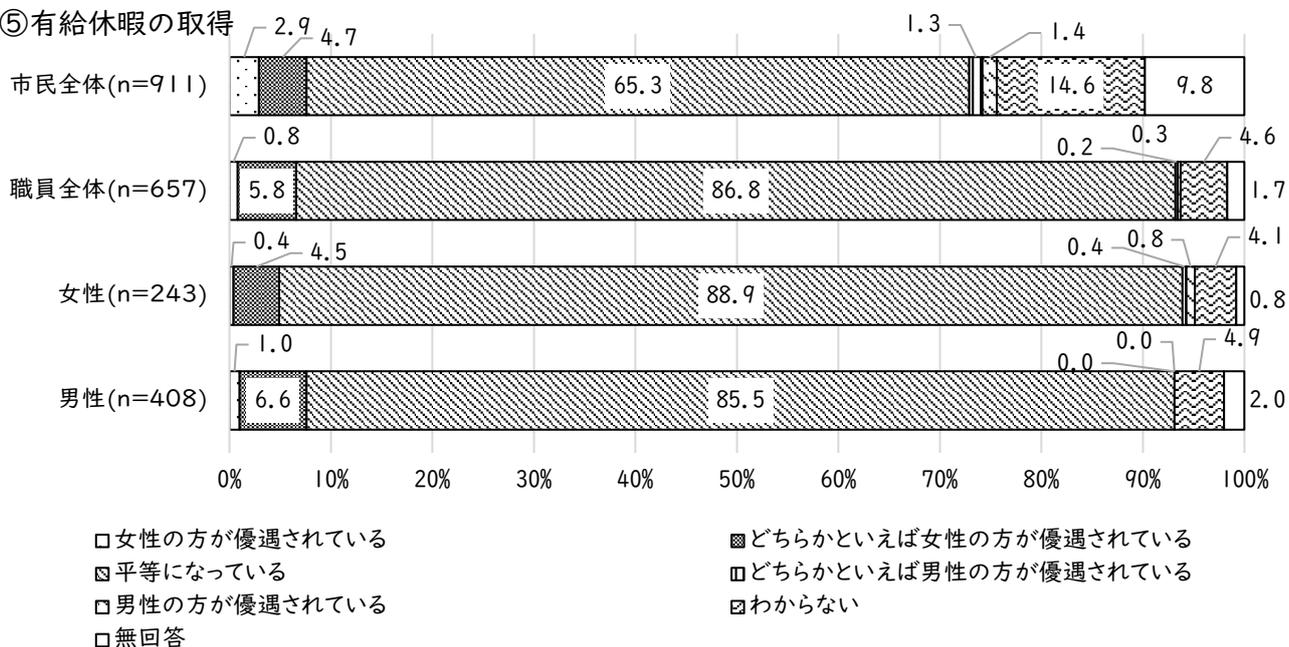


「⑤有給休暇の取得」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員が86.8%と市民65.3%より21.5ポイント高くなっています。

性別では大きな差は見られません。

⑤有給休暇の取得

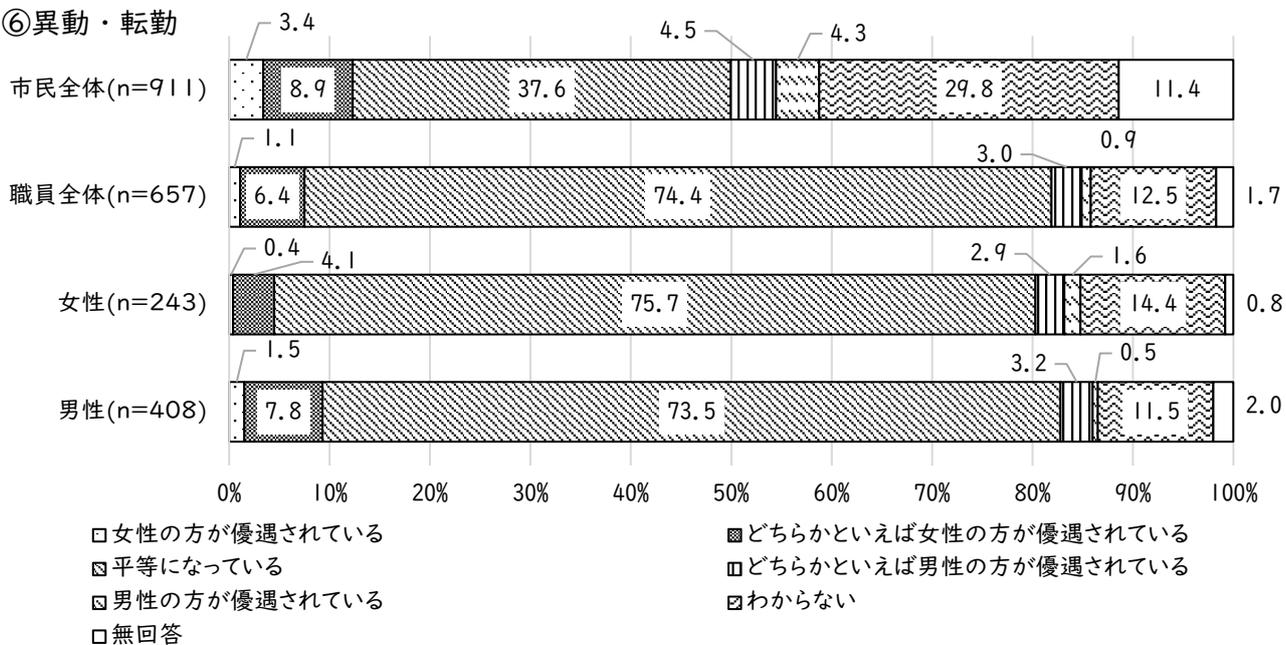


「⑥異動・転勤」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員が74.4%と市民37.6%より36.8ポイント高くなっています。

性別では大きな差は見られません。

⑥異動・転勤

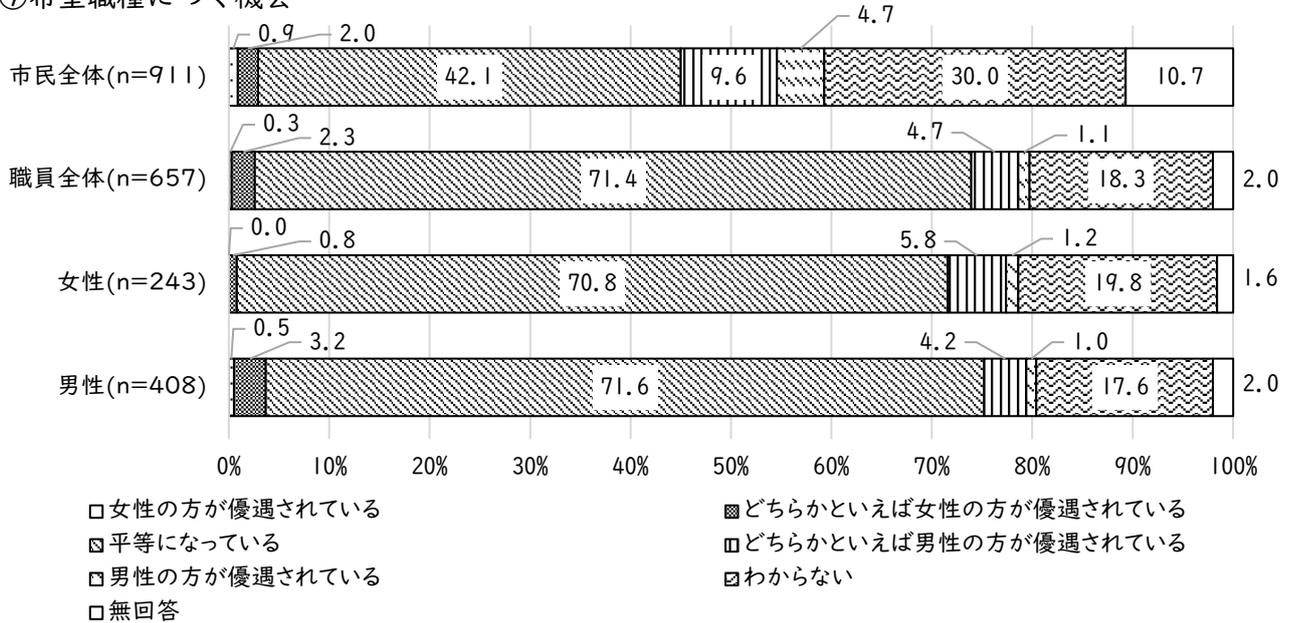


「⑦希望職種につく機会」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員が71.4%と市民42.1%より29.3ポイント高くなっています。

性別では大きな差は見られません。

⑦希望職種につく機会

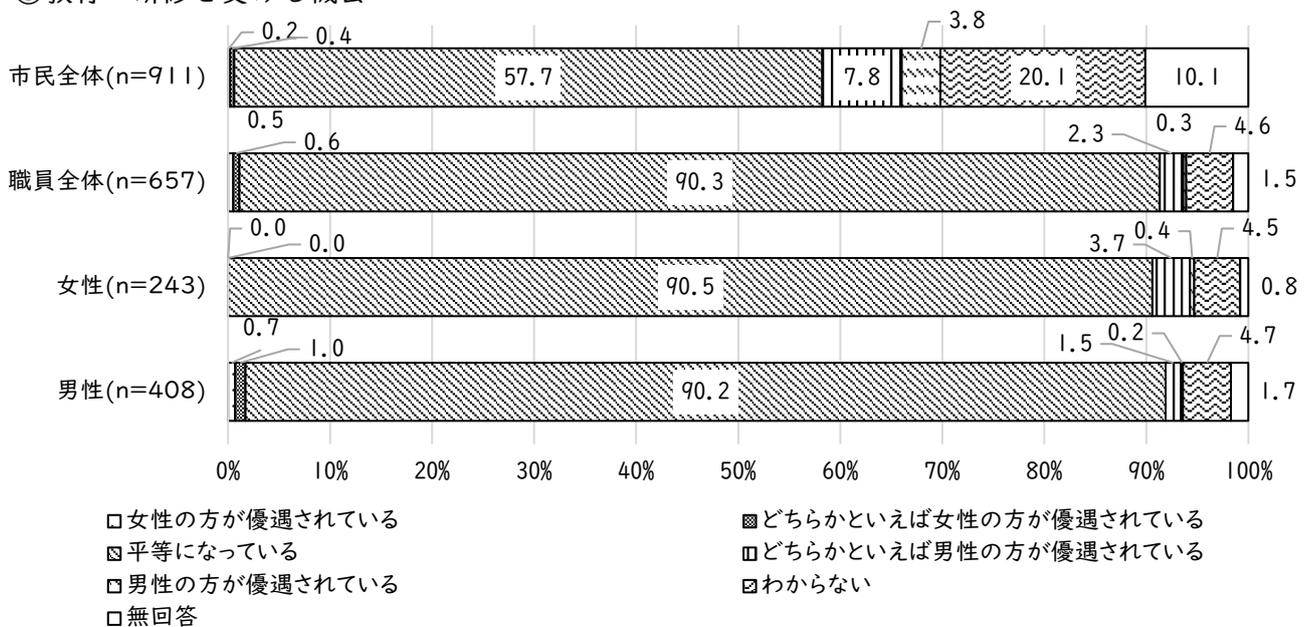


「⑧教育・研修を受ける機会」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員が90.3%と市民57.7%より32.6ポイント高くなっています。

性別では大きな差は見られません。

⑧教育・研修を受ける機会

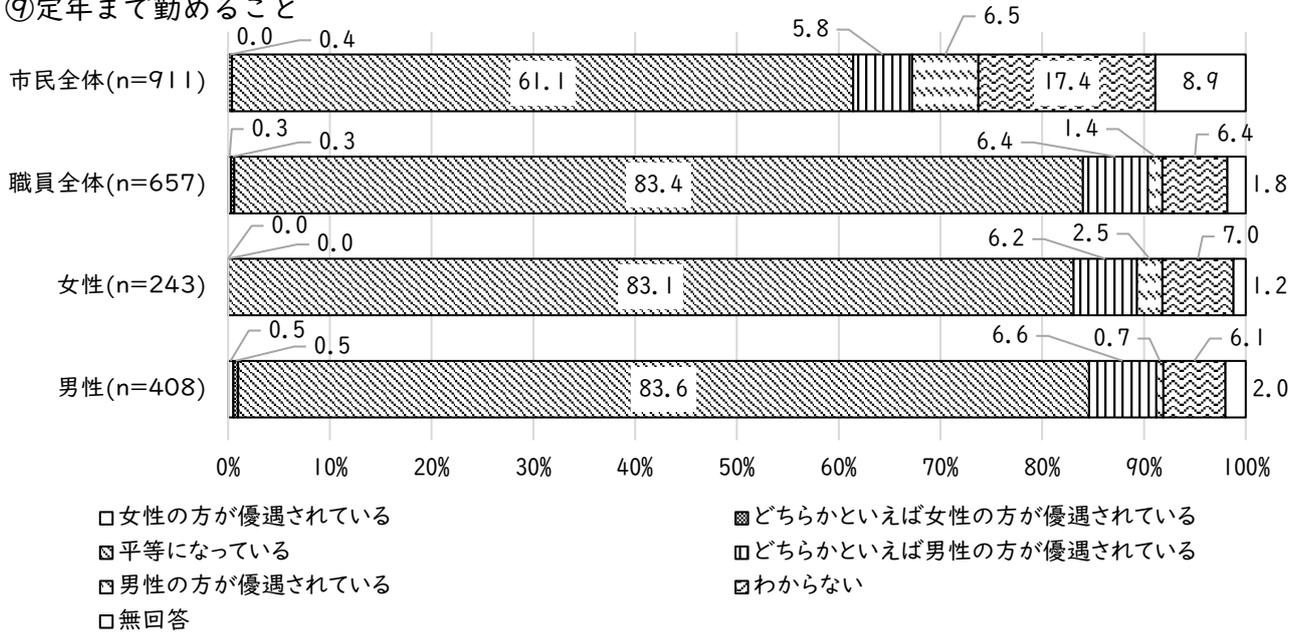


「⑨定年まで勤めること」

市民調査との比較では、「平等になっている」について、職員が83.4%と市民61.1%より22.3ポイント高くなっています。

性別では大きな差は見られません。

⑨定年まで勤めること

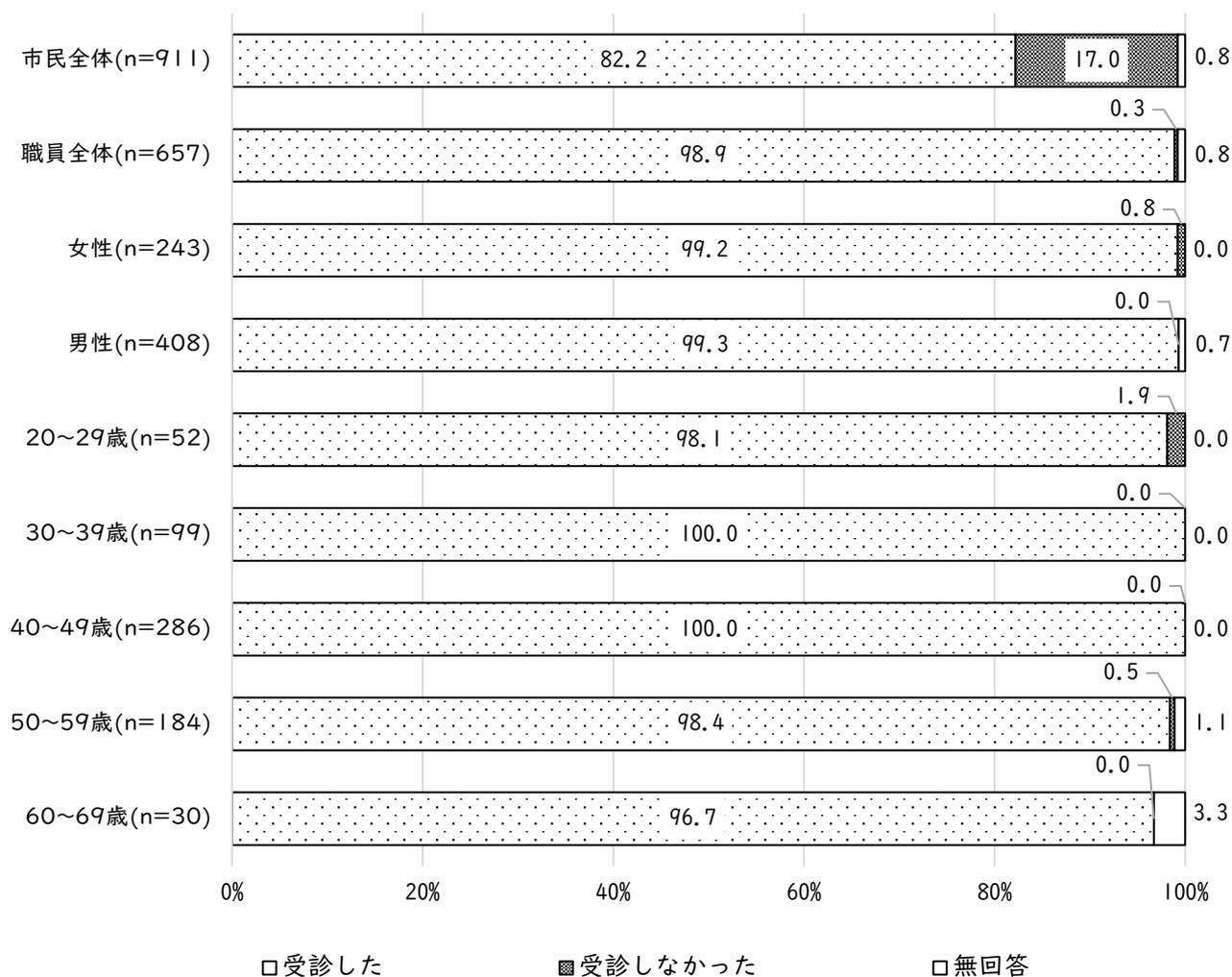


## 6.心とからだについて

問25 あなたは2018(平成30)年度[2018(平成30)年4月~2019(平成31)年3月]の1年間で、健康診断を受診しましたか。

全体では、「受診した」の割合が98.9%、「受診しなかった」のは2人(0.3%)で、20歳代、50歳代のいずれも女性となっています。

市民調査との比較では、「受診した」について、職員は98.9%と市民82.2%より16.7ポイント高くなっています。



問26 問25で「2.受診しなかった」に○印をつけた方におたずねします。なぜ、受診しなかったのですか。(n=2)

受診しなかった2人に理由を聞くと、「その他」となっています。

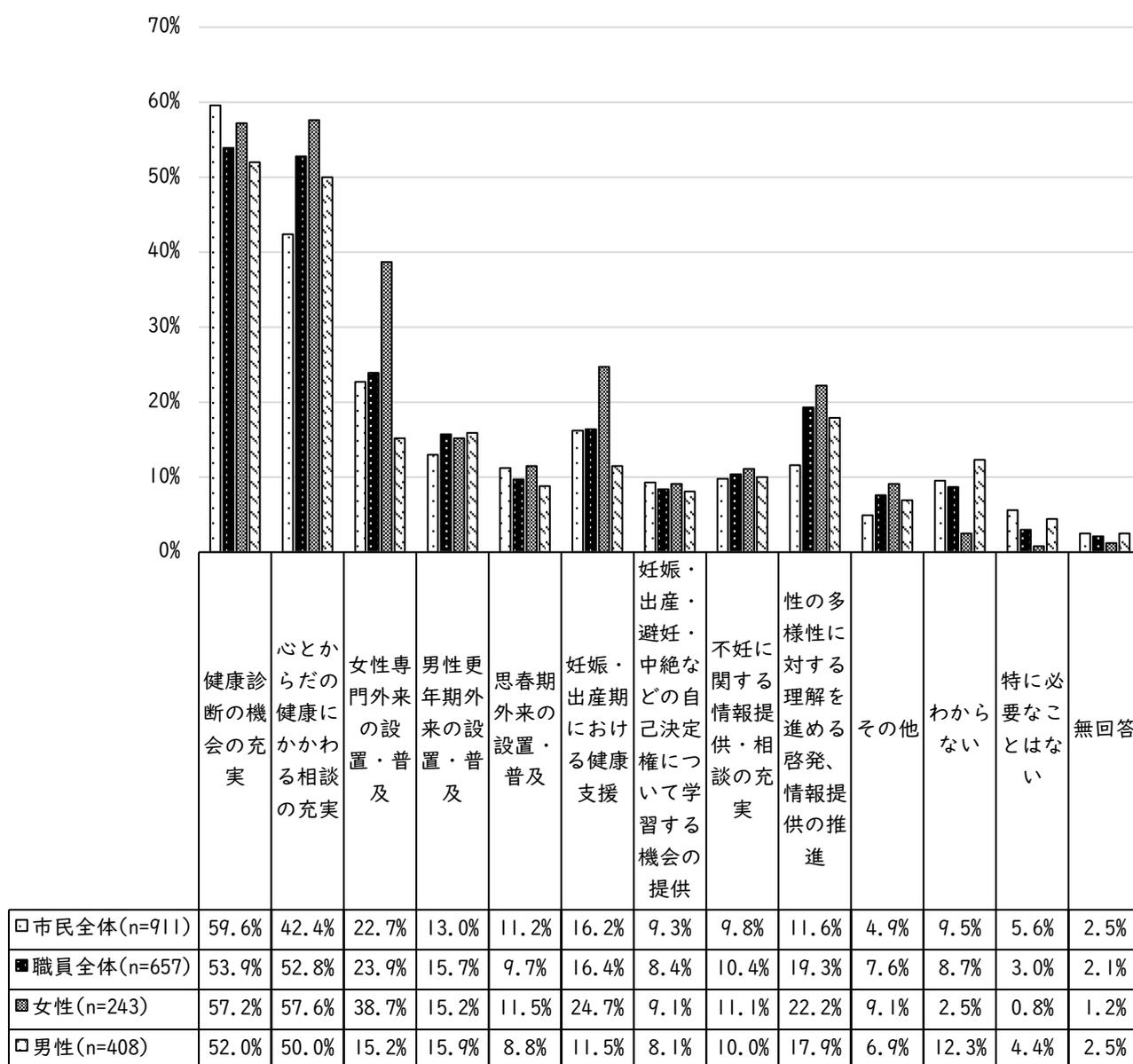
問27 あなたは、心とからだの健康のために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

全体で最も割合が高いのは、「健康診断の機会の充実」が 53.9%、次いで「心とからだの健康にかかわる相談の充実」が 52.8%となっています。

市民調査との比較では、「心とからだの健康にかかわる相談の充実」について職員が 52.8%と市民 42.4%より 10.4 ポイント高くなっています。

性別でみると、女性では「心とからだの健康にかかわる相談の充実」が最も割合が高く 57.6%となっています。男性では「健康診断の機会の充実」が最も割合が高く 52.0%となっています。

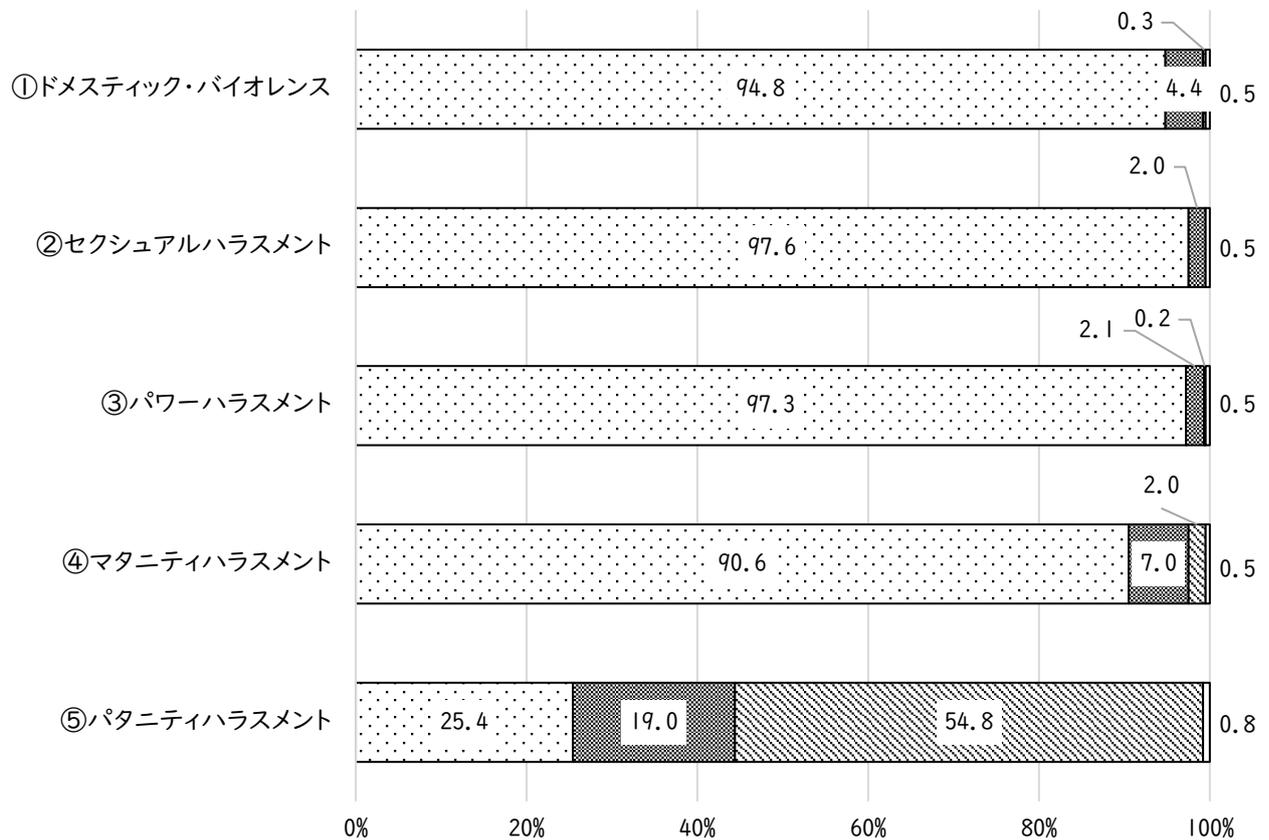
「女性専門外来の設置・普及」について、女性は 38.7%と男性 15.2%より 23.5 ポイント高くなっています。「妊娠・出産期における健康支援」について、女性は 24.7%と男性 11.5%より 13.2 ポイント高くなっています。



## 7.ドメスティック・バイオレンス(配偶者・恋人からの暴力)について

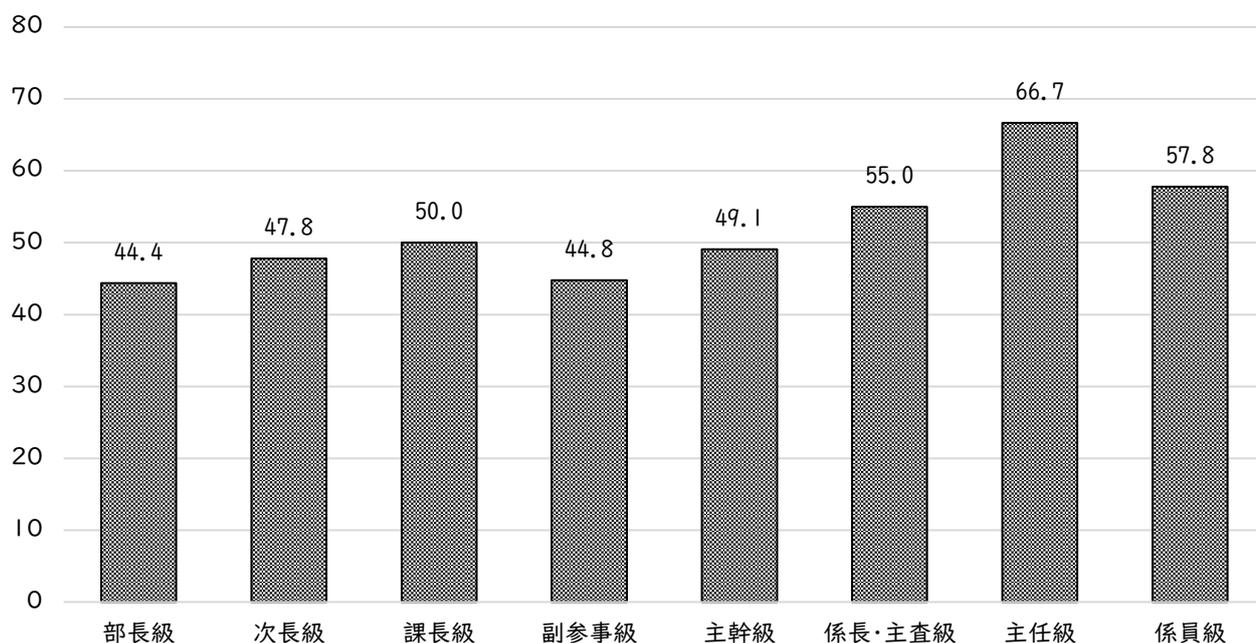
問28 あなたは、次の言葉についてご存じですか。

言葉の認知度について、①～④は「内容を知っている」が最も割合が高く9割を超えています。一方、⑤パタニティハラスメントは、「知らない」が最も割合が高く54.8%となっています。

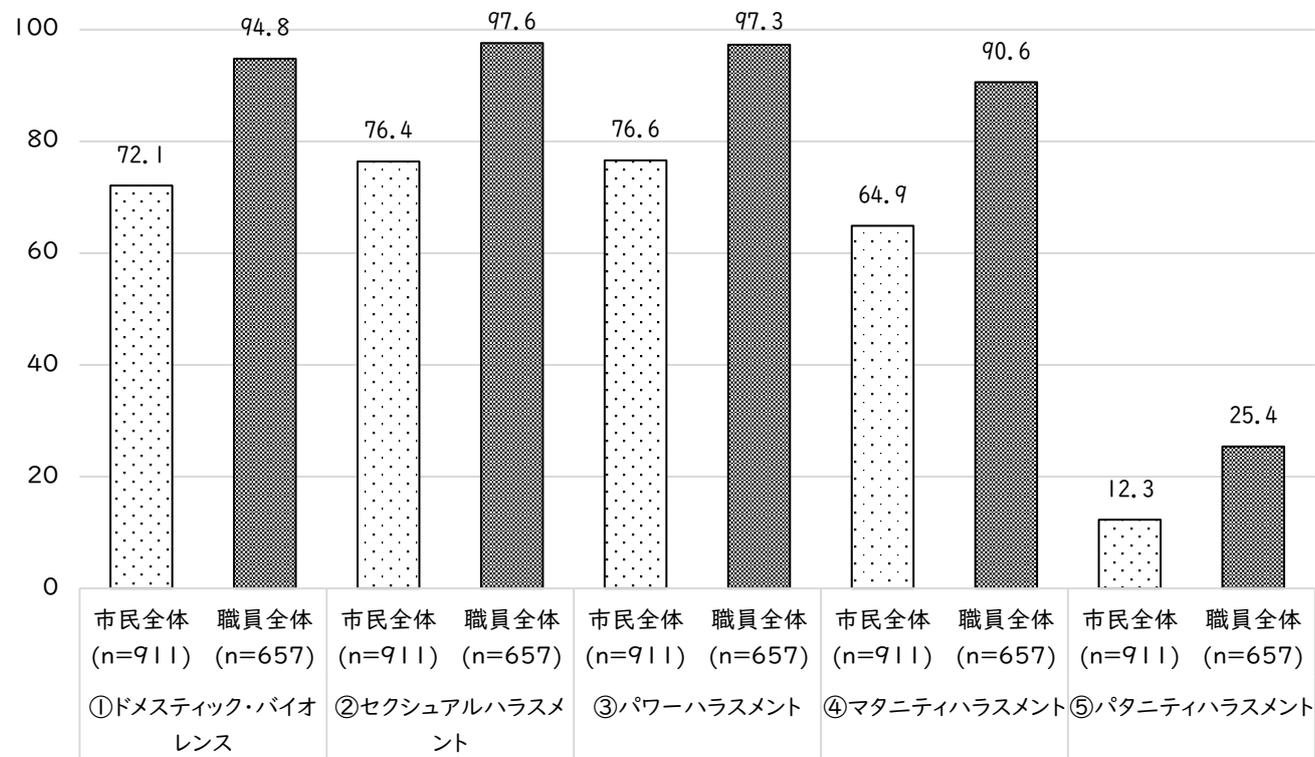


□内容を知っている ■言葉は聞いたことはあるが、内容までは知らない ▨知らない □無回答

①～⑤の項目のなかで「知らない」の割合が最も高かった⑤パタニティハラスメントについて、「知らない」を職名別でみると、主任級が最も割合高く66.7%、次いで係員級が57.8%、係長・主査級が55.0%となっています。



①～⑤の項目で「内容を知っている」のみ市民調査と比較すると、職員が市民よりすべての項目において、認知度が高くなっています。また、①～④の項目については、職員が市民より20ポイント以上認知度が高くなっています。

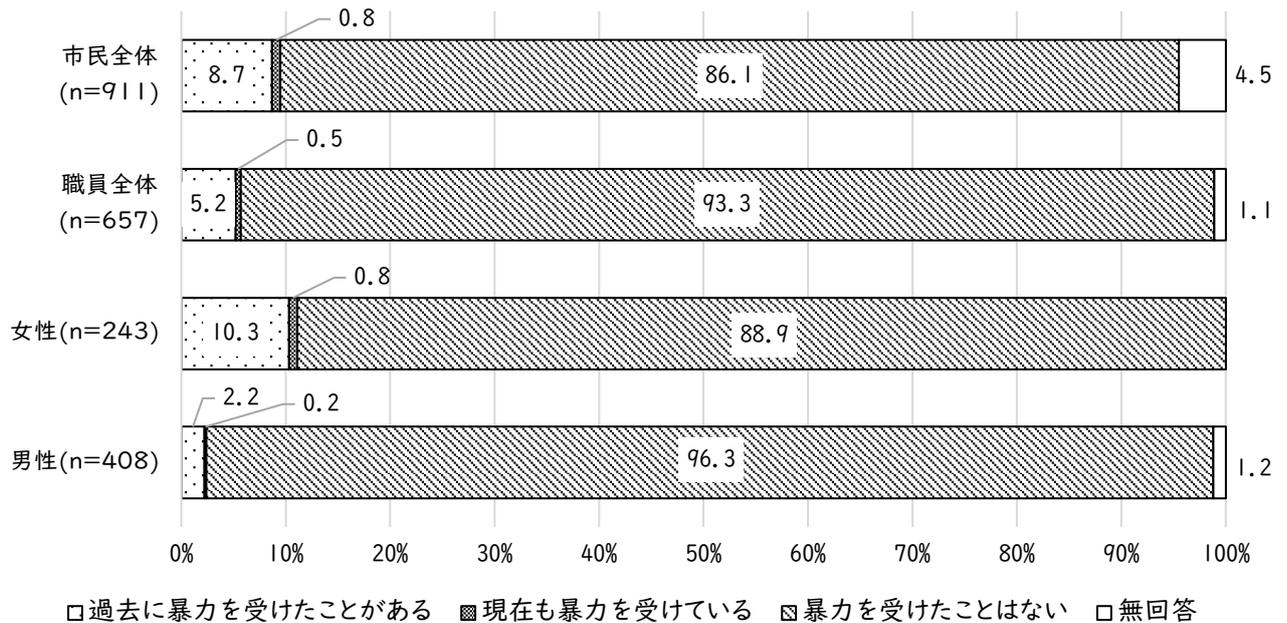


問29 あなたはドメスティック・バイオレンス(配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振られる暴力)を受けた経験がありますか。

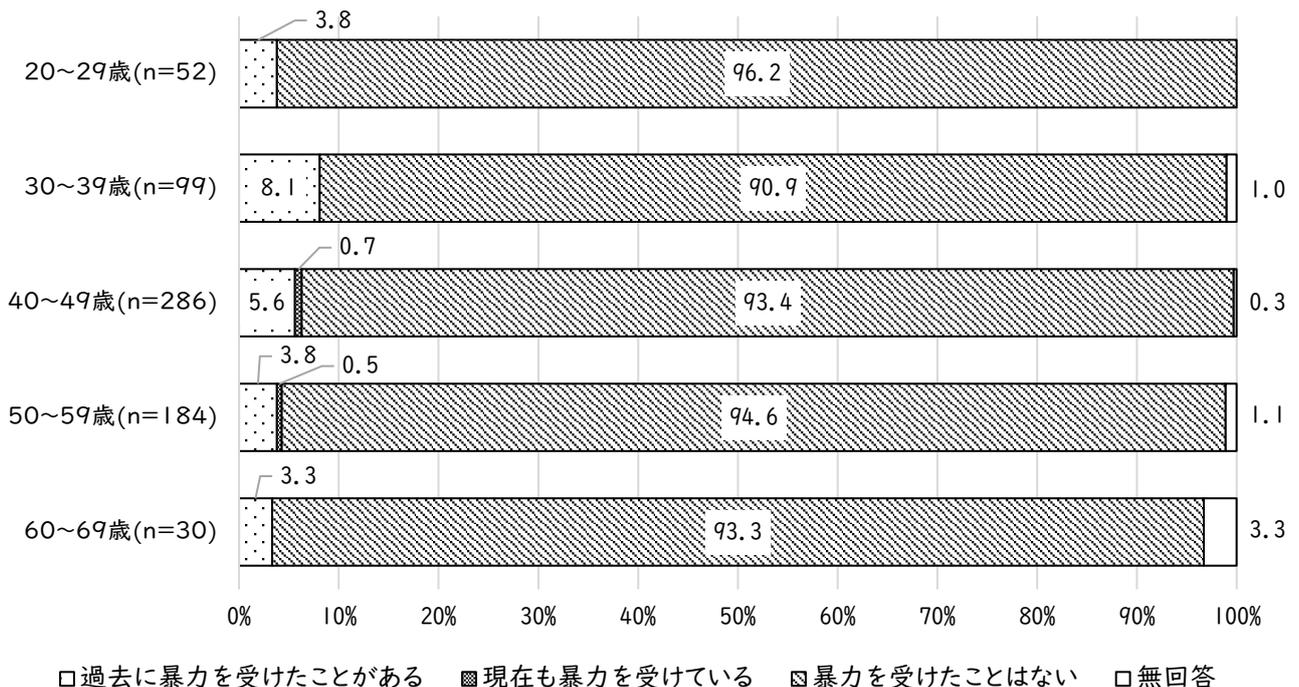
全体で最も割合が高いのは、「暴力を受けたことはない」が93.3%、次いで「過去に暴力を受けたことがある」が5.2%となっています。

市民調査との比較では、「過去に暴力を受けたことがある」について、職員が5.2%と市民8.7%より3.5ポイント低くなっています。

性別でみると、「過去に暴力を受けたことがある」について、女性は10.3%と男性2.2%より、8.1ポイント高くなっています。



年齢別では、すべての年代で「過去に暴力を受けたことがある」との回答があります。その中でも、30歳代が8.1%となっています。

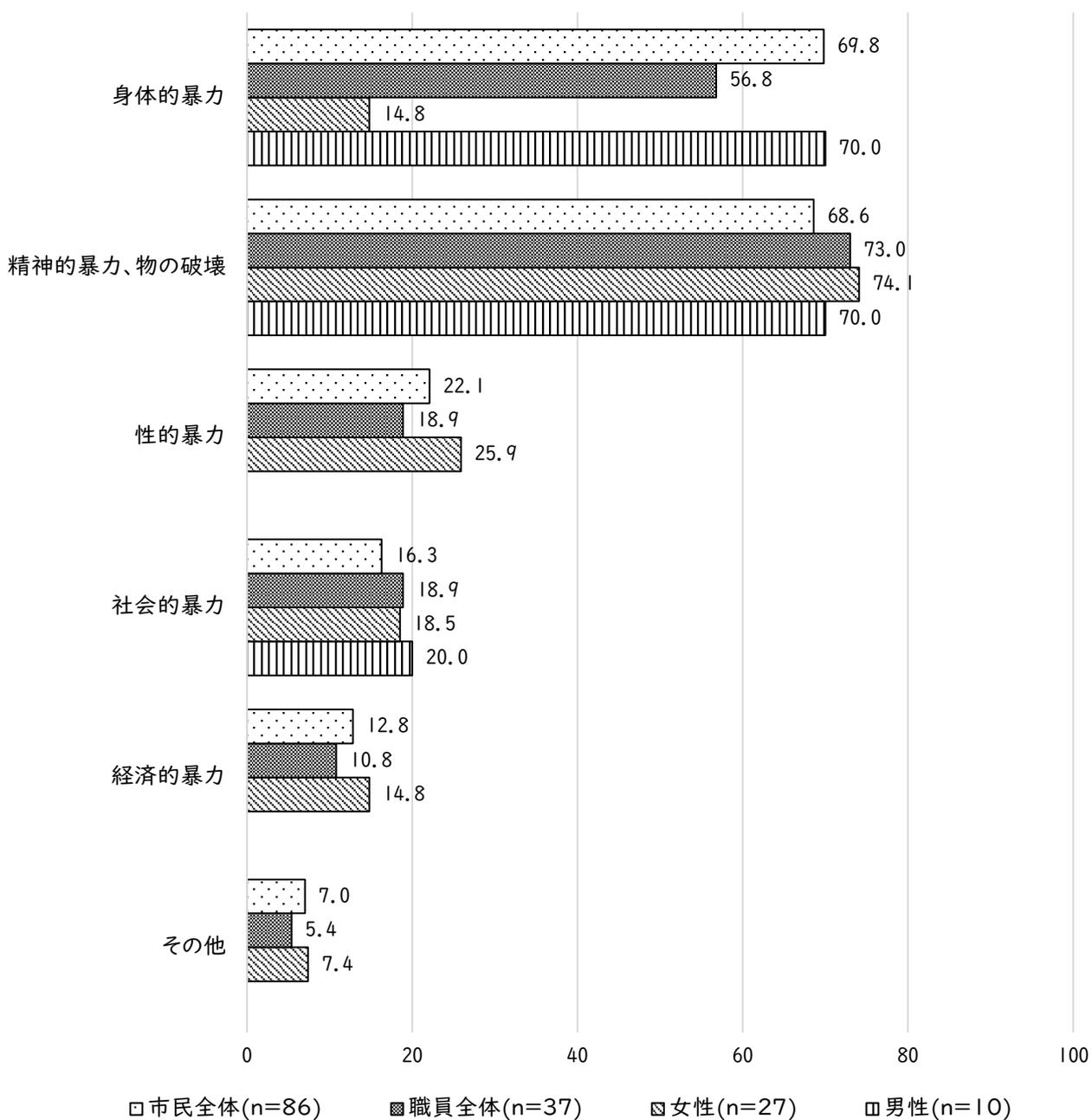


問30 問 29 で「1」または「2」に○印をつけた方におたずねします。あなたは、どんな暴力を受けましたか。(○はいくつでも)(n=37)

「1」または「2」に○印をつけた 37 人(女性 27 人、男性 10 人)に、理由を聞きました。全体で最も割合が高いのは、「精神的暴力、物の破壊」が 73.0%、次いで「身体的暴力」が 56.8%となっています。

市民調査との比較では、「身体的暴力について、職員が 56.8%と市民 69.8%より 13.0 ポイント低くなっています。

性別でみると、女性は「精神的暴力、物の破壊」が 74.1%と最も割合が高くなっています。男性では「身体的暴力」「精神的暴力、物の破壊」が 70.0%と最も割合が高くなっています。また、「性的暴力」と「経済的暴力」は女性のみが被害を受けています。

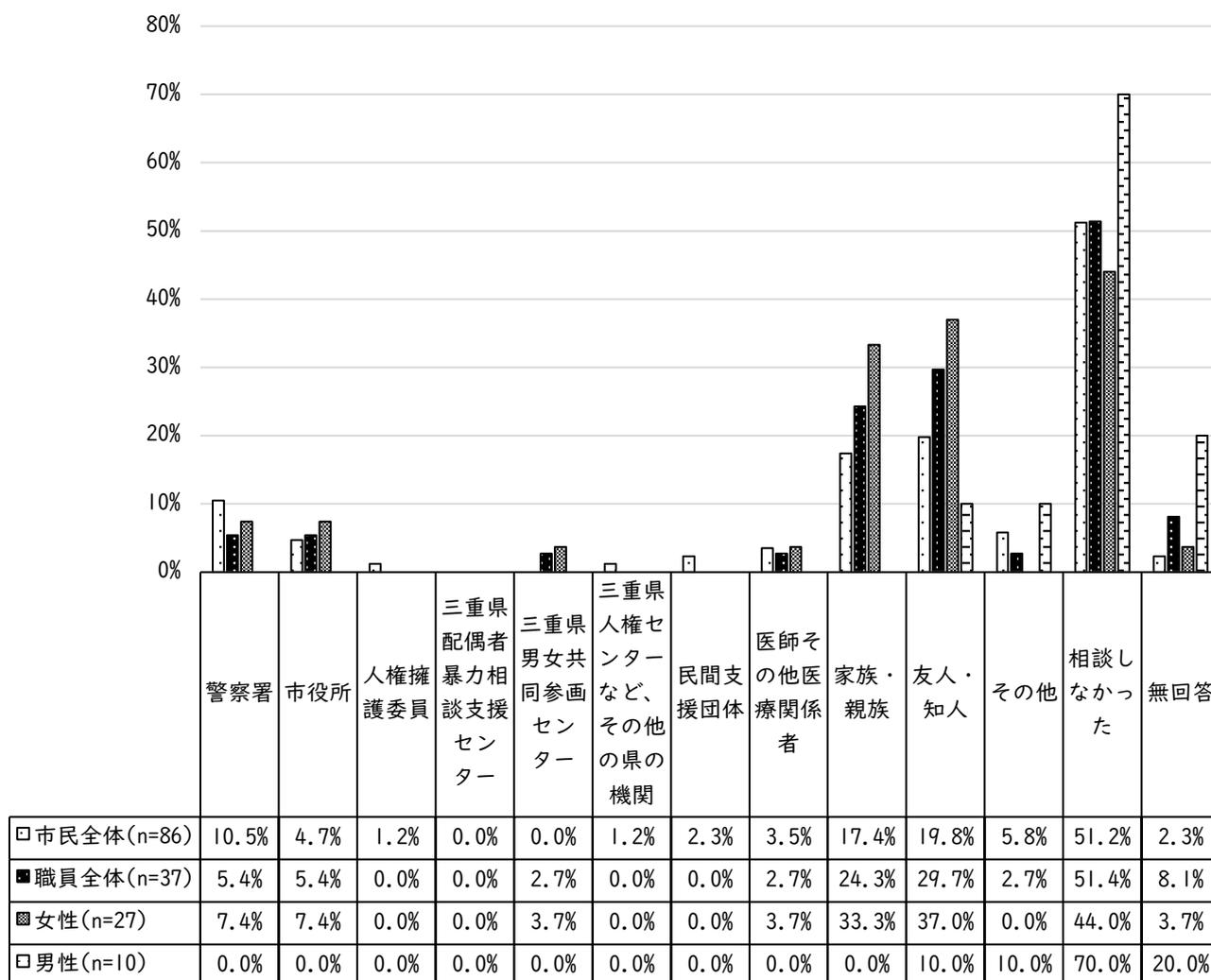


問31 問 29 で「1」または「2」に○印をつけた方におたずねします。あなたは、暴力を受けたとき誰に相談しましたか。(○はいくつでも)(n=37)

全体で最も割合が高いのは、「相談しなかった」が 51.4%、次いで「友人・知人」が 29.7%となっています。

市民調査との比較では、「家族・親族」について、職員は 24.3%と市民 17.4%より、6.9 ポイント高くなっています。また、「友人・知人」について、職員は 29.7%と市民 19.8%より 9.9 ポイント高くなっています。

性別で見ると、女性・男性とも「相談しなかった」が最も割合が高く、女性は 44.0%、男性は 70.0%となっています。「友人・知人」について、女性 37.0%と男性 10.0%より 27.0 ポイント高くなっています。

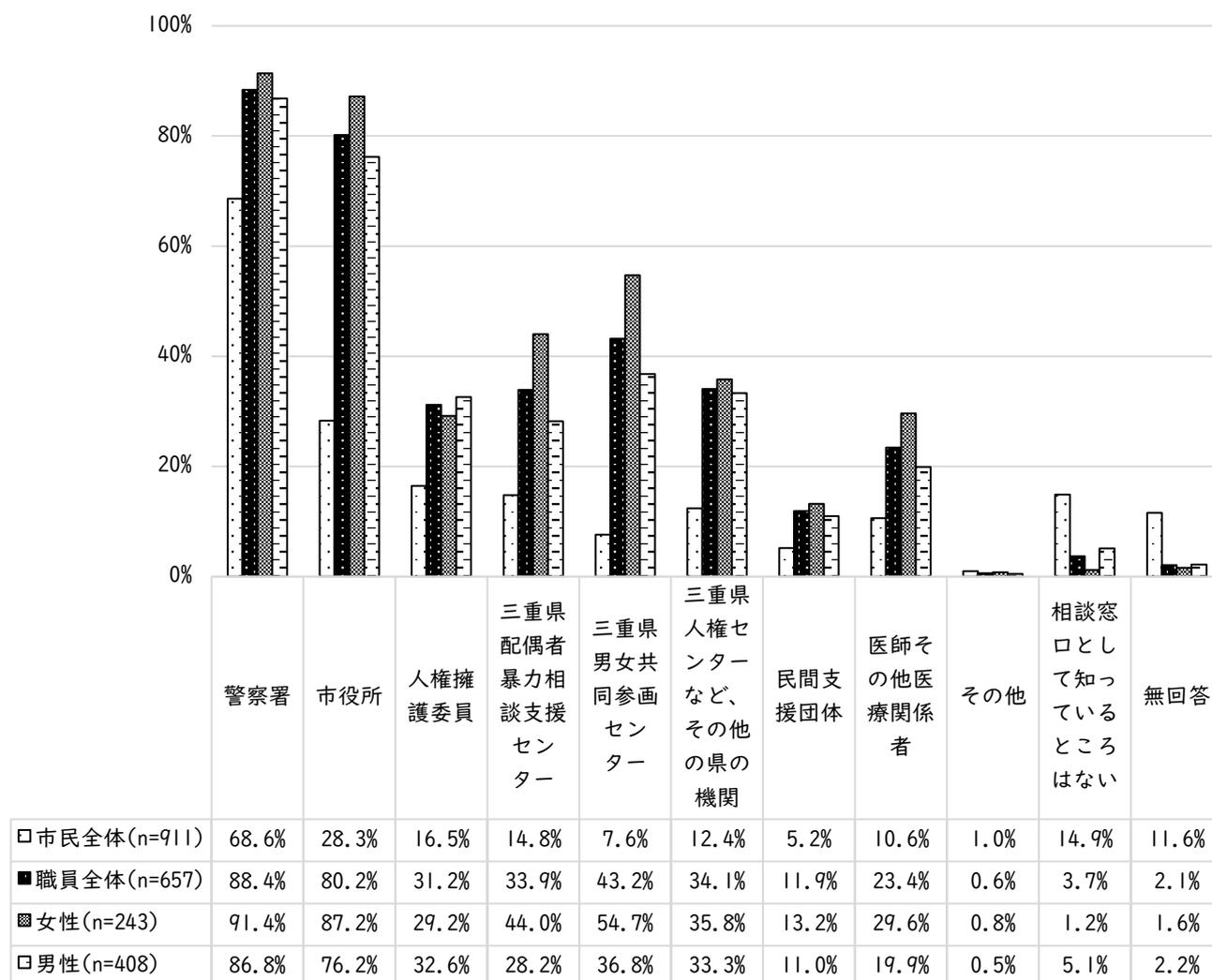


問32 ドメスティック・バイオレンス(配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力)を受けたとき相談できる機関や関係者のうち知っているものを次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

全体で最も割合が高いのは、「警察署」が88.4%、次いで「市役所」が80.2%となっています。

市民調査との比較では、相談できる機関や関係者について、職員の方が市民よりも知っている割合が高くなっています。

性別でみると、女性・男性とも「警察署」が最も割合が高く、女性は91.4%、男性は86.8%となっています。また、「三重県男女共同参画センター」について、女性は54.7%と男性36.8%より、17.9ポイント高くなっています。

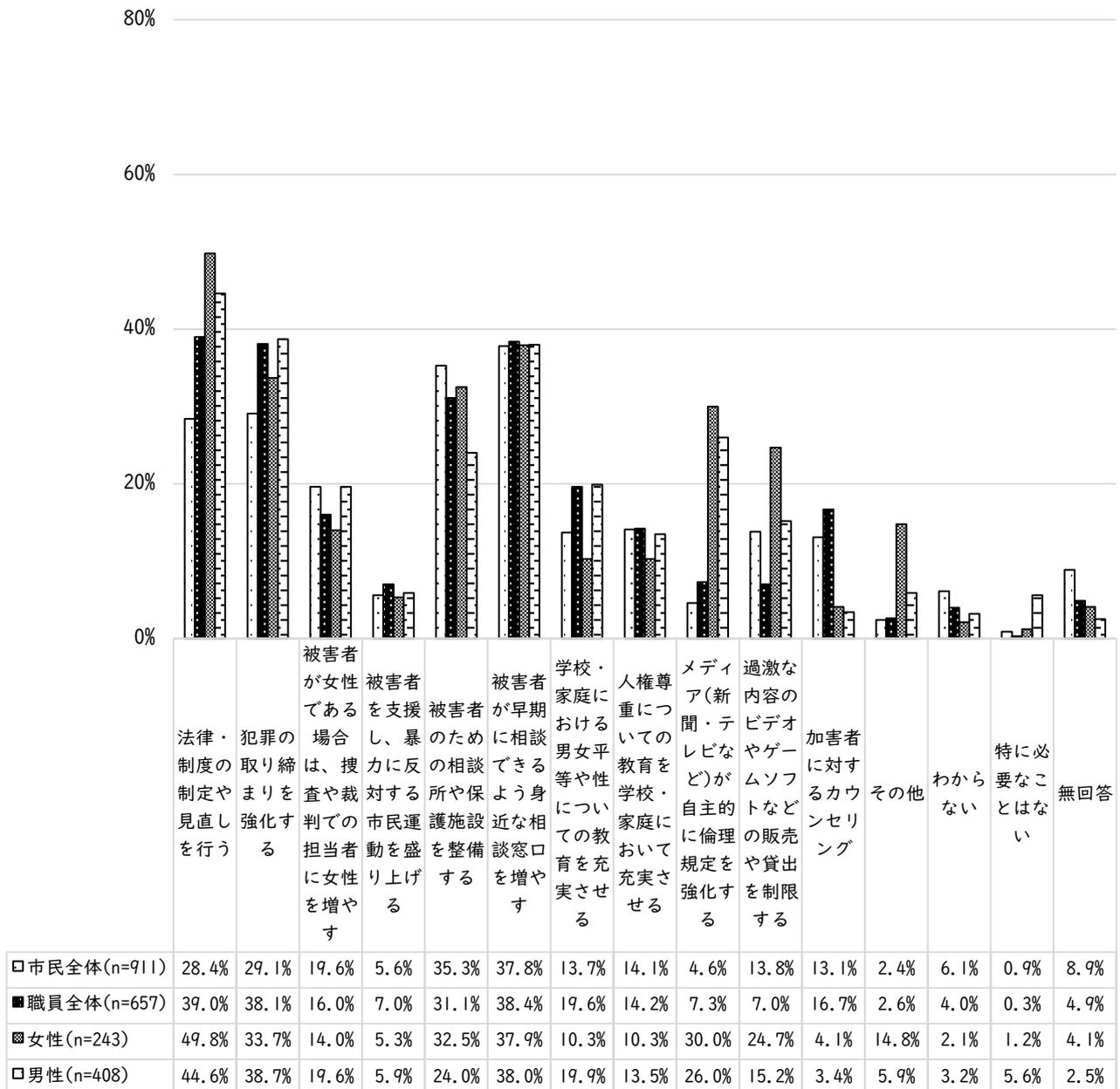


問33 性犯罪や売買春(いわゆる「援助交際」を含む)、ドメスティック・バイオレンス(配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力)などをなくすためにはどうしたらよいと思いますか。(〇は3つまで)

全体で最も割合が高いのは、「法律・制度の制定や見直しを行う」が39.0%、次いで「被害者が早期に相談できるような身近な相談窓口を増やす」が38.4%となっています。

市民調査との比較では、「法律・制度の制定や見直しを行う」について、職員が39.0%と市民28.4%より、10.6ポイント高くなっています。

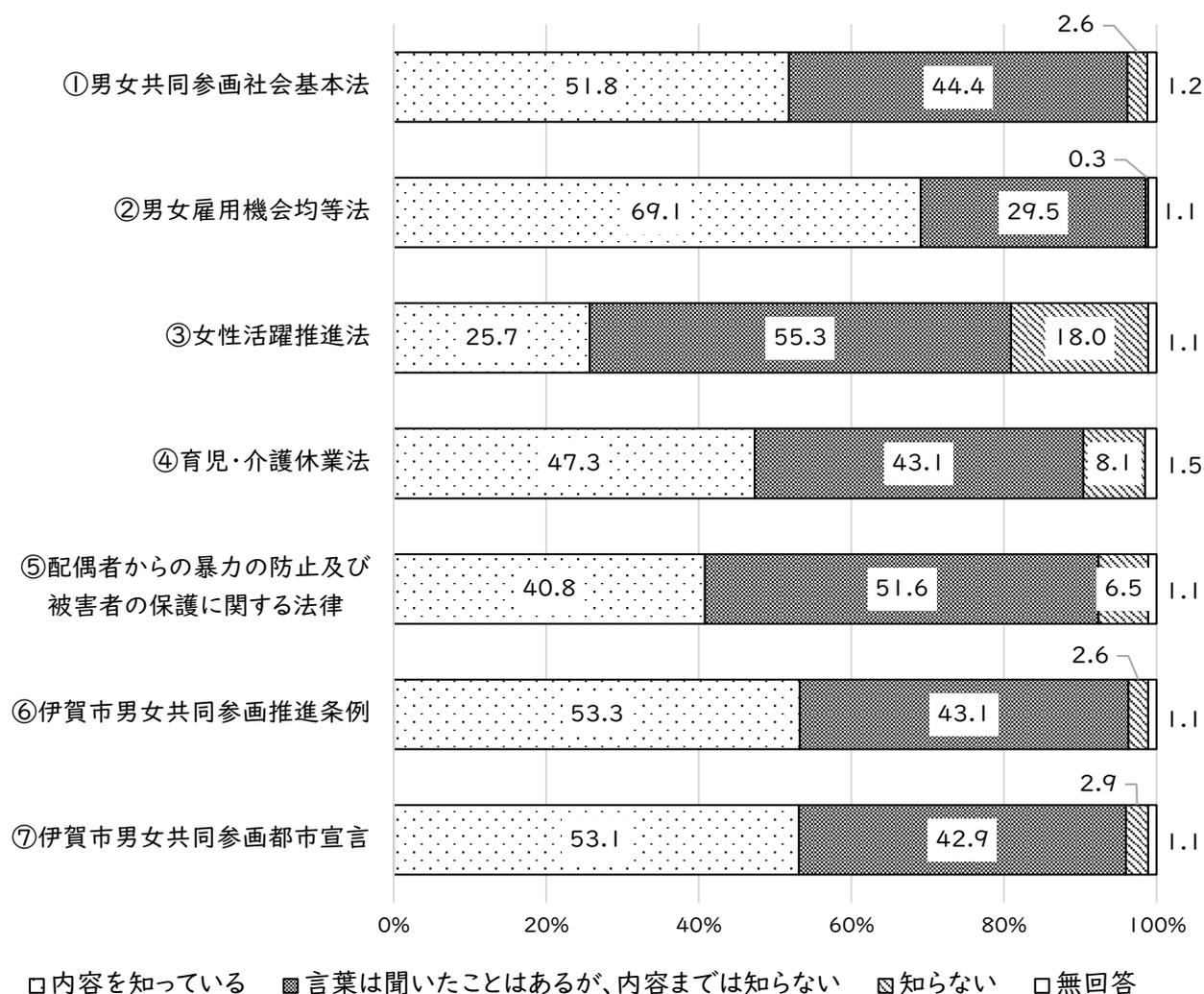
性別でみると、女性・男性とも「法律・制度の制定や見直しを行う」が最も割合が高く、女性は49.8%、男性は44.6%となっています。また「過激な内容のビデオやゲームソフトなどの販売や貸出を制限する」について、女性は24.7%と男性15.2%より、9.5ポイント高くなっています。



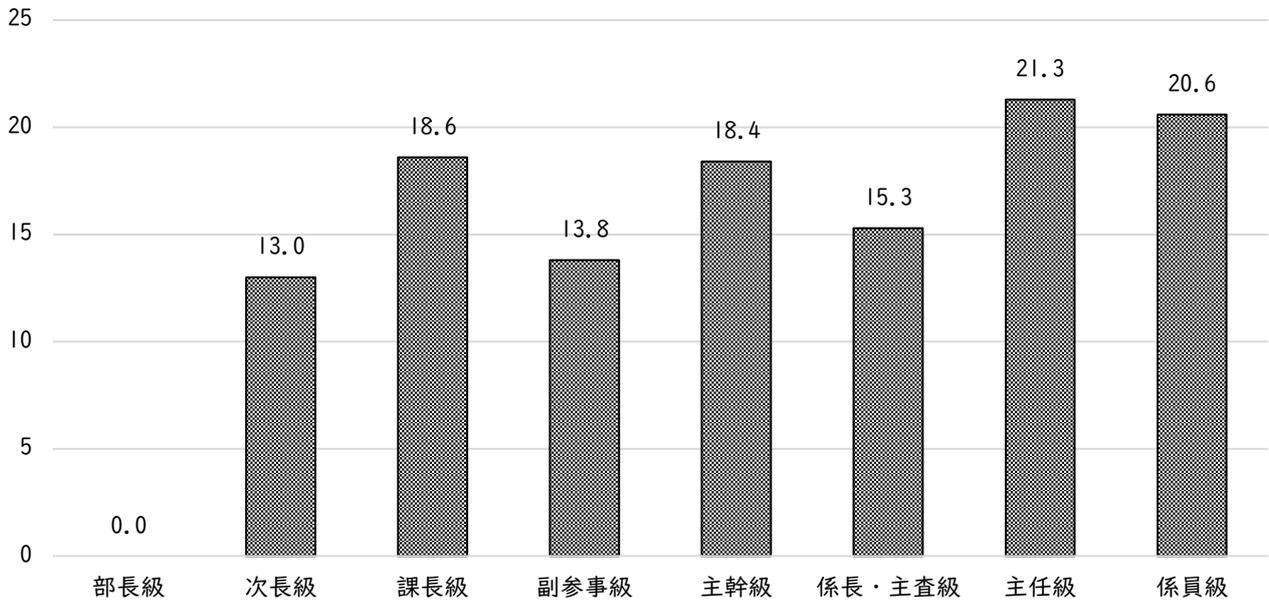
## 8.男女共同参画社会全般について

問34 あなたは、次の法律などについてご存じですか。

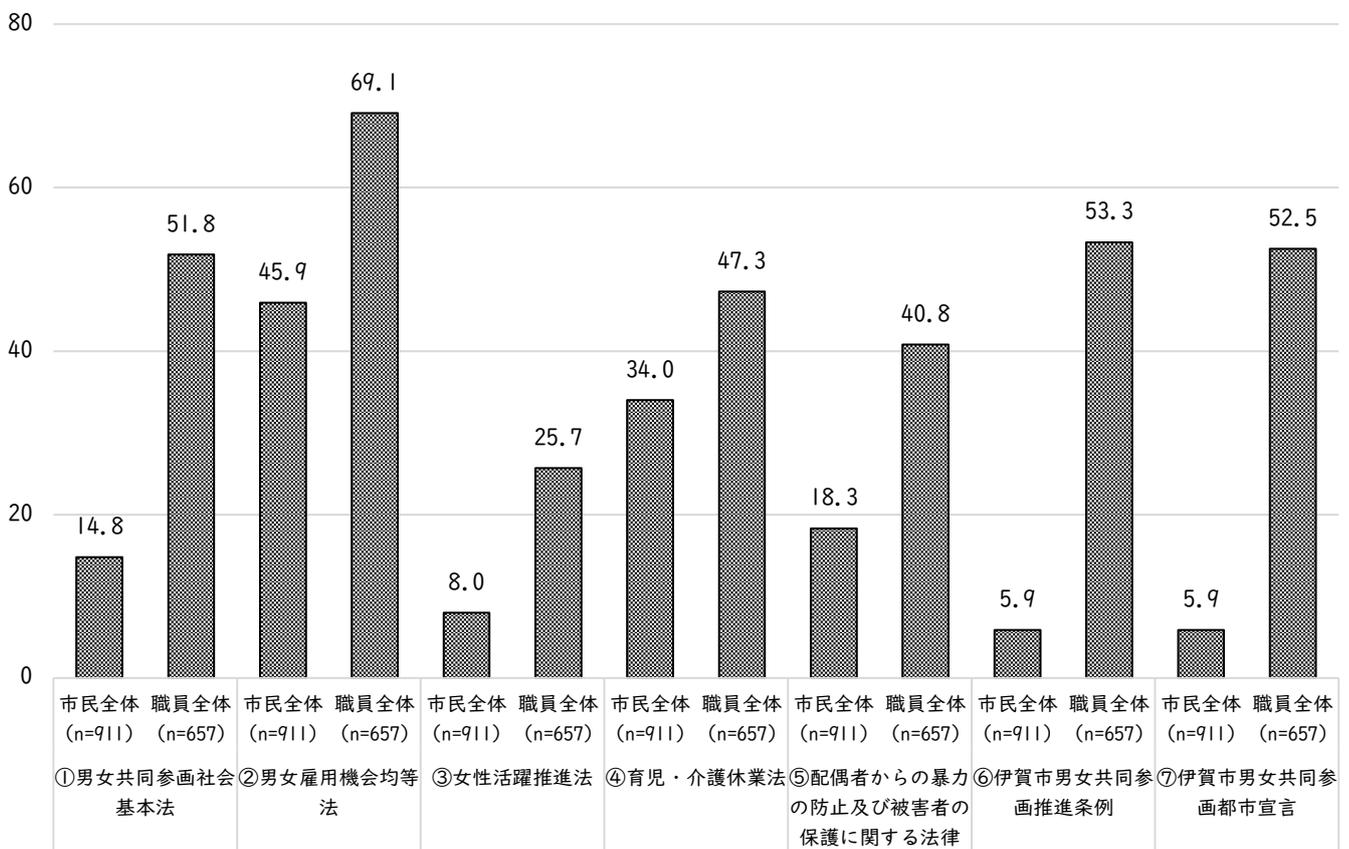
法律の認知度について、②男女雇用機会均等法は「内容を知っている」が最も割合が高く、69.1%となっています。一方、③女性活躍推進法は「知らない」が最も割合が高く、18.0%となっています。



①～⑦の項目のなかで「知らない」の割合が最も高かった③女性活躍推進法について、「知らない」を職名別で見ると、主任級が最も割合が高く21.3%、次いで係員級が20.6%、課長級が18.6%となっています。

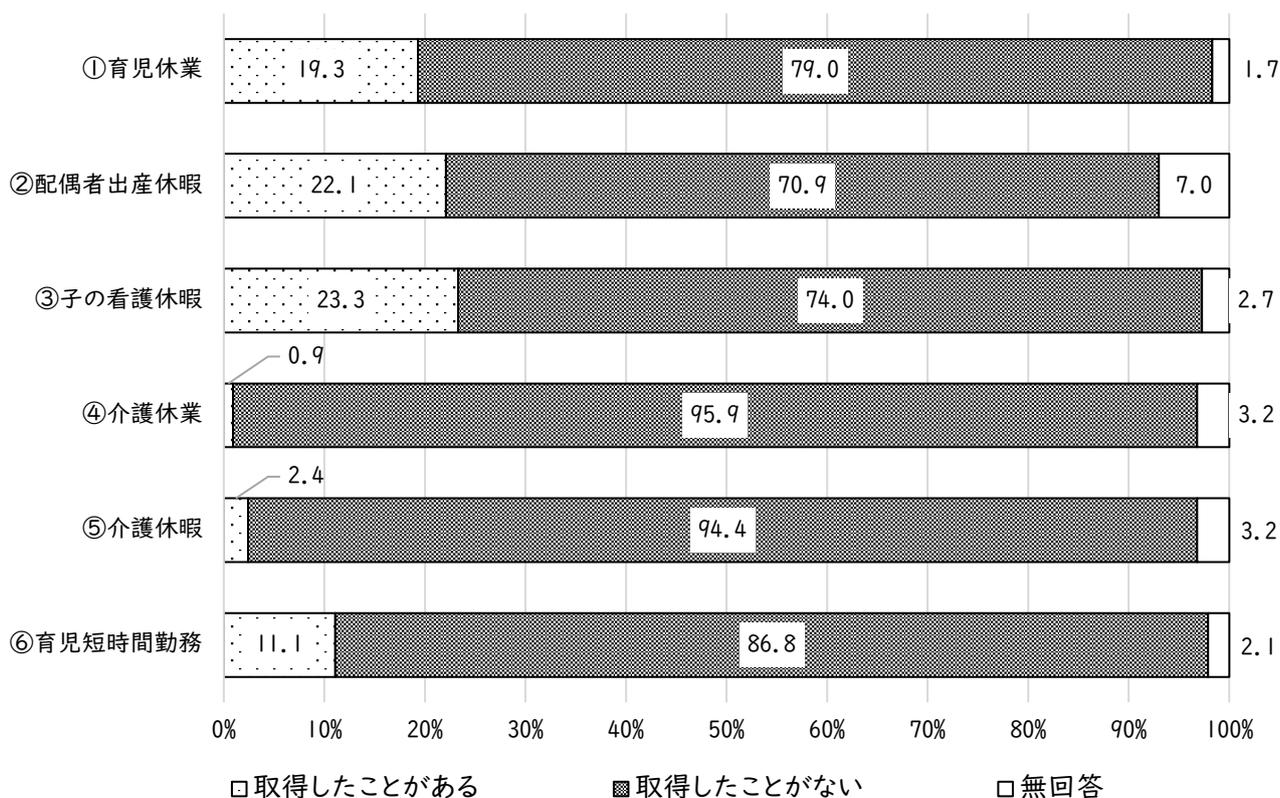


①～⑦の項目で「内容を知っている」のみ市民調査と比較すると、職員が市民よりすべての項目において、認知度が高くなっています。また、⑥⑦の項目については、職員が市民より40ポイント以上認知度が高くなっています。

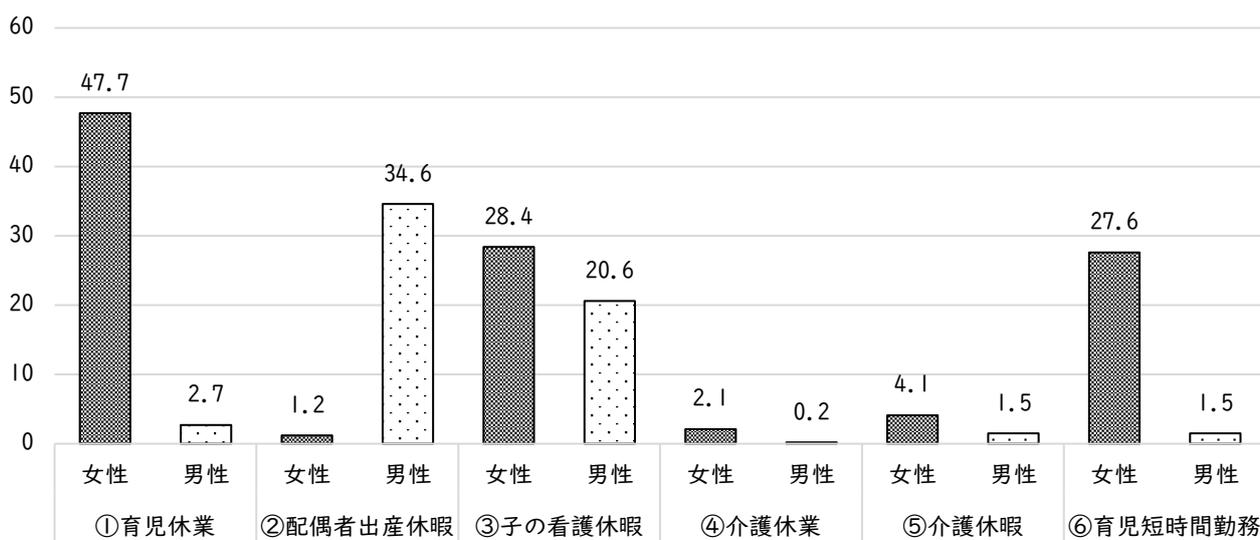


問35 あなたは、次の休暇・休業を取得したことがありますか。

休暇・休業を取得について、①～③は、「取得したことがある」が約2割となっています。また④～⑥は、「取得したことがない」が8～9割となっています。



「取得したことがある」を性別でみると、①育児休業について、女性は47.7%と男性2.7%より45.0ポイント高くなっています。また、③子の看護休暇、⑥育児短時間勤務の取得についても男性より女性のほうが高くなっています。



問35-1 問35で「①育児休業」および「④介護休業」いずれかを取得したことがある」に○印をつけた方におたずねします。それぞれの取得した期間はどれくらいですか。(記述)

①育児休業「取得したことがある」127名の内、122名が期間を記述、5名は無回答  
最も多く記述のあった期間は1年、次いで2年となっています。

期間	～6か月	6か月 ～1年	1年 ～1年6か月	1年6か月 ～2年	2年 ～2年6か月	2年6か月 ～3年
回	14	50	26	16	15	7

④介護休業「取得したことがある」6名の内、5名が期間を記述、1名は無回答  
最も多く記述のあった期間は1年となっています。

期間	～1週間	1週間 ～1か月	1か月 ～6か月	6か月 ～1年
回	2	1	0	2

問36 男女共同参画を推進していくために今後、伊賀市ではどのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。(〇は3つまで)

全体で最も割合が高いのは、「男女が共に家庭生活と仕事やその他の活動が両立できるような支援策を充実する」が43.8%、次いで「学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が36.7%となっています。

市民調査との比較では、「男女が共に家庭生活と仕事やその他の活動が両立できるような支援策を充実する」について、職員が43.8%と市民31.4%より12.4ポイント高くなっています。

性別でみると、女性・男性とも「男女が共に家庭生活と仕事やその他の活動が両立できるような支援策を充実する」が最も割合が高くなっています。また、「保育、介護の施設やサービスを充実する」について、女性は42.0%と男性20.1%より、21.9ポイント高くなっています。

